

文書課ヨリ各遞信管理局へ通牒二十年十二月二十四日
 令般第三十三號ヲ以テ遞信管理局分課章程準則改定ノ備訓示相成候處右ハ本年四月二十七日付ヲ以テ
 及御通知候通り各局ノ都合ニヨリ便宜各課ヲ分割併相成候モ不苦儀ニハ候へ共今同ノ改正タル要ス
 ルニ工務課ヲ置キ建築長ヲ以テ同課長ニ充テントスルノ趣意任官ヲ課長トシテ建築長ヲ課長トシテ主官ト
 スニ出タル備ニ付工務課ハ便宜分合難相成儀ニ候條右御了知ノ上至急處務細則改正ノ儀御開申可有之
 此段及御通牒候也

郵便局郵便受取所事務
 受渡規則ヲ定ム

二十年一月遞信省公達第
 十號ヲ以テ郵便受取所事務
 ノ事務受渡規則ヲ定ム

驛遞局達 十九年二月八日
 甲第三十二號 郵便局(官吏ヲ特派セル郵便局ヲ除ク)郵便受取所
 郵便局郵便受取所事務受渡規則左ノ通相定メ本月十五日ヨリ施行ス
 但從前ノ達及指令中本則ニ抵觸セルモノハ本則施行ノ日ヨリ總テ廢止ス
 右相達候事

郵便局郵便受取所事務受渡規則

- 第一條 郵便取扱役變更又ハ郵便局郵便受取所廢止ノ節ハ此規則ニ依リ事務ノ受渡ヲナスヘシ
 但郵便局郵便受取所廢止ノ際事務ノ引繼ヲナスヘキ郵便局ハ其時々之ヲ指定スヘシ
- 第二條 事務ノ受渡ハ任免又ハ廢止ノ達ヲ受ケタル日ヨリ三日以内ニ之ヲナスヘシ
- 第三條 前條ノ日限内受渡ヲナス能ハサルトキハ其事由ヲ具シ驛遞出張局長(本局直轄ハ本局以下驛遞
 ノ認可ヲ受ケヘシ) 田張局トアルモノ皆同シ
- 第四條 諸書類物品等ハ第一書式經費ノ殘金ハ第二書式ノ引繼書ヲ添へ受渡ヲナスヘシ
- 第五條 願同等ノ指令未済及ヒ本局又ハ驛遞出張局ノ達ニ依リ取調ヲ要スル事件ハ總テ其書類ニ理由
 書ヲ添へ受渡ヲナスヘシ
- 第六條 郵便局郵便受取所廢止ノ際ハ經費ノ殘餘金ハ驛遞出張局ヨリ通運會社員ヲ發遣ノ節受取切符
 ト引換ヘ切手葉書封皮類見本及ヒ見合印鑑ハ書留郵便第一書式中諸印形以下ノ書類物品ハ通運會社
 便ヲ以テ驛遞出張局ヲ經テ本局ニ返納スヘシ
- 第七條 郵便局廢止跡へ郵便受取所ヲ設置シタルトキハ諸規則達書驛遞局報及ヒ秤量ハ其受取所ニ引

十九年二月八日第三條ニ
 關スル心得ヲ示ス

繼キ其他ハ第五條第六條ニ依リ受渡又ハ返納スヘシ

第八條 前數條ニ依リ事務ノ受渡ヲ了シタルトキハ第三書式ニ依リ驛遞出張局ヲ經テ本局へ届出ツヘシ

第九條 貯金及ヒ爲替ニ關スル事務ノ受渡手續ハ別段ノ達ニ依ルヘシ

(第一書式) 書類物品引繼書	何冊
一願同届綴	何冊
一遞送集配ニ關スル書類	何冊
内	
書留郵便物遞送證印記	何冊
貨幣封入書狀差出人證印簿	何冊
郵便物日計表綴	何冊
郵便報告表綴	何冊
一經費金收支日記簿	何冊
一經費勘定表	何冊
一切手葉書封皮類見本	何葉
一見合印鑑	何葉
内	
監察掛見合印鑑	何葉
貨幣封入郵便物取扱見合印鑑	何葉
何々印鑑	何箇
一諸印形	何箇
内	
局印	何箇

日付印	何箇
何印	何箇
一諸規則達書	何冊
内	
郵便條例	何冊
郵便心得	何冊
自何年何月何月	何冊
至何年何月	何冊
本局御達綴	何冊
何々規則	何冊
一驛遞局報	何冊
一時計 但附屬品共	何箇
秤量	何箇
内	
何貫目	何箇
何百目	何箇
一行囊	何箇
内	
網掛	何箇
大(中)(小)	何箇
大(中)(小)	何箇
蝦蟇口	何箇
内	
大(中)(小)	何箇
一短銃 但彈丸何箇附屬品何々共	何箇
何挺	何箇

一區分棚	何箇
一掛札	何箇
一掛函	何箇
一諸用紙殘餘	何葉
内	
郵便經費勘定表用紙	何葉
貨幣封入書狀受取證合符紙	何葉
何々用紙	何葉

前項ノ外官費備付ニ屬スルモノハ此例ニ準シ記載スヘシ
右之通及御引繼候也

年月日

舊何郵便局
舊何等郵便取扱役何某印

何郵便局

何等郵便取扱役何某殿

(第二書式) 經費引繼書

一金何圓	内譯	郵便取扱役手當
金何圓	内	
金何圓	郵便局之分	
但何月分又ハ何月下半月分		
金何圓	郵便受取所之分	

但同一箇所金何圓ツ、何箇所

(給與額ヲ異ニスルモノハ内譯ニ別記スヘシ以下受取所皆同シ)

金何圓 郵便取扱費

内

金何圓 郵便局經費

但何月何日ヨリ何日マテ一箇月金何圓ノ日割

内

金何圓 局費

金何圓 開閉取扱費

金何圓 何々費

金何圓 郵便受取所經費

但同一二箇所何圓ツ、何箇所

金何圓 遞送費

但何月分又ハ何月下旬分

金何圓 集配費

但同上

金何圓 貯金取扱手當

内

金何圓 郵便局之分

但何月分又ハ何月下旬分

金何圓 郵便受取所之分

但同一箇所何圓ツ、何箇所

金何圓 單純貯金預所之分

但同上

右及御引繼候也

舊何郵便局

舊何等郵便取扱役何某印

年月日

何郵便局

何等郵便取扱役何某殿

(第三書式) 事務受渡御届

今般何郵便局被廢候(取扱役變更)ニ付別紙(別紙ハ第一書式ノ目錄及ヒ第二書式ノ經費調ヲ記ス)之通受渡相濟候依テ雙方連署此段及御届候也

舊何郵便局

舊何等郵便取扱役何某印

年月日

何郵便局

何等郵便取扱役何 某印

驛遞總官何某殿

驛遞局達 甲十九年二月八日 驛遞出張局

今般甲第三十二號ヲ以テ郵便局郵便受取所事務受渡規則相定メ候ニ付テハ同則第三條ニ依リ受渡延期申出候節ハ其事由ヲ審査シ十日以内ハ其局限リ之ヲ認可シ十日以上ハ本局經伺ノ上認可致スヘシ右相達候事

勅令節錄 第十九年三月二十五日(全文ハ遞信管理)

郵便局及電信分局ヲ認

郵便局郵便受取所事務受渡規則第三條ニ關スル心得

十九年四月勅令第八號ヲ以テ一等郵便局電信分局地位同月遞信省令第八號ヲ以テ二等三等郵便局及電信分局地位ヲ定ム逓信門郵便電信ニ關ス二十年三月勅令第四號逓信省官制改正ニ依リ電信分局及電信分局長トアル分掌海峽

電信局及支郵局事務官ニ仍ル

地方ニ便宜郵便受取所貯金預所及郵便支局ヲ區キ各其事務ヲ取扱ハシム

監察課員電信市内監視規則ヲ定ム

第七條 地方郵便電信ノ事務ヲ掌理スル爲ニ郵便局及電信分局ヲ置キ逓信管理局ノ管理ニ屬セシム
郵便局ノ等級ヲ分チテ一等二等及三等トス又電信分局ノ等級ヲ分チテ一等二等及三等トス
第八條 郵便局及電信分局ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ
郵便局長 郵便書記 電信分局長 電信書記

遞信省達 十九年三月二十六日 第六十四號 電信局

勅令第八號ヲ以テ地方逓信官官制制定相成候處其局及支郵局ノ儀ハ追テ何分ノ儀相達シ候マテ從前ノ通事務取扱フヘシ
但支郵局ヘハ其局ヨリ傳達スヘシ

遞信省令 十九年四月二十二日 第六號

地方ニ便宜郵便受取所ヲ置キ貨幣封入郵便ノ外郵便物ノ受付及郵便切手賣下ノ事務ヲ取扱ハシメ又驛遞貯金預所ヲ置キ貯金受拂ノ事務ヲ取扱ハシム
一等二等郵便局區内須要ノ場合ニ郵便支局ヲ置キ本局ノ事務ヲ分掌セシム

遞信省達 十九年四月二十三日 第八十三號 電信局

其課市内監視員ヲシテ東京府下電信分局駐使其他取締ノ爲メ別紙科目ニ依リ其事務ヲ監視セシムヘシ

遞信省達 十九年四月二十三日 第八十三號 電信局

東京府下電信分局駐使其他取締ノ儀ニ付別紙ノ通り監察課ヘ相達候條其旨府下各電信分局ヘ通達不都合無之様取計フヘシ

電信市内監視規則

一 駐使ノ整列式ニ立會事

說明

駐使ノ整列ニハ便宜之レニ立會ヒ無謂不參又ハ被服其他官給品ヲ汚穢シテ不體裁ヲ顯ハシ若クハ服務ニ堪ヘサル者等ナキヤ否ヲ注視スルモノトス

一 駐使ノ勤惰品行ヲ注視スル事

說明

駐使執務勉勵行爲善良ナルカ又ハ怠惰放逸等總テ駐使ノ勤惰品行ヲ注視スルモノトス

一 駐使溜所ヲ巡視スル事

說明

駐使ノ溜所ヲ巡視シ飲酒賭博誼謔猥容濫行其他溜所ヲ亂雜不潔ニ付シ又ハ休息中外出私用ヲ辨スル等ノ不都合ナキヤ否ヲ注視スルモノトス

一 電報配達ノ當否ヲ探問スル事

說明

配達濟電報ノ受取證ヲ謄寫シ受信者ノ家ニ就キ配達ノ當否ヲ探問スルモノトス

一 駐使ノ行步ヲ注視スル事

說明

駐使配達ノ途中私用ヲ辨シ若シクハ無謂立止マリ又ハ緩歩スル等ノ所爲ナキヤ否ヲ注視シ時トシテハ之ニ追尾シテ配達ノ遲速ヲ調査スルモノトス

一 配達シ能ハサル電報ヲ再査スル事

說明

受信者宛所ニ居住ナキ旨差配人郡區役所若クハ戸長役場ノ證明アリト雖モ果シテ其宛所ニ居住セサルモノタルヤ否ヲ確ムル爲メ其肩書姓名等判然タルモノハ更ニ之カ取調ヲナサシムル

モノトス

一 電信線及線柱ノ障碍ヲ注視スル事

説明

電信線路又ハ信柱ニ障碍ノ有無ヲ注視シ若シ之アルヲ認ムルトキハ速カニ看守人又ハ分局ヘ通報スルモノトス

一 電信切手賣下所ヲ視察スル事

説明

許可ヲ經ス電信切手賣下ノ休業若シハ廢業ヲナシ又ハ移轉先ニ於テ依然賣買ヲナシ或ハ標札ノ掲出ヲ怠ル等ノコトナキヤ否ヲ注視スルモノトス

逓信省公達

第十九年四月二十六日

逓信省公達 第二號 逓信管理局長 郵便局長 逓信分局郵便受取所 逓信貯金預所

郵便局長及電信分局長處務章程左ノ通之ヲ定ム

郵便局長處務章程

第一條

郵便局長ハ區内郵便受取所郵便切手賣下所ヲ管轄シ郵便飛信ノ事務ヲ掌理シ特ニ指定スル局ニ於テハ爲替又ハ貯金ノ事務ヲ掌理ス

第二條 郵便局長ハ尙ホ貯金預所ヲ管轄ス

第三條 郵便局長ハ主管事務ノ整理及部下職員ノ勤惰監視上其責ニ任ス

(一) 成規ニ依リ郵便飛信及爲替貯金ノ事務ヲ執行スル事

(二) 郵便物集配時限ヲ定ムル事

(三) 集配人郵便物集配受持區ヲ定ムル事

(四) 郵便物大集配傳送又ハ交換所ヲ定ムル事

(五) 郵便切手類内ニ於テ支辨スル事

(六) 郵便私書函ヲ貸與スル事

(七) 局費ヲ定額

(八) 郵便受取所貯金預所ニ經費ヲ交付スル事

(九) 郵便差立時刻又ハ郵便延

滞ノ事

著ヲ廣告スル事

(十) 局内處務順序ヲ定ムル事

(十一) 局員ノ職務分掌ヲ命スル事

(十二) 局員ノ歸省願ヲ許否シ除服出仕ヲ命スル事

(十三) 主管ノ事務ニ付各所ニ照會往復スル事

(十四) 前各項ノ外成規命令アル事件ヲ執行スル事

第四條 郵便局長ハ局務分科章程ヲ設ケ逓信管理局長ノ認可ヲ得テ施行スヘシ但分科章程ヲ要セサル

第五條 郵便局長ハ局員ノ進退黜陟ヲ逓信管理局長ヲ經由シテ大臣ニ具狀シ其月給十圓日給四十錢以下ノ備員ハ之ヲ專行シテ後逓信管理局長ニ届出ヘシ但三等郵便局長ハ別ニ定ムル所ノ規則ニ從フヘシ

第六條 郵便局長ハ郵便受取所取扱人ノ命免其身元引受人ノ選定郵便受取所郵便切手賣下所廢置ノ便否及郵便切手賣下人許否ノ意見ヲ逓信管理局長ニ具狀スルヲ得

第七條 郵便局長ハ尙ホ貯金預所取扱人ノ命免其身元引受人ノ選定并貯金預所廢置ノ意見ヲ具狀スルヲ得

第七條 郵便局長ハ事務ノ狀況ヲ逓信管理局長ニ報告スヘシ

逓信分局長處務章程

第一條 電信分局長ハ通信ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理シ所屬電信切手賣下所ヲ管轄ス

第二條 電信分局長ハ主管事務ノ整理及部下職員ノ勤惰監視上都テ其責ニ任ス

第三條 電信分局長ハ左ノ條件ヲ專行シ其他ハ逓信管理局長ニ稟申シ指揮ヲ請フヘシ

(一) 通信ノ事務ヲ執行スル事

(二) 局員ノ職務分掌ヲ命スル事

(三) 局員ノ勤務時間ヲ定ムル事

(四) 電信切手ヲ公衆及電信切手賣下所ニ賣下クル事

(五) 局費ヲ定額内ニ於テ支辨スル事

(六) 主管ノ事務ニ付各所ニ照會往復スル事

(七) 前各項ノ外成規命令アル事件ヲ執行スル事

第四條 電信分局長ハ局内ノ分科章程ヲ設ケ逓信管理局長ノ認可ヲ得テ之ヲ施行スヘシ

第五條 電信分局長ハ局員ノ進退黜陟ヲ逓信管理局長ヲ經テ大臣ニ具狀スヘシ

第六條 二等三等電信分局長ハ通信ニ從事シ及會計ノ事務ヲ兼掌スルヲアルヘシ

十九年七月逓信省公達第三十七號ヲ以テ第三條第十一項ヲ追加ス
十九年七月逓信省公達第五十三號ヲ以テ第十三項ノ次ハ一項ヲ追加シ之ヲ第十四項トシ第十四項ヲ第十五項ト爲ス
十九年七月逓信省公達第三十七號ヲ以テ第六條中追加
十九年七月逓信省公達第五十三號ヲ以テ第六項ノ次ハ一項ヲ追加シ之ヲ第七項ト爲シ第七項ヲ第八項ト爲ス
十九年五月二十九日第五條ニ關スル逓信省公達第五號ニ關スル逓信省公達第五號ノ部ニ爲ス

第七條 電信分局長ハ線路阻碍若クハ斷線アリタルトキハ建築手及關係アル電信分局長ト協議シ他線ヲ適宜交換使用スヘシ
但シ建築手アラサルトキハ實施ノ後之ヲ通知スヘシ

第八條 一等電信分局長ハ常ニ其一回線中ニアル二等三等電信分局技手ノ通信取扱ノ狀況ヲ監視スヘシ

第九條 電信分局長ハ電信切手賣下所廢置ノ便否及電信切手賣下人許否ノ意見ヲ遞信管理局長ニ具狀スルコトヲ得

第十條 電信分局長ハ事務ノ狀況ヲ遞信管理局長ニ報告スヘシ

郵便支局規程ヲ定ム

遞信省公達 十九年四月二十六日 遞信管理局郵便局

郵便支局規程左ノ通之ヲ定ム

第一條 郵便支局長及支局員ハ本局長其本局員中ヨリ選定スヘシ但支局長ノ命免ハ遞信管理局長ノ認可ヲ受クヘシ

第二條 郵便支局ノ掌理スヘキ事件ハ左ノ如シ
(一)郵便物受付ノ事 (二)集配受持町村内郵便受取所及郵便函ニ集リタル郵便物取集ノ事 (三)前項郵便物ノ内他區郵便局ニ送達スヘキモノヲ本局ニ轉送シ又ハ一郵便區内各支局相互ノ間受渡ノ事 (四)集配受持町村内ニ郵便物配達ノ事 (五)郵便爲替又ハ貯金受拂ノ事 (六)郵便切手類ヲ公衆ニ賣下ノ事

第三條 前條掌理事件ハ其地方ノ狀況ニ依リ之ヲ増減スルコトアルヘシ
本局長其増減ヲ要スルハ遞信管理局長ニ具狀スヘシ

第四條 郵便支局受持區ハ本局長之ヲ定メ遞信管理局長ノ認可ヲ得テ施行スヘシ

第五條 郵便支局長ノ處務權限其他局務整理ニ關スル規程ハ本局長之ヲ定メ遞信管理局長ノ認可ヲ得

郵便受取所規程ヲ定ム

テ施行スヘシ

第六條 郵便支局長ハ其支局主管事件ニ付テハ總テ其責ニ任ス

遞信省公達 十九年四月二十八日 遞信管理局郵便受取所

郵便受取所規程左ノ通之ヲ定ム

第一條 郵便受取所ニ取扱人ヲ置ク

第二條 郵便受取所取扱人ハ成規ニ從ヒ左ノ事務ヲ取扱フヘシ
一郵便物受付ノ事 但貨幣封入郵便物ヲ除ク
一郵便切手類賣下ノ事

第三條 郵便受取所取扱人ハ郵便局長ノ監督ヲ受ク可シ

三等郵便局職員ヲ以テ
書記ニ充テ其給料ハ遞
信省規程ニ依リ之ヲ
定ム

十八年七月二十日郵便局
書記採用規則ハ遞信省
規程ニ依リ之ヲ定ム

二十一年六月遞信省公達
第百十三號ヲ以テ郵便
局職員ノ給料ニ關スル
規程ニ依リ之ヲ改ム

遞信省公達 十九年四月二十八日 遞信管理局郵便局

明治十八年七月 驛遞局甲第百六十四號達郵便局書記採用規則ハ備員郵便書記採用規則トシ附錄書式中書記トアルヲ總テ郵便書記ト改ム

明治十八年七月 驛遞局甲第百六十五號郵便局書記服務規則ハ備員郵便書記服務規則トス

明治十八年七月 驛遞局甲第百六十七號官吏特派郵便局書記給料規定ハ一等二等郵便局備員郵便書記ノ給料規定トス

明治十八年十一月 驛遞局甲第百八十三號書記採用試驗規程ハ一等二等郵便書記採用試驗規程トス

十八年七月驛遞局達郵
便取扱役服務規則其他
ノ諸件ヲ廢ス

郵便受取所取扱人手當
ヲ定ム

遞信省公達 十九年四月二十八日
第十一號 遞信省管理局郵便局郵便受取所
明治十八年七月驛遞出張局甲第五百一十一號達郵便取扱役服務規則同甲第五百一十二號達郵便取扱役身元引
受人規則及同年十一月十一日同局甲第二百八十七號達郵便取扱役手當中郵便受取所郵便取扱役及其身元引受人
ニ關スル諸件ヲ廢ス
從前驛遞局達書中郵便受取所書記ニ關スル諸件ヲ廢ス

遞信省公達 十九年四月二十八日
第十二號 遞信省管理局郵便局郵便受取所

郵便受取所
取扱人手當
一等給 月額七十錢
二等給 月額六十錢
三等給 月額五十錢

遞信省公達 十九年四月三十日
第十三號 遞信省管理局郵便局郵便受取所

郵便受取所取扱人服務規則及郵便受取所取扱人身元引受人規則左ノ通之ヲ定ム

郵便受取所取扱人服務規則

- 第一條 郵便受取所取扱人ハ法律及ヒ規程ニ從ヒ遞信大臣及所轄遞信管理局長ノ達示ヲ遵守シ事ヲ郵便局長ニ承ケ職務ヲ執行スヘシ
- 第二條 取扱人ハ常ニ實價百圓以上ノ土地又ハ家屋ヲ所有セサルヘカラス
- 第三條 取扱人非戸主ナルトキハ身元引受人ノ外其戸主ヲ以テ保證人トナシ所轄郵便局長ヲ經由シ其保證書^{第一號}書式ヲ所轄遞信管理局長ニ差出スヘシ
但右取扱人前條所定ノ資格ヲ有セサルトキハ其戸主常ニ同條定額ノ財産ヲ所有セサルヘカラス

郵便受取所取扱人服務
規則同身元引受人規則
ヲ定ム
二十一年六月遞信省公達
第三十二號ヲ以テ郵便受
取所取扱人服務規則及身
元引受人規則ヲ定ムルニ
依テ消滅ス

第四條 禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ罪ヲ犯シ監視ニ附セラレ賭博犯ノ懲罰處分ヲ受ケ故意ニ郵便ニ關スル罪ヲ犯シ又ハ身代限ノ處分ヲ受ケタル者ハ取扱人トナルコトヲ得ス

第五條 取扱人ハ猥褻又ハ投機危險ノ商業ヲ營ムヘカラス

第六條 取扱人ハ郵便受取所ノ事務所ヲ供給シ右受取所又ハ其近傍ノ地ニ住居スヘシ

第七條 取扱人ハ其取扱フ所ノ郵便物差出人受取人ノ住所氏名ヲ他人ニ漏告スヘカラス

第八條 取扱人ハ本則第三條ノ手續ニ依リ其印鑑^{第二號}形ヲ所轄遞信管理局長ニ差出スヘシ若シ其印判ヲ變換シタルトキハ其印鑑ニ葉ヲ添ヘ前記ノ手續ニ依リ身元引受人連署該管理局長ニ届出ツヘシ

但住所氏名ヲ變換シタルトキ亦同シ

第九條 取扱人ハ郵便取扱費給與規則ニ據リ給與スル經費金額ヲ以テ其管掌スル所ノ郵便受取所代理人ノ給料其他一切ノ用度費ヲ受負支辨スヘシ

第十條 取扱人ハ常ニ事務ノ整肅及ヒ改進ヲ謀ルヘシ又郵便ニ關スル犯罪者アルコトヲ認知シ又ハ思料シタルトキハ速ニ本則第三條ノ手續ニ依リ所轄遞信管理局長ニ届出ツヘシ

但猶豫スヘカラサル場合ニ於テハ相當ノ處置ヲ爲シ然ル後届出ツヘシ

第十一條 取扱人ハ平常非常ノ場合ヲ論セス其取扱フ所ノ官金官物ヲ安全ニ保護シ損失ヲ受ケサル様注意スヘシ

官金官物ハ私金私物ト混合スヘカラス又私ニ之ヲ他人ニ寄托シ又ハ貸與シ若クハ流用スヘカラス若シ取扱フ所ノ官金官物ヲ損失シタルトキハ之ヲ辨償セシムヘシ

但天災又ハ避クヘカラサル災難ニ遇ヒ之ヲ損失シタルトキハ此限ニアラス

第十二條 取扱人旅行或ハ疾病其他ノ事故ニ依リ職務ニ服スルコト能ハサルトキハ自己ノ信認スル滿十六歳以上ノ男子ニシテ第四條ニ抵觸セス事務取扱方ニ差支ナキモノヲシテ代理セシメ第三條ノ手續ニ依リ其旨所轄遞信管理局長ニ届出ツヘシ

但取扱人ハ其代理人ヲシテ誠實ニ其職ヲ盡サシムルノ責任アルモノトス

第十三條 取扱人ハ其町村内若クハ最寄町村ニ住居スル満十六歳以上ノ男子ニシテ實價百五十圓以上ノ土地又ハ家屋ヲ所有シ心術篤實品行方正ナルモノヲ以テ身元引受人トナシ第三條ノ手續ニ依リ其財産調書ヲ添ヘ引受證書ヲ所轄逓信管理局長ニ差出スヘシ

但左ノ各款ニ觸ル、モノハ身元引受人トナスコトヲ得ス

第一款 三等郵便局長又ハ他ノ取扱人或ハ郵便物遞送集配受負人ノ身元引受ヲナス者

第二款 取扱人ノ同戶籍^{附屬}内ニアルモノ又ハ其傭人後見タルモノ

第三款 本則第四條中ノ事項ニ觸ル、モノ

第十四條 取扱人ハ一人ニシテ實價百五十圓以上ノ土地又ハ家屋ヲ所有スルモノヲ身元引受人トナシ能ハサルハ人員ヲ増シ其數人ノ所有ヲ合セ實價百五十圓ニ達スル迄ノ人員ヲ以テ身元引受人トナスコトヲ得

但身元引受人ハ三人ヲ超ユルヲ得ス

第十五條 取扱人ハ其身元引受人氏名又ハ印判ヲ變換シ或ハ取扱人住所ノ地又ハ最寄町村内ニテ住所ヲ轉シタルトキハ第三條ノ手續ニ依リ其身元引受人連署所轄逓信管理局長ニ届出ツヘシ

但印判ヲ變換シタルハ其印鑑ニ葉ヲ差出スヘシ保證人住所氏名ヲ變換シタルトキ亦同シ

第十六條 取扱人ハ其身元引受人其責任ヲ辭シ或ハ遁亡又ハ死亡シ若クハ本則所定ノ資格ニ背戻スヘキ所爲アルハ更ニ相當ノ身元引受人ヲ定メ戶長或ハ區長ノ與印ヲ受ケタル財産調書ヲ添ヘ第三條ノ手續ニ依リ其引受證書ヲ所轄逓信管理局長ニ差出スヘシ

第十七條 取扱人事務取扱上疑義アルハ第三條ノ手續ニ依リ所轄逓信管理局長ニ伺出指揮ヲ受ケヘシ第十八條 取扱人此規則及其他事務取扱規則ニ違背シタルトキハ其情狀ニ依リ輕キハ譴責ニ處シ重キハ五圓以内ノ懲戒金ヲ差出サシムルコトアルヘシ

(第一號書式)

印紙 保證書

今般私長次男^{又ハ}其何逓信管理區内何郵便受取所取扱人被命候ニ付テハ本人奉務中御省ニ對シ萬一上納金其他官物等ニ付辨償可仕廉相生候ハ本人ハ勿論私ノ資産ヲモ盡シ辨納可仕候仍而證書差上候也

何府縣何國何郡區何町村何番地住

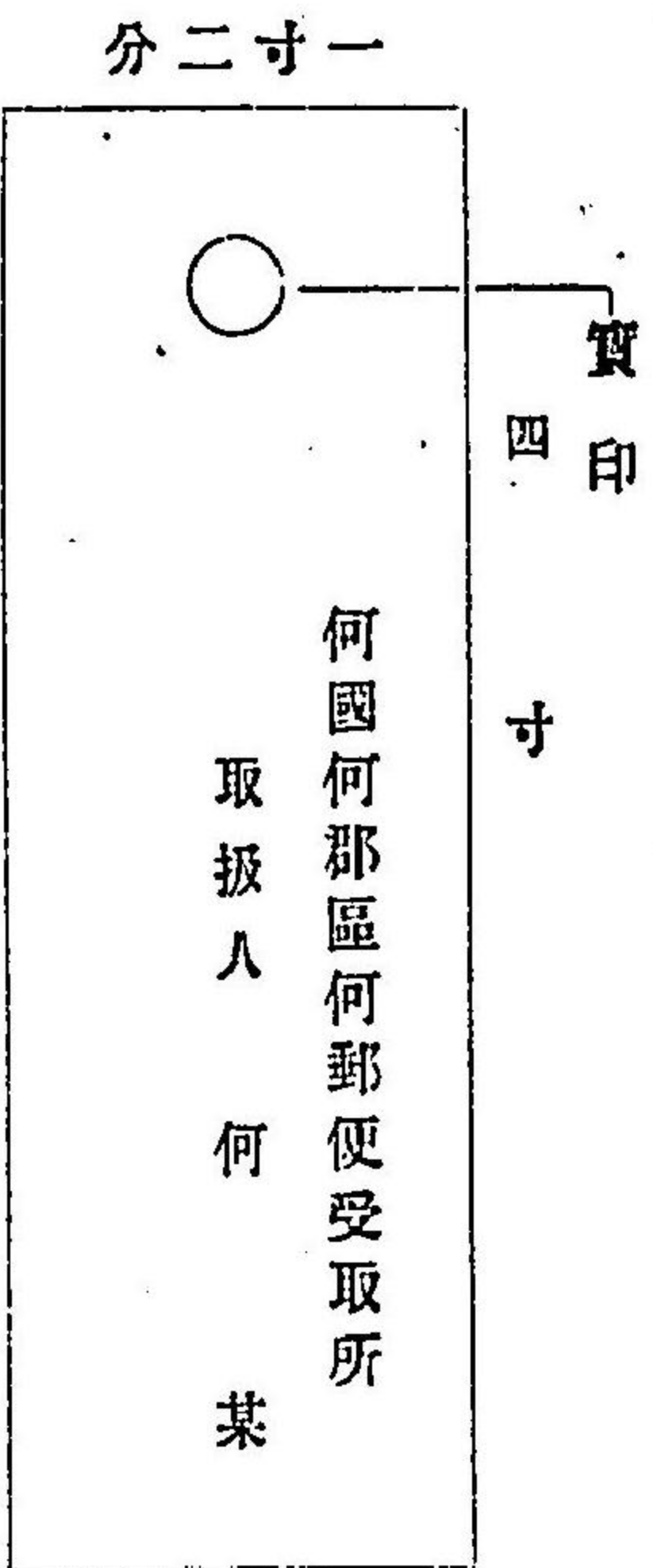
戶主族籍

何 某印

年月日

逓信大臣何某殿

(第二號雜形)



郵便受取所取扱人身元引受人規則

第一條 郵便受取所取扱人ノ身元引受人ハ其取扱人誠實ニ其職ヲ盡スコトヲ保證スルモノトス

第二條 身元引受人ハ其取扱人逓信大臣ニ對シ損害ノ償ヲナスヘキ場合ニ當リ其取扱人ノ資産^{非戶主ハ共以下做之}ヲ盡シ尙ホ不足ヲ生シタルハ其不足ノ辨償ヲナスモノトス

第三條 身元引受人ハ其引受證書第一號及ヒ印鑑第二號二葉ヲ取扱人ニ交付シ其取扱人ヲシテ所轄郵便局長ヲ經由シ所轄遞信管理局長ニ差出サシムヘシ

第四條 身元引受人ハ取扱人服務規則ニ觸レ若クハ逃亡又ハ死亡シタルキハ直ニ本則第三條ノ手續ニ依リ所轄遞信管理局長ニ届出ヘシ

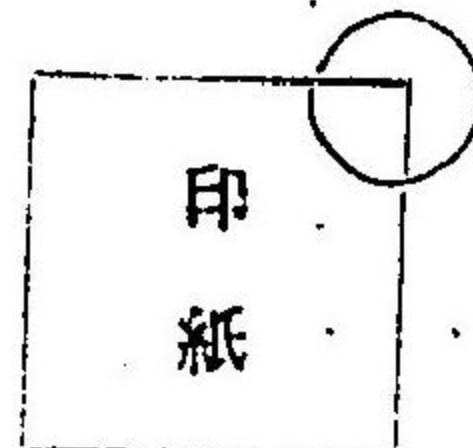
第五條 身元引受人ハ取扱人逃亡又ハ死亡シ又ハ服務規則第四條ノ事項ヲ生シ若クハ服務ヲ差止メラレタル等ノコトアルトキハ後任者就職又ハ取扱人服務差止ヲ免セラル、迄一時便宜ノ爲メ取扱人心得ヲ以テ其事務ヲ取扱フヘシ

第六條 身元引受人取扱人心得ヲ以テ郵便事務ヲ取扱フトキハ總テ取扱人ト同一ノ責任ヲ有スルモノトス

但郵便事務取扱中ハ前取扱人ト同一ノ手當金ヲ給與スヘシ

第七條 身元引受人其責任ヲ辭セントスルトキハ取扱人ニ申告シ取扱人ト連署第三條ノ手續ニ依リ所轄遞信管理局ニ届出ツヘシ

(第一號書式)



身元引受證書

私儀何遞信管理區内何郵便受取所取扱人何某身元引受ニ相立候ニ付テハ郵便受取所取扱人身元引受人規則及郵便受取所取扱人へ御達相成候郵便受取所取扱人服務規則ノ趣謹承右身元引受人規則ニ從ヒ誠實ニ其責任ヲ盡シ可申仍テ證書差上候也

何府縣何國何郡區何町村何番地住
戸主又ハ戸主某長次男等

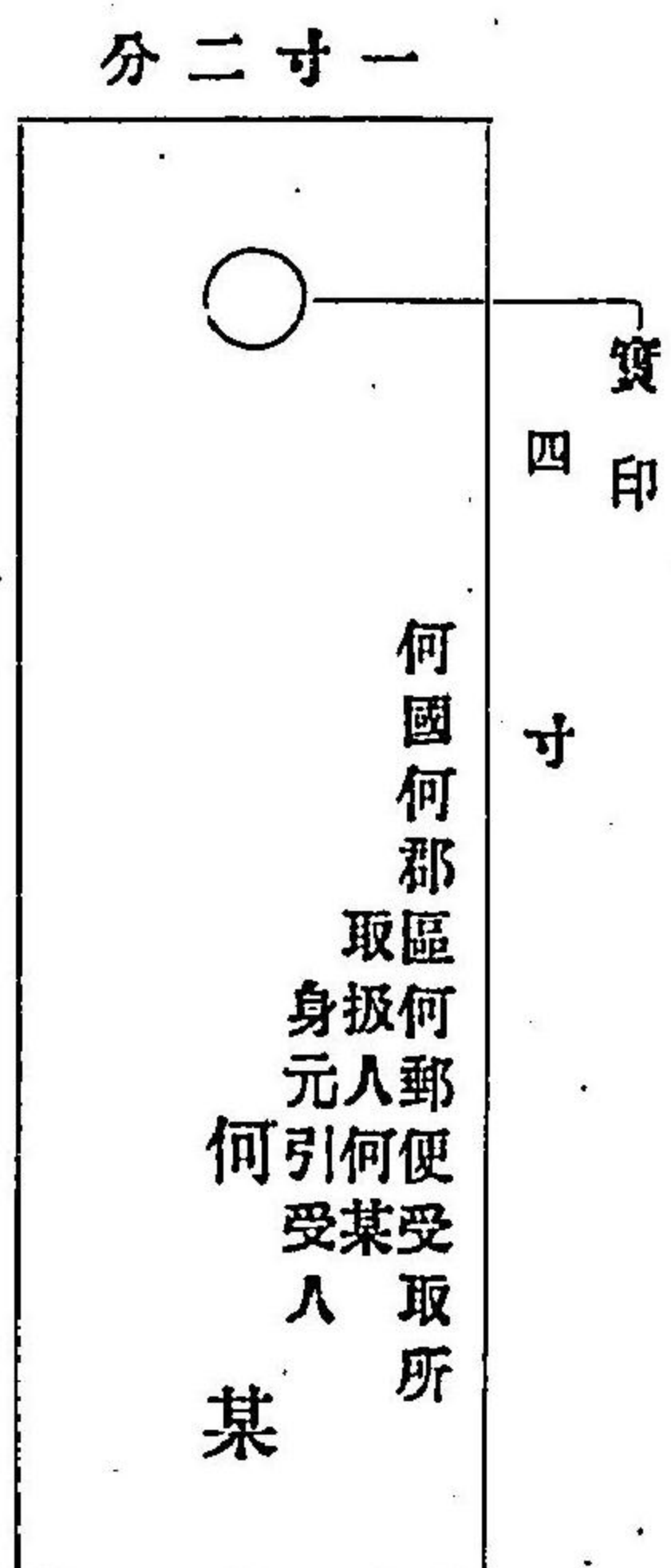
年月日

遞信大臣何某殿

族籍

何 某印

(第二號雛形)



電信分局事務始ク從前ノ取扱ハシム

地方郵便事務中遞信局長掌理ノ事項

電信局達 乙十九年五月十四日 第三〇一五號 電信分局

遞信管理局ヲ置レ同局長事務章程及電信分局長事務章程被相定候處分局ノ事務ハ何分ノ儀相達候迄從前ノ通心得ヘシ

遞信省公達 第十九年五月十八日 第十六號 遞信管理局郵便局

地方郵便事務中左ニ掲クル各項ハ驛遞局長ヲシテ掌理セシム

一 外國郵便物又ハ外國郵便爲替ヨリ生スル事故ヲ處分スル事

但事ノ極メテ輕易ニシテ成規アルモノハ此限ニアラス

一 外國郵便又ハ外國郵便爲替事務ニ關シ歐文ヲ以テ照會往復等ヲナス事

但事ノ極メテ輕易ニシテ成規アルモノハ此限ニアラス

地方電信事務中電信局長掌理ノ事項
二十年三月遞信省公達第
五十七號ヲ以テ廢ス

- 遞信省公達 十九年五月十八日
- 地方電信事務中左ニ掲クル事項ハ電信局長ヲシテ掌理セシム
- 一 外國ニ關スル電信ノ事故ヲ處分スル事
- 一 外國電信事務ニ關シ歐文ヲ以テ照會往復等ヲナス事
- 一 通信取扱上疑義ニ涉ル件處分ニ關スル事
- 一 通信技術ニ關スル事

電信局ヨリ遞信省ヘ同十九年四月二十六日

今般地方ニ遞信管理局ヲ置カレ郵便電信ノ事務ヲ管理候様被相定候處電信事務ノ内別紙ニ記載ノ條件ハ孰モ極要又ハ緊急ヲ要スル者ニテ同盟電信聯合條約ニ關スル事ハ各國ニ於テ皆電信局長ノ主管スル所ニシテ其事ニ關スル處分方ハ常ニ之ニ從事シテ習熟シタルモノニ非サレハ之ヲ取計フコト能ハス又外國電信條約上ヨリ生スル諸般ノ事件即朝鮮海峽線丁抹會社等ニ關スルコトモ亦同様ノ義ニ有之又通信取扱上ノ諸規則及電報ニ關スル事ハ全國各分局一定ノ方法ニ依ルヘキモノニ付地方ニテ取扱方ヲ異ニスヘカラス技手及局員ノ進退ニ關スルコトハ技術ノ優劣ニ依ルヘキモノニ付地方ニテ取扱方ヲテモ局務ノ繁閑ニ應シテ人撰シ又歸省等願出ル者アルトキハ其代人ヲ派遣スル如キ只其一區域ニ止マラス他區ヨリ交換スルコト有之殊ニ至急ヲ要スルコト最モ多ク有之候又技手ニアラサル他ノ局員ニ於テモ通信ノ事務ニ關スルコトアルカ爲メ之ヲ置キ候モノニ付是亦局ノ等級及繁閑ニ應シテ人撰致候ニ付總テ當局ニ於テ其取計ヲ爲サレハ實際不都合ニ有之又線路建築上及電氣學ニ關スルコトハ固ヨリ本局ノ指揮ニ隨ヒ共主任ノ者ニ於テ實地施行候義ニ有之又通信上ノ誤謬過失ハ多ク線上傳送中ニ生シ他ノ分局ニ關係有之ニ付其取調方ハ本局ニアラサレハ之ヲ爲スコト能ハス右各項ハ夫々陳述候通ノ義ニ付管理局ヲ經由致候テハ大ニ其期ヲ誤リ或ハ内外人民ノ信用ヲ失候様可立至モ難計ノミナラス實際同局及電信分局ヘ御達置相成度此段相伺候也 五月十七日 決判

東京郵便局ヲ開ク

遞信省達 十九年五月二十八日
第百二號東京郵便局長

其局來ル六月一日ヨリ開局スヘシ
但シ事務ノ儀ハ追テ管理局開廳マテ從前各郵便局處務規程ニ依リ取扱フヘシ

東京郵便局ヲシテ官報費例事務ヲ取扱ハシム

遞信省達 十九年五月二十八日
第百三號東京郵便局長

其局開局ノ上ハ官報賣捌事務之儀其局ニ於テ取扱フヘシ
○十六年五月達第二十號ヲ以テ官報ハ驛遞局ニ於テ發賣セシム十九年六月閣令第十七號ヲ以テ官報局ニ改ム文書門記錄志表官報ノ部ニ載ス

電信分局局長及郵便局長職務章程權限外ノ職口採用方

遞信省公達 十九年六月七日
第廿號遞信管理局郵便局(三等郵便局ヲ除ク)

遞信省訓示 十九年六月七日
遞信管理局局長及郵便局長職務章程權限外ノ雇員ヲ採用セントスルトキハ稟請裁可ノ上其局名ヲ以テ命スヘシ

電信分局分科章程ヲ定ム

電信局達 十九年六月七日
第廿四號二六號電信分局

電信分局分科章程

- 第一條 電信分局ニ技術科及庶務科ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム但事務ノ多端ナラサル分局ニシテ分科ヲ要セサルモノハ此限ニアラス
- 第二條 各科ニ長一人ヲ置キ技術科長ハ技術官庶務科長ハ書記ヲ以テ之ニ充ツ但技術科長ハ分局長若クハ技術主員ヲシテ之ヲ兼シムルコトアルヘシ
- 第三條 一等電信分局ノ技術科ニハ技術主員二名ヲ置ク但二等電信分局ノ内事務ノ多端ナル所ハ主員二名ヲ置クコトヲ得
- 第四條 技術科長ハ其局電報送受ニ關スル諸般ノ事務ヲ掌理ス
- 第五條 庶務科長ハ其局書記及會計ニ關スル諸般ノ事務ヲ掌理ス

第六條 技術主員ハ技術科長ノ指揮ニ從ヒ各其科員半數ノ長トナリテ通信ノ事ヲ整理ス

第七條 各科分掌事務節目左ノ如シ

技術科

- 第一 電信諸例規ニ照シテ電報ヲ検査スル事
 - 第二 電報ノ傳送及配達ニ關スル事
 - 第三 通信事務ニ關スル稟議具申及照會等ノ文案ヲ起草スル事
 - 第四 通信ニ屬スル現用機械物品書籍等ヲ管守スル事
 - 第五 風水火災等ノ電報及留置電報ノ廣告ヲ揭示場ニ掲出スル事
 - 第六 電信機械及線路ヲ試験スル事
 - 第七 電信機械ヲ修繕スル事
 - 第八 驅使ヲ監督スル事
- 庶務科
- 第一 依托ノ電報ヲ接受シ例規ニ照シテ取扱フ事
 - 第二 電信切手ヲ受入及賣下クル事
 - 第三 金錢及電信切手ヲ保管スル事
 - 第四 經費出納ニ係ル一切ノ事務ヲ調理スル事
 - 第五 電報ノ通數收入金其他會計ニ係ル諸帳簿ヲ調製スル事
 - 第六 機械現用ヲ其他備品資用物品ヲ管守シ及受渡ス事
 - 第七 會計事務ニ係ル稟議具申及照會書ノ文案ヲ起草シ并ニ分局ノ文書往復ニ關スル事
 - 第八 公文書類ヲ編纂保管スル事
 - 第九 電報原書其他現字紙等ヲ貯藏期限中保管スル事
 - 第十 局舎及備品ノ修繕ニ關スル事

元驛遞出張局員及郵便局員解職ニ關スル手續

總務局同定 十九年六月九日

元驛遞出張局員及郵便局員解職ニ關スル手續ヲ内定スル左ノ如シ

- 第一項 管理局長總代伺書第一條但書御指令ニ據リ解職スヘキモノハ事務從前之通取扱フニ及ハサル旨ノ達書ヲ各其本人ヘ下付スル事
- 第二項 前項ノ達書ハ文書課ニ於テ回議ヲ發シ驛遞局ニ合議シ驛遞局ハ其回議ヲ受クレハ之ヲ審案シ其會テ東京ヨリ赴任シタルモノナルヤ否ヤヲ調査シ其東京ヨリ赴任シタルモノハ歸東京ノ上該達ヲ下スヘキ旨ヲ其回議書ヘ付箋スヘシ
- 第三項 第一項解職ノ達書ヲ下付スヘキモノニシテ第二項ニ據リ歸東京ヲ命スルヲ要セサルモノハ其達書ノ月日ヲ記セスシテ之ヲ主管ノ管理局長ニ交付シ管理局長ハ各其解職者擔任事務引繼完結ノ上其月日ヲ達書ニ記入シテ本人ヘ傳達シ其旨本省ヘ届出ヘシ
- 第四項 元驛遞出張局ノ備員ハ該局閉局ノ上ハ自然解備ニナルヘキモノナルヲ以テ判任官等ノ如ク事務從前之通取扱フニ及ハサル旨ノ達書ヲ發セサルモノトス

逓信省達 十九年六月十六日 逓信局長
電信分局員ノ内技手及ヒ助手ノ進退ハ當分ノ内電信局長ニ於テ取扱フヘシ

電信分局技手及助手ノ進退ヲ電信局長ニ委任ス
電信分局員月給十五圓日給五十錢以下ノ者進退取扱方
二十年三月逓信省公達第五十七號ヲ以テ廢ス

逓信省達 十九年六月十六日 逓信局長
電信分局ニ於テ月給十五圓日給五十錢以下ヲ以テ使用スル雇員進退ノ件特ニ委任候條分局ニ於テ該雇員ヲ雇免シ又ハ其給料ヲ増減セントスルトキハ相當ノ指揮ヲナスヘシ
逓信省公達 十九年六月十七日 逓信省管理局電信分局
電信分局ニ於テ月給十五圓日給五十錢以下ヲ以テ使用スル雇員進退ノ件電信局長ヘ委任候條分局ニ於

テ該備員ヲ備免シ又ハ其給料ヲ増減セントスルトキハ分局長ヨリ管理局長ヲ經電信局長ノ指揮ヲ得テ執行スヘシ
但シ辭令書ハ分局名ヲ以テスヘシ

職員ヲ以テ郵便電信書記ニ充ルトキ辭令書ヲ交付セシム
二十年四月逓信省公達第八十三號ヲ以テ廢ス

逓信省公達 第十九年六月十七日
第二十四號 逓信管理局郵便局電信分局
便宜備員ヲシテ郵便書記電信書記ニ充ツルトキハ左ノ辭令書ヲ交付スヘシ
但從前ノ規則之レニ矛盾スルモノハ消滅ス

辭令書式

備 氏 名

郵便書記ノ事務取扱ヲ命ス
年月日

某地郵便局
某地電信分局

逓信分局ノ技手及助手ノ進退其狀應分カ

逓信省公達 第十九年六月十七日
第二十六號 逓信管理局電信分局
逓信分局員ノ内技手及助手ノ進退ニ關スル具狀ハ當分ノ内電信局長ヲシテ取扱ハシム

二十年三月逓信省公達第五十七號ヲ以テ廢ス

逓信省訓示 第十九年六月十七日
第三號 逓信管理局電信分局
逓信分局ニ於テ月給十五圓日給五十錢以上ノ雇員ヲ採用セントスルトキハ稟請裁可ノ上其局名ヲ以テ命スヘシ

二十年三月逓信省訓示第七號ニ依リ消滅

閣令 第十九年六月十八日
第十五號
三等郵便局長ハ判任官官等俸給令ニ依ラス一箇年四百圓以下ノ手當ヲ適宜支給ス

三等郵便局長手當令ヲ定ム

逓信省請議 十九年五月六日
三等郵便局長ノ儀ハ從前ノ郵便取扱役ニ有之候處右取扱役ハ無俸給ニシテ只僅少ノ手當ヲ給セシニヨリ尙判任官俸給令ニ據ラス手當トシテ一箇年四百圓以下適宜支給スヘキ旨省令ヲ以テ定メ度依テ閣議

ヲ請フ
内閣書記官議案 十九年六月十五日
三等郵便局長ハ從前ノ郵便取扱役ニシテ別ニ俸給ヲ與ヘス僅少ノ手當ヲ給セシニ依リ左案ノ通閣令發布可相成哉

逓信分局ノ人員ヲ定ム

電信局達 乙十九年六月二十一日
第五五三號 電信分局
電信分局ノ人員當分ノ内左表ノ通相定ム
○電信分局定員表

局名	分局長	技術科長	庶務科長	技術主任	通信技手	試驗技手	製機技手	又電	配給	使	使	小使	使
東京	一	一	一	二	五二	三	一	九	一	一	一	六	六
大阪	一	一	一	二	五四	二	一	四	一	一	一	五	六
京都	一	一	一	二	八	一	一	二	一	一	一	七	二
横濱	一	一	一	二	一三	一	一	六	一	一	一	三	四
神戸	一	一	一	二	九	一	一	三	一	一	一	七	二
長崎	一	一	一	二	一五	一	一	四	一	一	一	七	三
函館	一	一	一	二	二	一	一	三	一	一	一	七	三
新潟	一	一	一	二	六	一	一	二	一	一	一	六	二
日本橋	一	兼勤	一	二	二	一	一	〇	一	一	一	〇	四
川口	一	兼勤	一	二	八	一	一	三	一	一	一	〇	二
高麗橋	一	兼勤	一	二	八	一	一	三	一	一	一	二	二
赤間關	一	兼勤	一	二	一	一	一	二	一	一	一	七	二
名古屋	一	兼勤	一	二	四	一	一	一	一	一	一	八	二
仙臺	一	兼勤	一	二	八	一	一	一	一	一	一	五	二

官職門 官制 遞信省

濱	藤	沼	清	猿	下	熱	小	浦	木	佐	佐	銚	本	福	津	甲	水	千	浦	深	高
松	枝	津	水	橋	田	海	原	賀	津	倉	原	子	庄	井	府	戶	葉	和	川	岡	
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	三	三	二	二	二	二	四	四
桐	高	飯	福	稻	松	伊	上	小	松	關	大	森	見	掛	敦	盛	宇	前	長	上	岐
生	崎	田	島	山	代	奈	訪	諸	本	村	垣	町	附	川	賀	岡	宮	橋	野	田	阜
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	三	三	二	二	二	三	二
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二

五百八十一

官職門 官制 遞信省

橫須賀	局名	佐賀	福岡	高知	松山	徳島	四日市	桑名	靜岡	横濱	本郷	小樽	熊本	福島	兵庫	心齋橋	兩國	局名
一	分局長	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	分局長
一	通信技手	二	三	二	三	二	三	四	四	三	二	三	三	四	四	四	四	通信技手
一	書記又雇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二	二	二	二	二	二	書記又雇
一	驛	四	五	四	四	三	四	四	四	二	六	六	六	三	五	七	五	驛
二	使																	使
七	局名	葵町	新橋	根室	札幌	鹿島	廣島	岡山	直江津	富山	金澤	青森	石卷	秋田	酒田	山形	大津	神戶
一	分局長	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	分局長
三	通信技手	三	三	一	五	三	三	六	六	三	六	八	二	二	四	一	三	通信技手
一	書記又雇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	書記又雇
一	驛	四	二	三	四	六	四	四	二	三	五	三	四	四	四	四	四	驛
四	使																	使

五百八十一

八代岡木取江道山口和歌
延岡木取江道山口和歌
伏鳥松山鳥一和山尾松鳥伏延八
三水八彦長神西塚奈伏松山鳥一和山尾松鳥伏延八
春口幡根濱崎宮 頁見坂田羽宮山

二二二二二二二二二二三三三二二三二二
花一釜宮野能橫小鶴米二郡須若半西岡豐熊神八淺
卷關石古蘇代手出岡澤松山川松田尾崎橋谷川子草
奈王

柄唐伊大中小三長魚東七小大武坂小八白捌尼伊大
萬 岩 聖 井 勢 間
崎津里橋津倉池岡津瀬尾松寺生港濱戸河木利崎

二二二二二二三二二二二二二二二二二二二二二二
四品赤釜宮大九柳久須大八字今高村糸出新三高柏
谷川羽山崎分龜川米崎洲濱島治松上川崎田條田崎
魚雲發

管理區名		以上百九十七局ハ分局長技手會計ヲ兼																
東京府下各分局若干員		厚岸	大津	荻原	岩手	三田	玉島	明石	姫路	濱田	米子	境石	出生	豐岡	宮津	園部	小千谷	白石
備員		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
備員		—	二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
備員		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
備員		二	二	二	二	二	二	三	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
備員		小	中	河	泉	牧	蘭	市	内	都	山	差	原	肥	城	養	木	前
備員		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
備員		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
備員		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
備員		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
備員		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

管理區名 東京府下各分局若干員 横濱二 静岡一

三等郵便局長手當金年額ヲ定ム
二十一年十月省令第三號
ヲ以テ改正ス

遞信省令第十九號 十九年六月二十二日
三等郵便局長手當金年額左表ノ通之ヲ定ム
三等郵便局長手當金額

大阪府下各分局若干員	京都二	神戸二
大阪	—	—
岡山	—	—
熊本	—	—
赤間	—	—
松江	—	—
名古屋	—	—
金澤	—	—
新潟	—	—
福島	—	—
長野	—	—
仙臺	—	—
丸龜	—	—
山形	—	—
函館	—	—
鹿兒島	—	—
長崎	—	—
桑名	—	—
富山	—	—
直江津	—	—
上田	—	—
青森	—	—
酒田	—	—
松山	—	—
札幌	—	—
大津	—	—

官等	七等以上	八等	九等	十等
上級	十四圓以上	十八圓	二十四圓	三十圓
下級	十圓	十六圓	十八圓	二十四圓

官職門 官制 遞信省

郵便局長職務章程第三條第六條中ニ追加ス
二十年四月遞信省公達第七十七號ニ依リ消滅ス

電信分局長事故アルトキハ首坐ノ技術官ヲ代理セシムルモノトス
二十年三月遞信省訓示第七號ニ依リ消滅ス

電信分局科章程定メ方
二十年三月遞信省訓示第七號ニ依リ消滅ス

郵便局備採用規則附録第二號第三號書式ヲ改メ

甲第百六十六號ハ職員ヲ書記ト稱スルノ件是事務省ノ部ニ屬ス
甲第百四十五號ハ選任門郵便ニ屬ス

遞信省公達 第三十九年七月三日
明治十九年四月公達第二號郵便局長處務章程第三條十一へ左ノ但書及第六條中郵便切手賣下所ノ下ニ郵便函ノ三字ヲ追加ス
但分科長ノ命免ハ遞信管理局長ノ認可ヲ受ケヘシ

遞信省訓示 第三十九年七月三日
公達第二十號電信分局長事故アルトキハ技術官云々ハ首坐ノ技術官其事務ヲ代理スル義ト心得ヘシ

遞信省訓示 第三十九年七月三日
電信分局科章程ノ義ハ別ニ電信分局長ニ於テ之ヲ設ケ遞信管理局長ノ認可ヲ受クルニ及ハス本年六月七日電信局乙第四四二六號達ノ章程ヲ用フヘシ

遞信省公達 第三十九年七月九日
明治十八年七月驛遞局甲第百六十六號達ヲ廢ス

明治十八年十月驛遞局甲第百四十五號達郵便物護送ノ事務ハノ下郵便局書記トアルヲ郵便書記又ハ郵便書記ノ事務ヲ取扱フ備ト改メ其書記トアルヲ其書記又ハ備ト改ム
從前驛遞局達中備員郵便書記又ハ郵便書記若クハ書記トアルヲ總テ備員郵便書記ノ事務取扱フト改ム
明治十八年七月驛遞局甲第百六十四號達備員郵便書記採用規則附録第二號第三號書式左ノ如ク改ム
(第二號書式)

保證書

肩書前ニ同シ

右ノ者郵便局備採用規則第二條ニ適合シ且第三條ニ抵觸ノ廉無之御局備ニ御採用ノ上ハ御用辨可相成儀ト確信仕候依之同人身上ノ儀私ニ於テ保證仕候也

年 月 日

何地郵便局

御中

肩書前ニ同シ
何 某 印

何 某
何年何月何日生

(第三號書式)

其一 採用辭令

備ヲ命ス

但月給日給又ハ金何程給與ス

年 月 日

其二 増減給辭令

自今月給日給又ハ金何程給與ス

年 月 日

其三 罷免辭令

依願備ヲ免ス

(又ハ備ヲ免ス)

年 月 日

何地郵便局

備 何 某

何地郵便局

備 何 某

何地郵便局

何 某

逓信省訓示 十九年七月十四日
技手ヨリ兼務スル電信分局長ノ進退ニ關スル具狀ハ電信局長ヲシテ取扱ハシムル義ト心得ヘシ

技手ヨリ兼務ノ電信分局長進退ニ關スル具狀取扱方
二十年三月逓信省訓示第七號ニ依リ消滅
郵便局長兼務分局長處務章程中ヲ改正ス

逓信省公達節錄 十九年七月二十八日(全文ハ逓信管理局長) 第五十三號逓信管理局長兼務分局長(兼務)郵便受取所職金預所
一 郵便局長處務章程第三條第十三項ノ次ハ(郵便ニ關スル犯罪ニシテ證據埋滅ノ恐アル場合ニ於テ直チニ告訴發シ及其事件ニ付損害ノ賠償ヲ要求スルモノハ告訴ト共ニ私訴ノ申立ヲナス事)ノ一項ヲ追加シ之ヲ第十四項トシ第十四項ヲ第十五項トス
一 同電信分局長處務章程第三條第六項ノ次ハ(電信ニ關スル犯罪ニシテ證據埋滅ノ恐アル場合ニ於テ直チニ告訴發シ及其事件ニ付損害ノ賠償ヲ要求スルモノハ告訴ト共ニ私訴ノ申立ヲナス事)ノ一項ヲ追加シ之ヲ第七項トシ第七項ヲ第八項トス

逓信管理局長兼務書記
逓信分局長兼務書記
派遺方

逓信管理局長兼務書記ニアラサル分局長并書記ノ派遺ハ稟申指揮ヲ請フヘク其他ハ電信局長ノ管理ニ屬スル儀ト心得ヘシ
逓信管理局長處務章程第三條第三項ニ局員郵便局員電信分局員ノ進退ヲ具狀云々ノ明文有之候處其後公達第二十六號ヲ以電信分局員之内技手ノ進退ニ關スル具狀ハ當分ノ内電信局長ニ於テ取扱候事ニ相成尙ホ尋テ公達第二十七號ヲ以電信分局員ニ於テ月給十五圓日給五十錢以下ヲ以テ使用スル雇員進退ノ件ハ電信局長ニ委任相成候ニ就テハ電信分局員中當局ノ進退具狀ニ關スルモノハ技手ニアラサル電信分局長并電信書記ニ有之然ルニ管理局長處務章程第三條第八項ニ區内ニ出張巡回ノ局員并郵便局長ヲ區内ニ派遺シ郵便局長ノ具申スル局員派遺ヲ認可スルノ明文アリト雖トモ電信分局長并電信書記派遺等ノ場合ニ於テハ何等明文無之右ハ如何相心得可然哉差掛リ候義モ有之候間至急何分ノ御指揮ヲ乞フ
逓信省指令 十九年八月二十四日
同之趣技術官ニアラサル分局長并書記ノ派遺ハ稟申指揮ヲ請フヘク其他ハ電信局長ノ管理ニ屬スル儀ト心得ヘシ

逓信省公達 十九年九月八日
從來諸官廳内ニアル電信分局ヲ電信取扱所ト改稱ス

從來諸官廳内ニアル電信分局ヲ電信取扱所ト改稱ス
三等郵便局長手當給與規則ヲ改正ス
是ヨリ先十八年十一月號逓信省訓示第二百八十三號ヲ以テ郵便取扱手當給與規則ヲ定ム運轉門郵便二編ス

逓信省公達 十九年九月八日
三等郵便局長手當給與規則左ノ通改正ス
但本年六月一日以前新官制ニ據リ任命ノ者ハ總テ六月一日ヨリ新任手當ヲ給與シ其以後任命ノ者ハ其前月マテ舊官ノ手當ヲ給與シ當月ヨリ新官ノ手當ヲ給與ス
三等郵便局長手當給與規則
第一條 三等郵便局長ノ手當ハ其額ヲ十二分シ毎月其一分ヲ給與ス
第二條 三等郵便局長ニシテ他ノ官職ヲ兼子又ハ他ノ官吏ニシテ三等郵便局長ヲ兼ヌルモノモ共ニ規定ノ額ヲ給與ス
第三條 新任及ヒ他官ヨリ轉任ノモノハ其月ヨリ又廢官退官死亡及他官ヘ轉任ノモノハ其月迄月割ヲ以テ手當ヲ給與ス
第四條 手當金ノ増減ハ總テ發令ノ月ヨリ月割ヲ以テ増減ノ額ヲ給與ス
第五條 廢官退官ノ者在職中ノ事件ニ付特ニ命ヲ承ケ公務ニ從事スル時ハ其間仍ホ日割ヲ以テ從前ノ手當ヲ給與ス
第六條 左ニ記載シタルモノハ手當ヲ給セス
一 服務停止中ノ者
但服務停止ヲ命シタル月之ヲ解キタル月ノ手當ハ第三條新任退官者手當給與方ノ例ニ依ル
一 職務ヲ曠廢シタル者
但職務ニ從事シタル月ノ手當ハ第三條退官者手當給與方ノ例ニ依ル
第七條 三等郵便局長ノ手當ハ毎月二十八日ヲ以テ支給ノ定日トス

郵便受取所取扱人手當給與規則

遞信省公達 第十九号 九月八日
郵便受取所取扱人手當給與規則左ノ通相定ム

但本年五月一日以前任命シタル取扱人ハ總テ五月一日ヨリ新任手當ヲ給與シ其以後任命ノ者ハ其前月マテ舊職ノ手當ヲ給與シ當月ヨリ新職ノ手當ヲ給與ス

郵便受取所取扱人手當給與規則

- 第一條 郵便受取所取扱人ノ手當ハ他職兼勤ノ有無ニ拘ハラズ規定ノ額ヲ給與ス
- 第二條 新任免職及ヒ死亡ノモノハ其月分ノ手當金額ヲ給與ス
- 第三條 手當金ノ増減ハ總テ發令ノ月ヨリ其増減ノ額ヲ給與ス
- 第四條 左ニ記載シタルモノハ手當ヲ給セズ
 - 一 服務停止中ノ者
 - 但服務停止ヲ命シタル月及ヒ之ヲ解キタル月ノ手當ハ第二條新任免職者手當給與方ノ例ニ依ル
 - 一 職務ヲ曠廢シタル者

但職務ニ從事シタル月ノ手當ハ第二條免職者手當給與方ノ例ニ依ル

第五條 取扱人ノ手當ハ毎月二十八日ヲ以テ支給ノ定日トス

郵便受取所取扱人手當

遞信省公達 第十九号 九月八日
第七十號 遞信省管理局三等郵便局郵便受取所

三等郵便局長及郵便受取所取扱人缺員等ノ場合ニ於テ郵便假取扱人ノ命ヲ受ケタル者ハ前任三等郵便局長及ヒ取扱人ト同一ノ手當ヲ給與シ又事故ニ依リ身元引受人三等郵便局長又ハ郵便受取所取扱人ノ心得ヲ以テ事務取扱ヲナストキ其身元引受人ハ其三等郵便局長及ヒ取扱人ト同一ノ手當ヲ給與ス但事務ニ就キタル月及ヒ服務ヲ解キタル月ト雖モ服務日數ニ拘ハラズ一箇月分ノ手當ヲ給與ス

市内監視員職務規程

遞信省公達 第十九号 九月十五日
第七十二號 遞信省管理局

其區内郵便電信集配ニ關スル事務監視ノ爲市内監視員ヲ置キ職務規程左ノ通之ヲ定ム

市内監視員職務規程

- 第一條 市内監視員ハ二等以上郵便局并ニ特ニ指定シタル電信分局ニ在勤シ該局長ノ命ヲ承ケ其事務ヲ執行スルモノトス
- 第二條 監視員ノ掌理スル郵便局ノ事務ハ左ノ如シ
 - 一 郵便物ノ保護ニ注視スル事
 - 二 郵便物ノ點查押印區分方ニ注視スル事
 - 三 遞送集配人ノ勤惰品行ニ注視スル事
 - 四 集配人整列式ニ立會フ事
 - 五 拔書探問ヲ爲ス事
 - 六 事故郵便物ノ取調ヲ爲ス事
 - 七 郵便函ヲ點檢スル事
 - 八 郵便柱函ノ便印帳ヲ點檢スル事
 - 九 郵便受取所郵便切手賣下所貯金預所爲替取扱所ニ注視スル事
 - 十 郵便受取所貯金預所郵便切手賣下所及ヒ郵便函場ノ廢置變更ヲ取調フル事
 - 十一 郵便器械其他官給品ノ毀損汚穢等ニ注視スル事
- 第三條 監視員ノ掌理スル電信分局ノ事務ハ左ノ如シ
 - 一 電信ノ配達ニ注視スル事
 - 二 駭使ノ整列式ニ立會フ事
 - 三 駭使ノ勤惰品行ニ注視スル事
 - 四 電報配達ノ當否ヲ探問スル事

- 五 駢使ノ行歩ニ注視スル事
- 六 配達シ能ハサル電報ヲ再査スル事
- 七 電信切手賣下所ヲ視察スル事

逓信省公達 第七十九年九月二十一日
 第七十四號 逓信管理局電信分局
 公達第七十二號ニ據リ市内監視員ヲ在勤セシムヘキ電信分局左之通之ヲ定ム

電信分局

東京	神戶	和歌山	大阪	京都	名古屋	東京	神戶	和歌山	大阪	京都	名古屋
浦高橋	神戶	和歌山	大阪	京都	名古屋	東京	神戶	和歌山	大阪	京都	名古屋
日本橋	神戶	和歌山	大阪	京都	名古屋	東京	神戶	和歌山	大阪	京都	名古屋
東京	神戶	和歌山	大阪	京都	名古屋	東京	神戶	和歌山	大阪	京都	名古屋
浦高橋	神戶	和歌山	大阪	京都	名古屋	東京	神戶	和歌山	大阪	京都	名古屋

逓信省公達 第七十九年十月二十九日
 第八十六號 逓信管理局郵便局
 明治十八年驛遞局甲第七十一號達ニ係ル事件ニ付テハ郵便局ハ管理局ノ指揮ヲ受ケ管理局ハ隨時當否ヲ審査シ專決處分スヘシ

他官衙又ハ人民ヨリ郵便費等ノ統計其他事務外ニ係ル取調ヲ依テ取扱方

(参照) 驛遞局達 甲第七十七號 逓信管理局郵便局
 他官衙又ハ人民ヨリ郵便費等ノ統計其他事務外ニ係ル取調ヲ依テ取扱方
 出テ指揮ヲ受クヘシ
 右相達候事

逓信省公達 第七十九年十月二十二日
 第八十九號 逓信管理局郵便局電信分局
 郵便局長處務章程第三條第十四項及電信分局長處務章程第三條第七項ニ係ル事務ハ處分ノ後直チニ其書類相添逓信管理局長ヘ開申スヘシ逓信管理局長ハ其處務章程第三條第三十三項ニ係ル事務ヲ除クノ外ハ公達第五十七號ニ準シ取扱フヘシ

逓信省公達 第七十九年十月二十九日
 第九十四號 逓信管理局
 市内監視員市内巡回ノ節ハ手當トシテ一日金十錢以内ノ額ヲ以テ適宜給與スヘシ

總務局達 第七十九年十一月八日
 逓信管理局長
 逓信省電信分局長等ノ諸申牒ハ特ニ明文アルモノ、外ハ都テ逓信管理局ニ提出シ逓信管理局長ハ其處務章程第三條ニ依リ專決委任ノ内外ヲ區分シ其專決ニ屬スルモノハ直ニ之ヲ處分シ其他ハ大臣ニ稟申シ指揮ヲ得テ後處分スヘキ筈ニ有之然ルニ往々大臣總務局長ヘ伺出ルモノ有之右ハ不都合ニ候條都テ處務章程ニ依リ施行スヘシ

逓信省公達 第七十九年十一月十五日
 第九十六號 逓信管理局一等郵便局
 郵便集配人取締役規則左ノ通り之ヲ定メ來ル十二月一日ヨリ施行ス
 但集配人肝煎ニ關スル從前ノ達指令ハ之ヲ廢止ス
 郵便集配人取締役規則

郵便局長及電信分局長處務章程第三條ニ關スル處分

市内監視員巡回ノ節手當給與方

郵便局電信分局ヨリ市中派送出方

郵便集配人取締役規則

第一條 一等二等郵便局ニ郵便集配人取締ノ爲メ郵便集配人取締役ヲ置ク其職務ノ概目左ノ如シ

一 集配人ノ勤惰及品行ノ狀況ヲ視察シ上官ニ報告スル事

二 集配人ニ服務ノ手續ヲ指示スル事

三 集配人ノ闕勤届ヲ調査シ上官ニ進達スル事

四 制服其他行囊等職務上ノ物品ヲ上官ヨリ受け之ヲ各集配人ニ配布スル事

五 集配人制服及行囊等職務上所要物品保存方ノ取締ヲスル事

六 集配人ノ親睦ヲ保持スル事

七 集配人衛生上ノ取締ヲスル事

八 集配人詰所ニ於テ不行跡ノ所業ナカラシムルコトニ注意取締スル事

九 集配人詰所火ノ元及薪炭其他日用品消費方ノ取締ヲスル事

第二條 取締役ノ定員ハ集配人二十人未滿ハ一名二十人以上五十人未滿ハ一名若クハ二名五十人以上

ハ二名乃至四名トス

第三條 取締役ハ郵便局長其郵便局集配人中最も品行方正ニシテ職務ニ勉勵シ事務ニ熟練シ才幹アリ

ト認メタルモノヲ撰ヒ之ニ任命スヘシ

郵便局長集配人取締役ヲ任免スルトキハ左ノ書式ニ從ヒ辭令書ヲ發付シ其任免ヲ其郵便局集配人ニ

告示シ且ツ所屬逓信管理局長ニ申告スヘシ逓信管理局長ハ更ニ驛逓局長ヘ報告スヘシ

(任)書式 用紙西ノ内四ツ切

何等集配人 何

集配人取締役ヲ命ス 何

明治何年何月何日 某

(免) 何地郵便局

集配人取締役ヲ命ス 何

明治何年何月何日 某

(免) 何地郵便局

二十年五月逓信省公達第百七號ヲ以テ第三條第二項ヲ削除ス

地方郵便局及電信分局ハ便宜合併スルヲ得

郵便電信局班次ヲ定ム

何等集配人

何 某

集配人取締役ヲ免ス(又ハ依頼集配人取締役ヲ免ス)

明治何年何月何日

何地郵便局

第四條 取締役ハ在役中役俸トシテ月給額ノ一割ヲ本給料ニ増給スヘシ

第五條 取締役ハ其郵便局集配人最高等者ノ待遇ヲ受クヘシ

第六條 取締役ノ服務ヲ奉スルモノト雖モ集配人本分ノ職務ハ他ノ集配人ニ異ナルコトナキモノトス

閣令 十九年十一月十六日

第三十號

第一條 地方郵便局及電信分局ハ土地ノ情況ニ依リ便否ヲ斟酌シテ之ヲ合併シ其事務ヲ取扱ハシムル

コトヲ得

第二條 郵便局及電信分局ヲ合併シタルトキハ郵便電信局ト稱シ局長ハ郵便電信局長書記ハ郵便電

信書記ト稱ス

第三條 郵便局及電信分局ヲ合併シタルトキ其局ノ等級ハ郵便局及電信分局ノ高キモノニ依ル

文書課ヨリ記録課へ通牒 十九年十二月二日

今回郵便電信局ヲ置カレ候ニ付テハ其位置ハ郵便局ノ上ニ列シ逓信公報等へ記載例ハ左ノ通定メラレ候條此段及御通牒候也

例

逓信管理局

郵便電信局

郵便局

三等郵便局長及郵便受取所取扱人採用規則ヲ改定ス
十八年七月甲第百五十號
遞信省ノ部ニ據テ
二十一年四月遞信省令第
二號ヲ以テ三等郵便局長
採用規則ヲ定ムルニ依テ
消滅ス

遞信省公達 十九年十二月十三日
郵百八號 遞信管理局

明治十八年七月驛遞局甲第百五十號達三等郵便局長及ヒ郵便受取所取扱人採用規則左ノ通改定ス
三等郵便局長採用規則

- 第一條 三等郵便局長ニ採用スヘキ者ハ左ノ各款ヲ具備スルモノトス
- 第一款 滿二十歳以上ノ男子タル者
- 第二款 日常ノ算筆ニ通シ心術篤實品行方正ナル者
- 第三款 實價二百圓郵便爲替ヲ取扱フ三以上ノ土地又ハ家屋ヲ所有スル者
- 第四款 三等郵便局長服務規則ヲ遵奉スルコトヲ承諾スル者
- 第二條 左ノ一款若クハ數款ニ觸ル、者ハ三等郵便局長ニ採用セサルモノトス
 - 第一款 故意ヲ以テ郵便ニ關スル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレシ者
 - 第二款 重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレシ者
 - 第三款 重禁錮一年未滿及ヒ輕禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレ其刑期ノ終リシ日ヨリ五年ヲ經過セサル者
 - 第四款 貨幣偽造ノ罪印章文書偽造ノ罪偽證誣告ノ罪盜罪贓罪詐僞取財ノ罪ニ付刑ニ處セラレシ者
 - 第五款 賭博犯ニ付懲罰ノ處分ヲ受ケシ者
 - 第六款 身代限りノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者
- 第三條 三等郵便局長ハ可成在勤セシムヘキ郵便局所在地居住ノモノヲ採用スルモノトス
- 第四條 誠實ニ職務ヲ奉シタル三等郵便局長老年又ハ疾病其他ノ事故ニ依リ其職ヲ辭スルカ或ハ在職中死亡セシトキ其嗣子又ハ相續人タルモノ年齢滿十六歳以上ニ及フモノハ第一條第一款ノ年齢ニ拘ハラステ採用スルコトアルヘシ

二十年二月遞信省公達第
十九號ヲ以テ第八條中ヲ
別除ス

- 第五條 非戸主ニシテ其戸主實價二百圓三等郵便局長郵便爲替ヲ取以上ノ土地又ハ家屋ヲ所有スルトキハ本人財産ナシト雖モ採用スルコトアルヘシ
- 第六條 新ニ採用スル三等郵便局長ハ判任官十等トシ下級手當ヲ給ス
但土地ノ狀況等ニ依リ或ハ本條ニ拘ハラステ任用スルコトアルヘシ
- 第七條 三等郵便局長ヲ採用セントスルトキハ驛遞局長ヨリ其三等郵便局長ヲシテ在勤セシムヘキ地ヲ所轄スル遞信管理局長ニ其選舉方ヲ照會スヘシ
- 第八條 遞信管理局長第七條ノ照會ヲ受ケタルトキハ其採用スヘキ三等郵便局長ヲシテ在勤セシムヘキ地ヲ管轄スル北海道廳長官又ハ府縣知事ニ其選舉方ヲ照會スヘシ
但遞信管理局長ニ於テ選舉ヲセントスルモノアルトキハ其人ヲ指シ北海道廳長官又ハ府縣知事ニ選舉ヲ照會スルヲ得
- 第九條 遞信管理局長北海道廳長官又ハ府縣知事ヨリ選舉書及ヒ關係書類ノ送付ヲ受ケタルトキハ被選人及ヒ其身元引受人ノ資格ヲ調査シ適當ト見認ムル者ハ直ニ意見書ヲ作り北海道廳長官又ハ府縣知事ノ選舉書及ヒ關係書類寫ヲ添へ被選人採用方ヲ遞信大臣ニ具申スヘシ若シ北海道廳長官又ハ府縣知事ノ選舉書ニ對シ異見アルトキハ北海道廳長官又ハ府縣知事ニ協議ヲ遂ケ然ル後具申ノ手續ヲナスヘシ
- 第十條 三等郵便局長ヲ採用スルトキハ驛遞局長ヨリ採用辭令書ヲ遞信管理局長ニ送達スヘシ
- 第十一條 遞信管理局長第十條ノ辭令書ノ送達ヲ受ケタルトキハ其辭令書及ヒ之ニ身元引受人規則ヲ添被選人ニ送達シ左ノ書類ヲ出サシメ之ヲ管理局ニ保管シ受書ノ日附ヲ驛遞局長ニ報告シ且採用ノ旨ヲ管轄北海道廳長官又ハ府縣知事ニ通知スヘシ
但身元引受人規則ハ之ヲ其身元引受人ニ下渡サシムヘシ
- 一 受書第一號
書式
- 二 身元引受證書(採用シタル者非戸主ナルトキハ戸主ノ保證書 第二號 共)

二十年五月遞信省公達第百十九號ヲ以テ第十二條ヲ改正ス

- 三 三等郵便局長印鑑及身元引受人印鑑
但印鑑ハ適宜印鑑簿ヲ調製シ之ニ挿入シ置クヘシ改印ノトキ亦同シ
- 四 爲替又ハ貯金ヲ取扱フ三等郵便局長ナルトキハ各其規則ニ定メタル保證書并保證品
但本文保證品ノ取扱方ハ其規則ニ從フヘシ
- 第十二條 三等郵便局長ヲ免官スルトキハ驛遞局長ヨリ免官辭令書ヲ其郵便局ヲ所轄スル遞信管理局ニ送達スヘシ
- 第十三條 遞信管理局長第十二條ノ辭令書送達ヲ受ケタルトキハ之ヲ其本人ニ送達シ受書ヲ差出サシメ之ヲ管理局ニ保管シ受書ノ日附ヲ驛遞局長ニ報告シ且免職ノ旨ヲ其北海道廳長官又ハ府縣知事ニ通知スヘシ
- 第十四條 遞信管理局長ハ三等郵便局長左ニ記載シタル場合ニ於テハ遞信大臣ノ指令ヲ待タス直ニ第八條ノ例ニ依リ其後任者ノ選舉ヲ取計ヒ且第九條ノ例ニ依リ北海道廳長官又ハ府縣知事ノ選舉書寫ヲ添ヘ變更方ヲ遞信大臣ニ具申スヘシ
但第四款ノ場合ハ本人ニ旨ヲ諭シ辭表ヲ差出サシメ具申書ニ添ヘ差出スヘシ
- 第一款 逃亡又ハ死亡シタルトキ
- 第二款 辭職ヲ出願シタルトキ
- 第三款 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 第四款 服務規則第十一條ニ違背シタルトキ
- 第十五條 遞信管理局長ハ三等郵便局長其職ニ堪ヘサルモノト見認ムルトキハ其事由ヲ具狀スルヲ得三等郵便局長犯罪又ハ其他ノ事故ニ依リ服務セシムヘカラスト見認メタル場合ニ於テ具狀指揮ヲ請フノ暇ナキトキハ其服務ヲ差止メ後具申スヘシ

(第一號書式)

御請書

此ニ辭令書ノ通記載ス

右御請仕候以上

年月日

遞信大臣何某殿

何 某印

(第二號書式)

印紙

保證書

今般私長又ハ男何某三等郵便局長拜命候ニ付テハ本人奉務中御省ニ對シ萬一上納金其他官物等ニ付辨償可仕廉相生候時ハ本人ハ勿論私ノ資産ヲモ盡シ辨納可仕候仍テ證書差上候也

何府(縣)何國何郡(區)何町(村)何番地住戶主
族籍

何 某印

遞信大臣何某殿

年月日

郵便受取所取扱人採用規則

- 第一條 取扱人ニ採用スルモノハ左ノ各款ヲ具備スルモノニ限ルヘシ
- 第一款 滿二十歲以上ノ男子タルモノ
- 第二款 日常ノ算筆ニ通シ心術篤實品行方正ナルモノ
- 第三款 實價百圓以上ノ土地又ハ家屋ヲ所有スルモノ
- 第四款 取扱人服務規則ヲ遵奉スルコトヲ承諾スルモノ
- 第二條 左ノ一款若クハ數款ニ觸ル、モノハ取扱人ニ採用スヘカラス

二十一年五月遞信省訓令第五號ヲ以テ郵便受取所取扱人採用規則ヲ定ムルニ依テ消滅ス

第一款 故意ヲ以テ郵便ニ關スル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレシモノ
 第二款 重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレシモノ
 第三款 重禁錮一年未滿及輕禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレ其刑期ノ終リヨリ五年ヲ經過セサルモノ
 第四款 貨幣偽造ノ罪印章文書偽造ノ罪偽證報告ノ罪盜罪贓罪詐偽取財ノ罪ニ付刑ニ處セラレシモノ
 第五款 賭博犯ニ付懲罰ノ處分ヲ受ケシモノ
 第六款 官吏懲戒例ニ依リ免官トナリ二年ヲ經過セサルモノ
 第七款 身代限りノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサルモノ
 第三款 取扱人ハ成ルヘク在勤セシムヘキ郵便受取所所在地居住ノモノヲ採用スヘシ
 第四款 誠實ニ職務ヲ奉シタル取扱人老年又ハ疾病其他事故ニ依リ其職ヲ辭スルカ或ハ在職中死亡セシトキ其嗣子又ハ相續人タルモノ年齢滿十六歲以上ニ及フトキハ第一條第一款ノ年齢ニ拘ハラステニ之ヲ採用スルヲ得
 第五款 非戸主ニシテ其戸主實價百圓以上ノ土地又ハ家屋ヲ所有スルトキハ本人財産ナシト雖モ採用スルヲ得
 第六款 新ニ採用スル取扱人ハ三等手當ヲ給與スヘシ
 第七款 逓信管理局長取扱人ヲ採用セントスルトキハ其取扱人ヲシテ在勤セシムヘキ地ヲ管轄スル北海道廳長官又ハ府縣知事ニ取扱人ノ選舉方ヲ照會シ其選舉ヲ得テ採用スヘシ
 但逓信管理局長ニ於テ適任ト見込ムモノアルトキハ其人名ヲ指シ北海道廳長官又ハ府縣知事ニ選舉ヲ照會スルヲ得
 北海道廳長官又ハ府縣知事ノ選舉ニ對シ異見アルトキハ北海道廳長官又ハ府縣知事ニ協議ヲ遂ケ然ル後採用スヘシ
 第八款 取扱人罪ヲ犯シ又ハ服務規則ニ背キ服務セシムヘカラサルトキ其他不適任ノモノアルトキハ北海道廳長官又ハ府縣知事ニ照會シ旨ヲ諭シ辭表ヲ差出サシメ然ル後免職スヘシ其情狀重キモノ及

二十年二月逓信省公達第
十九號ヲ以テ第八條中ヲ
刪除ス

ヒ辭表ヲ差出サハルモノハ直ニ免職スヘシ

第九條 取扱人ノ手當ヲ増減セントスルトキハ驛遞局長ニ協議ヲ遂ケ然ル後増減スヘシ

第十條 取扱人ヲ任免シ又ハ手當ヲ増減スルトキハ辭令書第一號第二號ヲ本人ニ送付シ受書第四號ヲ徵收スヘシ

取扱人ヲ任命シタルトキハ身元引受人規則ヲ送付シ且ツ左ノ書類ヲ徵收シ之ヲ管理局ニ保管シ本人及ヒ身元引受人住所族籍氏名年齢并ニ受書ノ日付ヲ驛遞局長ニ報告シ且採用ノ旨ヲ北海道廳長官又ハ府縣知事ニ通知スヘシ

但身元引受人規則ハ之ヲ其身元引受人ニ下渡サシムヘシ

一身元引受人證書(採用シタル者非戸主ナルトキハ其戸主ノ保證書共)

二 取扱人及ヒ身元引受人ノ印鑑

但印鑑ハ適宜印鑑簿ヲ調製シ之ニ挿入シ置クヘシ改印ノトキ亦同シ

取扱人ヲ免職シタルトキハ其理由及ヒ受書ノ日付ヲ驛遞局長ニ報告シ且免職ノ旨ヲ北海道廳長官又ハ府縣知事ニ通知スヘシ取扱人ノ手當ヲ増減シタルトキハ受書ノ日付ヲ驛遞局長ニ報告スヘシ

第十一條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ其理由及ヒ年月日ヲ驛遞局長ニ報告スヘシ

一 身元引受人變更ノトキ

二 取扱人又ハ身元引受人住所族籍氏名變更ノトキ

三 取扱人死亡又ハ逃亡ノトキ

第十二條 新ニ郵便受取所ヲ設置スルトキハ驛遞局長ヨリ所轄逓信管理局長ニ通牒スヘキニ付其通牒ヲ受タルトキハ取扱人ヲ採用シ直ニ開所セシメ其開所ノ年月日ヲ驛遞局長ニ報告スヘシ
(第一號書式)用紙無紋
辭令紙

何郵便受取所取扱人ヲ命ス

何ノ誰

但三等手當ヲ給ス

年 月 日
管 理
局 印

(第二號書式)用紙無紋
辭令紙

自今何等手當ヲ給ス

年 月 日

(第三號書式)用紙無紋
辭令紙

依願取扱人ヲ免ス(又ハ)取扱人ヲ免ス

何ノ誰

年 月 日
管 理
局 印

(第四號書式)

御請書

此ニ辭令書ノ通記載ス

右御請仕候以上

年 月 日

何遞信管理局長何某殿

何 某印

二十年四月遞信省公達第
八十二號及第九十六號ヲ
以テ第二號第三號書式中
追加削除アリ

郵便電信局長職務章程
ヲ定ム

二十年四月遞信省公達第
七十七號ヲ以テ廢ス

遞信省公達 第十九号十二月十七日
第百十九号 遞信省管理局 郵便電信局郵便局電信分局郵便受取所郵便貯金預所
郵便電信局長職務章程左ノ通之ヲ定ム

郵便電信局長職務章程

- 第一條 郵便電信局長ハ其局所在地郵便區内郵便受取所郵便切手賣下所電信切手賣下所ヲ管轄シ郵便電信及飛信ノ事務ヲ掌理シ特ニ指定スル局ニ於テハ郵便爲替又ハ驛遞貯金ノ事務ヲ掌理ス
- 一等二等郵便電信局長ハ尙ホ其局所在地郵便區内ノ驛遞貯金預所ヲ管轄ス
- 第二條 郵便電信局長ハ主管事務ノ整理及ヒ部下職員ノ勤惰監視上其責ニ任ス
- 第三條 郵便電信局長ハ左ノ事件ヲ專行シ其他ハ遞信管理局長ニ稟申シ指揮ヲ請フヘシ
 - 一 成規ニ依リ郵便電信飛信郵便爲替驛遞貯金ノ事務ヲ執行スル事
 - 二 郵便物集配時限ヲ定ムル事
 - 三 集配人郵便物集配受持區ヲ定ムル事
 - 四 郵便物大集配傳達又ハ交換所ヲ定ムル事
 - 五 郵便切手類ヲ公衆及郵便受取所郵便切手賣下所ニ電信切手ヲ公衆及電信切手賣下所ニ賣下クル事
 - 六 郵便私書函ヲ貸與スル事
 - 七 局費ヲ定額内ニ於テ支辨スル事
 - 八 郵便受取所驛遞貯金預所ニ經費ヲ交付スル事
 - 九 郵便差立時刻又ハ郵便延著ヲ廣告スル事
 - 十 局内處務順序ヲ定ムル事
 - 十一 局員ノ職務分掌ヲ命スル事
 - 十二 局員ノ出勤退出時間ヲ定ムル事
 - 十三 局員ノ歸省願ヲ許否シ除服出仕ヲ命スル事
 - 十四 主管ノ事務ニ付各所ニ照會往復スル事

十五 郵便電信ニ關スル犯罪ニシテ證據埋滅ノ恐アル場合ニ於テ直ニ告訴告發シ其事件ニ付損害ヲ要求スルモノハ告訴ト共ニ私訴ノ申立ヲナス事

十六 前各項ノ外成規命令アル事件ヲ執行スル事

第十四條 郵便電信局長ハ局務分科章程ヲ設ケ遞信管理局長ノ認可ヲ得テ施行スヘシ

第十五條 郵便電信局長ハ局員ノ進退黜陟ヲ遞信管理局長ヲ經由シテ大臣ニ具狀シ其月給十圓日給四十錢以下ノ傭員ハ之ヲ專行シテ後遞信管理局長ニ届出ヘシ

第十六條 郵便電信局長ハ郵便受取所取扱人ノ命免其身元引受人ノ選定郵便受取所郵便切手賣下所郵便函電信切手賣下所廢置ノ便否及郵便電信切手賣下人許否ノ意見ヲ遞信管理局長ニ具狀スルヲ得

第十七條 一等二等郵便電信局長ハ尙ホ驛遞貯金預所取扱人ノ命免其身元引受人ノ選定并驛遞貯金預所廢置ノ意見ヲ具狀スルコトヲ得

第十八條 郵便電信局長ハ電信線路阻碍若クハ斷線アリタルトキハ建築官及關係アル郵便電信局長又ハ電信分局長ト協議シ他線ヲ適宜交換使用スヘシ

但建築官アラサルトキハ實施ノ後之ヲ通知スヘシ

第十九條 一等郵便電信局長ハ常ニ電信一回線中ニアル二等三等郵便電信局又ハ二等三等電信分局技手ノ通信取扱ノ狀況ヲ監視スヘシ

第二十條 二等三等郵便電信局長ハ自ラ電機通信及ヒ會計事務ニ従事スルコトアルヘシ

第二十一條 郵便電信局長ハ事務ノ狀況ヲ遞信管理局長ニ報告スヘシ

遞信省公達 第十九年十二月十七日 第百二十一號 遞信管理局 郵便電信局 電信分局

郵便電信局長ノ内技術科長及同科副長ノ命免ハ當分電信局長ヲシテ取扱ハシム

遞信省公達 第十九年十二月十七日 第百二十一號 遞信管理局 郵便電信局 電信分局

郵便電信局長ノ技術科長命免取扱方
二十年三月遞信省公達第百二十一號ヲ以テ廢ス
電信技手及助手ノ職名即等取扱方

郵便電信局并電信分局員ノ内技手及助手ノ歸省轉地療養願ハ當分電信局長ノ認可ヲ受クヘシ

二十年三月遞信省公達第百二十一號ヲ以テ廢ス
郵便電信局分科章程準則

遞信省訓示 第十九年十二月十七日 第百二十一號 遞信管理局

郵便電信局ヨリ分科章程ノ認可ヲ請フトキハ左ノ準則ニ照準認可スヘシ

郵便電信局分科章程準則

第一條 郵便電信局ニ三科ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

但三等郵便電信局ハ此限ニアラス

第二條 分科名左ノ如シ

本務科

技術科

會計科

第三條 科ニ科長一人ヲ置キ書記又ハ技術官ヲ以テ之ニ充ツ

但郵便電信局長ハ自ラ技術科長ノ事務ヲ執ルコトアルヘシ

第四條 一等郵便電信局ノ技術科及二等郵便電信局ノ内事務ノ多端ナル技術科ニハ技術科副長ヲ置ク

第五條 科長ハ科中ノ事務ヲ幹理ス

技術科科長科副長ハ局長ノ指揮ニ從ヒ各其科員半數ノ長トナリテ通信ノ事ヲ整理ス

科員ハ科中ノ事務ヲ分掌整理ス

第六條 本務科ハ郵便ノ受付遞送集配并電報ノ受付配達ニ關スル事務其他技術及會計ニ關セサル庶務ヲ調理ス

特ニ指定スル局ニ在テハ郵便爲替及驛遞貯金ノ事務ヲ調理ス

第七條 技術科ハ電報ノ傳送電信器械及線路ノ試験電信器械ノ修繕ニ關スル事務ヲ調理ス

第八條 會計科ハ郵便電信局ノ豫算決算及金錢切手類并物品出納ニ關スル事務ヲ調理ス

第九條 郵便又ハ電信ノ事務繁劇ナル局ニ在テハ本務科中便宜遞送集配掛又ハ庶務掛ヲ置キ技術科中検査掛書記掛送受掛試験掛製機掛ヲ置キ事務ヲ分掌セシムルヲ得

郵便電信局ノ技手及助手
手続規則
二十年三月逓信省訓示第七號ニ依リ海峽

三等郵便局長兼官許可
人名報告方
公達第百二十五號ハ逓信
管理局長職務規程第三條
中ノ追加ニ際ル前二條ニ

遞信省訓示 十九年十二月十七日
郵便電信局員ノ内技手及助手ニ關スル具狀ハ本年六月公達第二十六號ニ準據スル義ト心得ヘシ
遞信省公達 十九年十二月十八日
公達第百二十五號ヲ以テ三等郵便局長他職兼務及他ノ業務掌理ニ關スル許否ノ件委任候ニ付郵務上差支ナシト視認ムルモノハ許可ノ上左ノ雜形ニ倣ヒ每一箇月分ヲ取纏メ翌月十日迄ニ驛遞局長ニ報告スヘシ

雜形

何年何月分三等郵便局長兼官許可人名報告表

國名	局名	兼官職名	及 等官 級名	同給料	許可月日	等級	氏名
							判任何等何某

前書ノ通何年何月分三等郵便局長兼官許可候間此段報告ス
年 月 日

驛遞局長宛

管理局長各

在外國郵便局規程ヲ定ム
二十年四月逓信省公達第九十七號ヲ以テ在外國郵便電信局規程ヲ定ム

遞信省公達 十九年十二月二十五日
在外國郵便局規程左ノ通り相定ム
在外國郵便局規程

二十一年五月逓信省公達
第百十二號ヲ以テ第五條
以下ヲ廢ス

地方逓信官制發布以
前採用ニ係ル三等郵便
局員取扱方

千葉電信分局ニ市内監
視員ヲ置ク

- 第一條 在外國郵便局ハ郵便物遞送配達郵便切手類賣下ノ事務ヲ掌理シ及其他ニ於ケル郵便切手賣下所ヲ管轄シ特ニ指定スル郵便局ハ爲替及貯金ノ事務ヲ掌理ス
- 第二條 局長ハ遞信屬ヲ以テ之ニ充ツ
- 局長ハ局中事務ノ整理及局員又ハ郵便切手賣下人ノ監督上總テ其責ニ任ス
- 局長ハ其地駐在領事官ノ監督ヲ受クヘシ
- 第三條 局員ハ遞信屬又ハ傭員ヲ以テ之ニ充ツ
- 局長ハ事ヲ局長ニ承ケ局務ニ從事ス
- 第四條 局長ハ成規定例アル事件ハ之ヲ專行シ成規定例ナキモノ及重要ナル事件ハ遞信大臣ノ指揮ヲ請フヘシ
- 第五條 局長ハ局員ノ進退黜陟ヲ遞信大臣ニ具狀スルヲ得其傭員ハ之ヲ專行シ後遞信大臣ニ届出ヘシ
- 第六條 局長ハ局員ノ除服出仕ヲ命シ後遞信大臣ニ届出ルヲ得
- 第七條 局長ハ毎月事務ノ狀況ヲ遞信大臣ニ報告スヘシ

東京遞信管理局達 十九年十二月二十八日
本年三月勅令第八號地方遞信官制發布以前採用ニ係ル其局雇員(當時書記ト)ノ義ハ該官制ニ依テ廢滅ニ歸シ候就テハ右之類ハ本年公達第八號(公達第二十四號)ニ依リ更ニ採用シ當局第三十五號達ニ準シ來二十年一月十五日限り届出ツヘシ
但官制發布以後採用届濟ノモノハ此際改メテ届出ツルニ及ハス且從前指令及達示ノ本文ニ矛盾スルモノハ廢止ス

遞信省公達 二十年一月二十五日
公達第七十二號ニ據リ千葉電信分局ニ市内監視員ヲ置ク

一等二等郵便電信局一
等二等郵便電信分局
事務受渡規則ヲ定ム
二十年三月逕行省告示第
三十四號ヲ以テ逕信分局
ノ分字ハ勅令第四號ニ依
テ消滅シタル者ト心得シ

遞信省公達 第二十一年一月三十一日
第一條 一等二等郵便電信局一等二等郵便電信分局
但從前ノ達及指令中本則ニ紙觸セルモノハ本則實施ノ日ヨリ廢止ス

第一條 一等二等郵便電信局長一等二等郵便電信分局事務受渡規則

第一條 一等二等郵便電信局長一等二等郵便電信分局長轉免ノ節ハ此規則ニ據リ事務ノ受渡ヲ為

スヘシ

但郵便局及電信分局合併ニ郵便電信局及郵便電信分局廢止ノ節モ尚ホ此規則ニ據リ受渡ヲ為

シ其廢局ノトキハ所轄遞信管理局長ヘ引繼ヲ為スヘシ

第二條 事務ノ受渡ハ新任局長赴任ノ日又ハ廢止ノ日ヨリ五日以内ニ完了スヘシ若シ其期限内ニ完了

シ能ハサルトキハ其事由ヲ具シ所轄遞信管理局長ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 區内郵便支局及郵便受取所郵便及電信切手賣下所貯金預所ハ其位置名稱主任人名給與金額等

ヲ記載セル書面ヲ以テ受渡ヲ為スヘシ

第四條 願同上申等ノ未濟事件及達命令又ハ其局ノ見込ニ因リ著手中及未著手中ノ事業ハ之カ措置ノ

意見ヲ付シタル書面ヲ以テ受渡ヲナスヘシ

第五條 契約書ノ類ハ特ニ目錄ヲ付シ受渡ヲ為スヘシ

第六條 金錢及切手類ハ各其受拂簿ニ記載セル當日ノ現在高ニ據リ受渡ヲ為スヘシ

但金庫ノ管守ニ屬スル金額ハ該管守證ニ依リ金庫ト對照スヘシ

第七條 諸物品ハ物品現在簿及受拂簿ニ記載セル當日ノ現在高ニ依リ又其消耗品中他ノ規則ニ從ヒ帳

簿ノ設ケナキモノハ當日ノ現在高ニ依リ現品ノ受渡ヲ為スヘシ

但本條及第六條ノ受渡ヲ了セシ上ハ現在高ノ次欄拂出ノ部ヘ事務受渡ニ付何某ヘ渡高ト書シ新任

局長ハ其次欄受ノ部ヘ事務受渡ニ付何某ヨリ受取高ト記入シ各捺印スヘシ尤モ規則上帳簿ノ設ケ

ナキモノハ此限リニアラス

第八條 處分濟回議書類ニシテ結了編纂セサルモノハ逐一目次ヲ付シテ受渡ヲ為スヘシ

第九條 金錢切手類ノ未決算ニ屬スルモノハ各種類別ニ其仕譯書ヲ作り決算ノ方案ヲ詳記シ之ニ關係

書類ヲ添付シテ受渡ヲ為スヘシ

第十條 事務引渡條件中制規例格ニ背戻シ受繼キ難キモノアルトキハ其事情ヲ具シ所轄遞信管理局長

ノ指揮ヲ受クヘシ

第十一條 前各條ニ據リ受渡完了ノ上ハ別紙第一號書式ニ倣ヒ事務受渡書ヲ作り第二號書式ニ依リ所

轄遞信管理局長ニ届出ツヘシ

第一號書式

(何郵便電信)又ハ(何郵便)局事務受渡書

書類ノ部

一 何郡區何町村何某ヨリ何々ノ儀願ノ件

一 何々伺又ハ上申ノ件

一 何々ノ件

處分未濟ノ件バ一々列記スヘシ

收入金ノ部

高金何程 郵便收入

一金何程 現在高

内 金何程 金貨

金何程 銀貨

外 金何程 通貨

金何程	金庫へ納付濟
内	遞信管理局へ成算濟
金何程	成算未濟納付證書何枚
高金何程	電信收入
一金何程	現在高
内	金貨
金何程	銀貨
外	通貨
金何程	金庫へ納付濟
金何程	遞信管理局へ成算濟
金何程	成算未濟納付證書何枚
高金何程	海外電信料
一金何程	現在高
内	金貨
金何程	銀貨
金何程	通貨
金何程	金庫へ管守預高

外	但管守證書何枚
金何程	電信局へ送納高
内	領收證何枚
金何程	領收證未著
金何程	雜收入ノ部
高金何程	收入高
一金何程	現在高
内	金貨
金何程	銀貨
外	通貨
金何程	金庫へ納付濟
金何程	但納付證書何枚
内	遞信管理局へ送納高
金何程	領收證書何枚
金何程	領收證書未著
以上各年度毎ニ區分シテ記載スヘシ	
但決算證書ヲ得タルモノハ此限ニアラス	

經費ノ部

高金何程
一金何程

何年度何年何月ヨリ

逓信管理局ヨリ受入高

現在高

但金庫管守預分

内

金何程

金貨

金何程

銀貨

金何程

通貨

外

金何程

仕拂高

内

金何程

成算高

金何程

但何月ヨリ何月マテ

金何程

成算未済高

金何程

領收證書何枚

金何程

概算支出高

年度毎ニ區分シテ記載スヘシ

領收證書何枚

但決算證書ヲ得タルモノハ此限ニ非ス

一金何程

決算證書何枚

(爲替金)又ハ(貯金)ノ部

一金何程

現在高

内

金何程

金貨

金何程

銀貨

金何程

通貨

但(爲替)又ハ(貯金)未拂報知書現在何枚分

此金高何程

保護預金

高金何程

何年何月何日ヨリ保護預

一金何程

現在保護預金

内

金何程

金貨

金何程

銀貨

金何程

通貨

外

何年何月分ヨリ

經費振替高

還納高

金何程

但領收證書何枚

金何程

但決算未済ノ分ヨリ起算スルモノトス

郵便切手ノ部

電信切手ノ部

計	種 事 類 由	受		拂			高		現在 高
		前年度越	本年度受取	買戻	雑收	買下	手数料	雑出	

契約書ノ部
 一家屋借入契約書
 一何々契約書
 財産ノ部
 何國何郡區何町何番地
 字何々形造
 一建家 桁行何間
 此建坪何程

何通
 何通
 一棟

計	種 事 類 由	受		拂			高		現在 高
		前年度越	本年度受取	買戻	雑收	買下	手数料	雑出	

内 二階家
 平家
 此附屬造作建具
 天井
 鴨居敷居
 襖
 障子
 何々
 一土藏 桁行何間
 梁間何間
 此建坪何程
 内 譯ハ建家ニ同シ
 器械及備品ノ部
 一押印臺
 一箆筒
 一通信器
 但シ—メン又ハ何々
 一時計
 内
 下ケ振時計
 何々時計
 一印類
 内
 局印

何程
 何程
 何間
 何本
 何本
 何程
 一棟
 何箇
 何箇
 何箇
 何箇
 何箇
 何箇
 何箇
 何箇
 何箇

承認印	何箇
日付印	何箇
爲替又ハ貯金日付印	何箇
小爲替金額印	何組
爲替印章	何箇
何々印	何箇
一秤量	何箇
一何々	何箇
以上局用ノ分	
一行囊	何箇
一蝦蟇口	何箇
一短銃	何挺
一何々	何箇
以上遞送集配用ノ分	
消耗品ノ部	
一美濃赤罝紙	何帖
一半紙同	何帖
一朱肉	何匁
一半切	何卷
一筆	何本
一何々	何程
爲替用紙ノ部	

イ號爲替願書	乙何枚
ロ號爲替證書	何枚
内	
甲號 何號ヨリ	何枚
乙號 何號マテ	何枚
丁號 同	何枚
同	何枚
一ニ號爲替受渡金事故往復書	何枚
但何號ヨリ何號マテ	
一ハ號爲替振出届書	何枚
一ト號報知書取戻掛合書	何枚
一又號爲替拂渡届書	何枚
一ワ號爲替金精算表	何枚
一ヨ號振替爲替依頼書	何枚
一レ號振替爲替證書	何枚
但何號ヨリ何號マテ	
一ツ號期限過報知書添書	何枚
一ソ號通知書	何枚
一ア號爲替資金出納書	何枚
一キ號立替金日計表	何枚
一ミ號爲替過超金無之證票	何枚
一ス號再渡爲替證書請求書	何枚
一ニ號拂渡停延書	何枚

- 一ウ號拂込金受領證書 何枚
- 一何々
- 貯金用紙ノ部
- 一第一號貯金預願 何枚
- 一第二號他局預入貯金預届書 何枚
- 一第三號認可願書 何枚
- 一第四號貯金拂渡届書 何枚
- 一第五號貯金拂戻願書 何枚
- 一第六號通帳受取證書 何枚
- 一第十七號自局預ケ人貯金預リ届書 何枚
- 一第十八號精算表 何枚
- 一第二十一號貯金納付證 何枚
- 一第二十八號拂戻資金受取證 何枚
- 一第三十七號貯金受拂精算表 何枚
- 一第三十九號利子記入通帳受取證 何枚
- 一第四十四號申告書受取書 何枚
- 一第五十號貯金即時渡方願書 何枚
- 一第五十四號通帳差出中預ケ金領收證書 何枚
- 一第七十二號貯金通帳引替願書 何枚
- 一何々
- 簿册ノ部
- 一現金受拂帳 何年何月ヨリ 何年何月ニ至 何册

- 一切手類受拂簿 同 何册
- 一經費金明細簿 同 何册
- 一爲替帳簿 同 何册
- 内
- ハ號爲替振出帳 何册
- ヒ號爲替現金受拂簿 何册
- エ號爲替拂渡簿 何册
- テ號爲替金出納簿 何册
- ヲ號爲替事務日誌 何册
- 一何々
- 一貯金帳簿 何年何月ヨリ 何年何月ニ至 何册
- 内
- 第八號貯金出納簿 何册
- 第十一號貯金預渡通帳 何册
- 但何號ヨリ何號マテ
- 第十一號別種貯金預渡通帳 何册
- 但何號ヨリ何號マテ
- 第十九號甲貯金預簿 何册
- 同 乙貯金拂渡簿 何册
- 同 何々 何册
- 一諸達册 何年何月ヨリ 何年何月ニ至 何册
- 一規則類 同 何册

内

三等郵便局長採用規則	何冊
同服務規則	何冊
同身元引受人規則	何冊
同手當給與規則	何冊
郵便受取所取扱人採用規則	何冊
同服務規則	何冊
同身元引受人規則	何冊
同手當給與規則	何冊
郵便取扱費給與規則	何冊
振替爲替規則	何冊
郵便爲替事務順序	何冊
郵便爲替資金及過超金廻送順序	何冊
貯金事務順序	何冊
何々	何冊
一回議冊	何年何月ヨリ 何年何月ニ至
何々	何冊
書籍ノ部	何冊
一類聚法規	何冊
一郵便條例	何冊
一電信條例	何冊
一何々	何冊

郵務研究會規程

二十一年七月遞信省公達
第百六十六號ヲ以テ訂正
追加ス

遞信省公達 第二十五號 遞信省管理局長郵便電信局郵便局

明治十八年九月驛遞局甲第二百十號達郵務研究會規程別紙ノ通改正シ來ル三月一日ヨリ施行ス
(別紙)

郵務研究會規程

- 第一條 三等郵便局長郵便事務研究ノ爲メ集會スルトキハ郵務研究會ト稱シ此規程ニ遵フヘシ
- 第二條 本會ヲ設置セントスルトキハ其會議規則ヲ添へ所轄遞信管理局長ノ認可ヲ受クヘシ其規則ヲ増減變更セントスルトキ亦同シ
- 第三條 遞信管理局長ハ前條會議規則中不都合ナシト見認ムルトキハ之ヲ認可シ直チニ具申スヘシ
- 第四條 本會一度ノ開會日數ハ五日以内トス
- 第五條 本會會員ハ一遞信管理區内ニ限ルヘシ
- 第六條 但會議議題比隣遞信管理區ニ關係アルトキハ其關係アル部分ニ限り聯合集會スルヲ得

第二號書式 以上

事務受渡届

當局事務別紙之通受渡相濟候ニ付連署ヲ以テ此段及御届候也

元何(郵便電信)(郵便)(電信分)局長
何 某印

何(郵便電信)(郵便)(電信分)局長
何 某印

年月日 何遞信管理局長何某殿

第七條 開會前開會期日及會場ヲ定メ尙聯合集會ヲ要スルトキハ其事由ヲ具シ所轄遞信管理局長ノ認可ヲ受クヘシ

第八條 遞信管理局長ハ會期及會場等不都合ナシト認ムルトキハ直チニ之ヲ認可スヘシ
但聯合集會ニ係ル事項ハ其關係アル遞信管理局長ト協議シ然ル後認可スヘシ

第九條 前條認可ノ後遞信管理局長ハ局員(判任官)一名ヲシテ本會ニ臨席監督セシメ其旨具申スヘシ

第十條 本會々員ハ郵便事務取扱上改良ノ意見アルトキハ之ヲ建議議題トナシ本會ヘ提出スルヲ得

第十一條 開會ヲ爲サントスルトキハ先ツ會員名簿及會議議題ヲ監督官吏ニ差出シ認可ヲ受クヘシ

第十二條 監督官吏ハ會員名簿及議題中不都合ナシト見認ムルトキハ直チニ認可スヘシ

第十三條 遞信管理局長ハ郵務上ニ關シ諮問ヲ要スルモノアルトキハ之ヲ議題トナシ本會ニ下付スルヲ得

第十四條 前條諮問議題ヲ本會ヘ下付シタルトキハ本會ニ於テ之ヲ審議スヘシ

第十五條 本會ハ諮問又ハ認可ヲ受ケタル議題ノ外事大小輕重ニ拘ハラズ一切議及スヘカラス

第十六條 本會議事ハ府縣及郡區ノ官吏并郵務ニ關係アル者ニ限り傍聽ヲ許スコトヲ得

第十七條 監督官吏ハ第十一條開會認可ノ後ト雖モ左ノ場合ニ於テハ中止又ハ解散ヲ命スヘシ
但中止又ハ解散ヲ命シタルトキハ其狀況ヲ詳細遞信管理局長ニ申報シ遞信管理局長ハ之ヲ具申スヘシ

一 諮問又ハ認可セサル議事ニ涉リタルトキ
一 郵務上妨害アリト思料シタルトキ
一 人身上ノ褒貶毀譽ニ涉リタルトキ
一 會場ノ整理ヲ紊リタルトキ

第十八條 監督官吏ハ前條事項ノ外本會議事ニ關シ發言スルヲ得ス

第十九條 本會ハ開會後十日以内ニ會員名簿議題及決議書ヲ添ヘ所轄遞信管理局長ヘ差出シ認可ヲ受

クヘシ
但議題及決議中建議又ハ諮問ニ係ル條件ハ第二十一條第二十二條ニ據リ處理スヘシ

第二十條 前條決議條件ハ認可ヲ受ケタルニ非サレハ施行スルコトヲ得ス
但認可ヲ受ケタル後ト雖モ特ニ施行期限ヲ指定シタルモノハ其期限ニ從フヘシ

第二十一條 第十條ニヨリ提出シタル建議議題本會ニ於テ可決シタルトキハ所轄遞信管理局ヲ經由シテ建議スヘシ

但遞信管理局長ハ意見ヲ附シテ進達スヘシ

第二十二條 遞信管理局長ヨリ諮問ヲ受ゲタル條件決議ノ上ハ其議事ノ顛末ヲ詳悉シテ答申スヘシ

第二十三條 遞信管理局長ハ前條答申ヲ受クレハ諮問ヲナシタル趣旨并其答申ニ對スル意見ヲ附シテ具申スヘシ

第二十四條 遞信管理局長ハ決議條件(第二十一條及第二十二條ヲ除ク)不都合ナシト認ムルトキハ之ヲ認可シ直チニ其決議及認可ノ條件并議事ノ狀況ヲ詳細具申スヘシ

但決議條件中比隣遞信管理區ニ關係シタル事項アルトキハ其管理局長ト協議ノ上認可スヘシ

第二十五條 前條認可條件中特ニ施行期日ノ指定ヲ要スルモノアルトキハ認可ノ際之ヲ指定スヘシ

第二十六條 本會會費ハ會員ノ自辨タルヘシ

第二十七條 本會ヨリ差出ス書類ハ都テ總代ノ名義ヲ以テスヘシ

第二十八條 本會ヲ廢止シタルトキハ其旨所轄遞信管理局長ヘ届出管理局長ハ之ヲ具申スヘシ

遞信省公達 二十年二月十七日
公達第十五號ヲ以テ郵務研究會規程改正候ニ付右實施ノ上ハ明治十八年九月驛遞局甲第二百一十一號達郵務研究會處理規程廢止ス

郵便受取所取扱人採用規則第八條中刪除

明治十九年三月二十七日公達第百八號郵便受取所取扱人採用規則第八條中(北海道廳長官又ハ府縣知事ニ照會シ)ノ十六字ヲ刪除ス

遞信省公達 第五十年三月二十六日 遞信省管理局郵便電信局郵便電信局
明治十九年第十六號同第十七號同第二十號同第二十六號同第二十七號同第百二十號及同第百二十一號
公達本月三十一日限廢止ス

(參照)

- 第十六號ハ地方郵便事務中驛遞局長掌理事項ノ件
- 第十七號ハ地方電信事務中電信局長掌理事項ノ件
- 第二十號ハ當分ノ内電信分局長ノ代理ハ技術官ヲ以テスルノ件
- 第二十六號ハ電信技手及助手ノ進退ニ關スル具狀ノ件
- 第二十七號ハ電信分局月給十五圓日給五十錢以下ノ雇員進退ノ件
- 第百二十號ハ郵便電信局技手技師及副長ノ命免ハ電信局長ヲシテ取扱ハシムルノ件
- 第百二十一號ハ電信技手及助手ノ歸省轉地療養願ハ電信局長ノ認可ヲ受ケシムルノ件

遞信省訓示

二十年三月二十六日

遞信省管理局郵便電信局郵便電信局

今般公達第五十七號ヲ以テ明治十九年公達第十六號外六號本年三月三十一日限廢止候ニ付テハ同年訓示第一號同第三號同第五號同第六號同第八號同第十三號ハ同日限自然消滅候儀ト心得ヘシ

(參照)

- 第一號ハ遞信管理局長及郵便局長處務章程權限外ノ雇員採用ノ件
- 第三號ハ電信分局月給十五圓日給五十錢以上ノ雇員進退ノ件
- 第五號ハ電信分局長代理ハ首座ノ技術官ト心得シムルノ件
- 第六號ハ電信分局分科章程定メ方ノ件
- 第八號ハ技手ヨリ兼務ノ電信分局長進退ニ關スル具狀ノ件
- 第十三號ハ郵便電信局技手及助手ニ關スル具狀ノ件

遞信省訓示

二十年三月二十六日

遞信省管理局郵便電信局郵便電信局

外國郵便電信及爲替ニ關スル事務ハ其局ヨリ直ニ本省へ提出セシム

遞信省訓示十九年第一號第三號第五號第六號第八號第十三號ヲ廢ス

遞信省公達十九年第一號第六號第十七號第二十號第二十六號第二十七號第百二十號第百二十一號ヲ廢ス

遞信管理以下職員命免方

電信線路不通報告外二件ハ電信局ヨリ直ニ本省へ提出セシム

郵便局長電信局長處務章程ヲ改正ス

郵便電信事務中外國郵便電信及爲替ニ關スル事務ニ限り郵便電信局郵便局及電信局ヨリ直ニ本省ニ稟申報告スヘキ儀ト心得ヘシ

遞信省訓示 二十年三月二十六日 遞信省管理局郵便電信局郵便電信局
遞信管理局郵便電信局郵便電信局備員命免辭令ノ儀ハ上官ノ認可ヲ承クヘキモノト否トヲ問ハス其局名ヲ以テ命免スル儀ト心得ヘシ

遞信省訓示

二十年三月二十六日

遞信省管理局郵便電信局郵便電信局

左ニ記載スル條件ニ限り來四月一日以降モ郵便電信局又ハ電信局ヨリ直ニ本省へ提出スヘキ儀ト心得ヘシ

- 一 電信線路不通報告ノ事
- 二 私報停止及電報披閱ニ關スル事
- 三 電報原書及附屬帳簿類進達ノ事

遞信省公達

二十年四月十六日

遞信省管理局郵便電信局郵便電信局

明治十九年公達第二號郵便局長處務章程電信分局長處務章程左ノ通改正來四月二十日ヨリ施行シ同年公達第百十九號郵便電信局長處務章程ハ同日限廢止ス

但郵便電信局長ハ郵便局長及電信局長處務章程ヲ併用スルモノトス

郵便局長電信局長處務章程
第一條 郵便局長ハ其郵便區内郵便受取所郵便切手賣下所ヲ管轄シ一等二等郵便局長ハ尙ホ郵便貯金預所ヲ管轄シ郵便及飛信事務ヲ掌理シ特ニ指定スル局ニ於テハ尙ホ郵便爲替又ハ郵便貯金事務ヲ掌理ス

二十一年三月遞信省公達第
四十六號ヲ以テ第一條
第二項ヲ改正ス

二十年五月遞信省公達第
三十七號ヲ以テ第三條但
書中三等ノ二字ヲ削ル

二十一年七月遞信省公達
第百五十一號ヲ以テ第六
條ヲ改正ス

二十一年三月遞信省公達
第四十六號ヲ以テ第六條
第二項ヲ改正ス

電信局長ハ其所屬電信切手賣下所ヲ管轄シ電信事務ヲ掌理ス

第二條 郵便局長電信局長ハ主管事務整理及部下職員監視上都テ其責ニ任ス

第三條 郵便局長電信局長ハ局務分科章程ヲ設ケ遞信管理局長ノ認可ヲ得テ施行スヘシ
但事務多端ナラサル三等局ニシテ分科章程ヲ要セサルモノハ此限ニアラス

第四條 郵便局長電信局長ハ局内處務順序ヲ定メ施行スルヲ得

第五條 郵便局長電信局長ハ局員ノ進退ヲ遞信管理局長ヲ經テ遞信大臣ニ具狀スルヲ得
但三等郵便局備員採用方ハ別ニ定ムル規則ニ從フヘシ

第六條 郵便局長ハ其郵便區内郵便受取所郵便切手賣下所郵便函ノ廢置郵便受取所取扱人ノ命免同上
身元引受人ノ選定郵便切手賣下人ノ許否ニ付其意見ヲ遞信管理局長ニ具狀スルヲ得一等二等郵便局
長ハ尚ホ其郵便區内郵便貯金預所ノ廢置郵便貯金預所取扱人ノ命免及同上身元引受人ノ選定ニ付其
意見ヲ具狀スルヲ得

電信局長ハ其所屬電信切手賣下所ノ廢置及電信切手賣下人ノ許否ニ付其意見ヲ遞信管理局長ニ具狀
スルヲ得

第七條 郵便局長電信局長ハ主管事務及特ニ遞信大臣ヨリ委任ヲ受ケタル事件ニ付各所ニ照會住復シ
又ハ廣告スルヲ得

第八條 郵便局長電信局長ハ別ニ定ムル規程ニ從ヒ事務ノ狀況ヲ遞信管理局長ニ報告スヘシ

郵便局長電信局長委任
條件ヲ定ム

遞信省公達 第七十八號 四月十六日
郵便局長電信局長委任條件左ノ通相定メ來四月二十日ヨリ施行ス

但郵便電信局長ハ郵便局長及電信局長委任條件ヲ併用スルモノトス

郵便局長電信局長委任條件

第一條 左ニ記載スル條件ハ郵便局長又ハ電信局長專決施行スルヲ得

一 月給十圓日給四十錢以下ノ備員ヲ進退スルコト
但施行ノ後遞信管理局長ニ届出ツヘシ

二 局員ノ服務ヲ指定スルコト

第二條 左ニ記載スル條件ハ郵便局長專決施行スルヲ得

一 郵便物集配時刻ヲ定ムルコト

二 集配人郵便物集配受持區ヲ定ムルコト

三 郵便物大集配傳送方又ハ交換所ヲ定ムルコト

四 郵便切手類ヲ郵便受取所郵便切手賣下所ニ賣下シルコト

五 郵便私書函ヲ貸與スルコト

六 郵便又ハ飛信ニ關スル犯罪ニシテ證據埋滅ノ恐レアル場合ニ於テ告訴告發ヲナスコト

第三條 左ニ記載スル條件ハ電信局長專決施行スルヲ得

一 電信切手ヲ電信切手賣下所ニ賣下シルコト

二 電信ニ關スル犯罪ニシテ證據埋滅ノ恐レアル場合ニ於テ告訴告發ヲナスコト

遞信省公達 第二十八號 四月二十一日

明治十九年 公達第百八號 郵便受取所取扱人採用規則第十條 辭令第三號書式(管理局印)ノ樣式ヲ削

遞信省達 第二十五號 四月二十二日

在海外郵便局電信局ハ其局管理ニ附ス

遞信省公達 第二十八號 四月二十三日

二十年十月遞信省公達第
二百七十三號ヲ以テ第一
條三項追加

二十一年七月遞信省公達
第百五十一號ヲ以テ第四
項追加并四五六項ヲ五六
七項トス

二十一年三月遞信省公達
第四十六號ヲ以テ第一項
削除

郵便受取所取扱人採用
規則中削除

在海外郵便局電信局ヲ
外信局ノ管理ニ附ス

郵便切手賣下所ノ設置
並ニ充テルトキノ辭令
書式ヲ定ム

明治十九年六月公達第二十四號ヲ廢ス

電信支局規程ヲ定ム

逓信省公達 第二十年四月二十三日 逓信省 逓信支局規程左ノ通之ヲ定ム

電信支局規程

- 第一條 電信支局長及支局員ハ本局長其本局員中ヨリ選定スヘシ
但支局長ノ命免ハ逓信管理局長ノ認可ヲ受クヘシ
- 第二條 電信支局ノ掌理スヘキ事件左ノ如シ
 - 一 電報ヲ受付及發送スル事
 - 二 配達受持町村内ニ到達スル電報ヲ受け及配達スル事
 - 三 電報ヲ中繼スル事
 - 四 電報料及電報手數料受拂ノ事
 - 五 電信切手ヲ公衆ニ賣下クル事
- 第三條 前條掌理事件ハ其地方ノ狀況ニ依リ之ヲ増減スルコトアルヘシ
本局長其増減ヲ要スルトキハ逓信管理局長ニ具狀スヘシ
- 第四條 電信支局配達受持區ハ本局長之ヲ定メ逓信管理局長ノ認可ヲ得テ施行スヘシ
- 第五條 電信支局長ノ處務權限其他局務整理ニ關スル規程ハ本局長之ヲ定メ逓信管理局長ノ認可ヲ得テ施行スヘシ
- 第六條 電信支局長ハ其支局主管事件ニ付テハ總テ其責ニ任ス

電信支局設置ニ付テノ照會ハ管理局長ノ指揮ヲ受ケンム

逓信省公達 第二十年四月二十五日 逓信省 逓信支局設置ニ付廢局ニ係ル事務ハ本年公達第十號事務受渡規則ニ準シ所在郵便電信局又ハ電信局ヘ

引渡方取扱ハシムヘシ

東京管理局ヘハ本文中郵便電信局又ハノ七字ヲ除ク

電報取扱方ニ付テノ照會ハ管理局長ノ指揮ヲ受ケンム

逓信省訓示 第二十年四月二十七日 逓信省 電報取扱方ノ儀ニ付本省課ヘ宛直ニ照會ノ向モ有之候處右ハ所管逓信管理局長ノ指揮ヲ受クヘキ儀ト心得ヘシ

郵便受取所取扱人採用規則中追加

逓信省公達 第二十年四月二十九日 逓信省 明治十九年十二月公達第百八號郵便受取所取扱人採用規則第十條辭令第二號第三號書式年月日ノ次ヘ何遞信管理局ノ六字及第三號書式何ノ誰ノ上ニ何郵便受取所取扱人ノ九字ヲ追加ス

電信支局長ハ書記ヲ以テ之ニ充ツ

總務局長 第二十年四月二十九日 逓信省 電信支局長ハ郵便電信書記又ハ電信書記ヲ以テ充ツヘキ儀ト心得關係ノ局ヘ示達スヘシ

在外國郵便電信局規程ヲ定ム

逓信省公達 第二十年四月三十日 逓信省 在外國郵便電信局規程左ノ通り相定ム

在外國郵便電信局規程

- 第一條 在外國郵便電信局ハ海外ノ郵便電信ニ關スル諸般ノ事務ヲ掌理シ其地ニ在ル郵便切手賣下所ヲ管轄シ特ニ指定シタル局ニ於テハ爲替及貯金ノ事務ヲ掌理ス
- 第二條 局長ハ逓信屬若クハ逓信技手ヲ以テ之ニ充ツ
局長ハ主管事務ノ整理上及局員又ハ郵便切手賣下人ノ監督上總テ其責ニ任ス
- 第三條 局員ハ逓信屬逓信技手又ハ備員ヲ以テ之ニ充ツ
局員ハ事ヲ局長ニ承ケ局務ニ從事ス

第四條 局長ハ成規定例アル事件ハ之ヲ專行シ成規定例ナキモノ及重要ナル事件ハ遞信大臣ノ指揮ヲ請フヘシ

局長ハ其地駐在領事官ノ監督ヲ受クヘシ

第五條 局長ハ局員ノ進退黜陟ヲ遞信大臣ニ具狀スルヲ得其月給十圓日給四十錢以下ノ備員ノ命免ハ之ヲ專行シテ遞信大臣ニ届出ツヘシ

第六條 局長ハ局員ニ除服出仕ヲ命シテ後遞信大臣ヘ届出ルコトヲ得

第七條 局長ハ毎月事務ノ狀況ヲ遞信大臣ニ報告スヘシ

遞信省公達 第九十八號 遞信管理局郵便電信局郵便局電信局

郵便物集配及電報配達ヲ爲スモノヲ集配人ト稱ス

集配人ニ關スル諸規則ハ運輸門郵便電信ニ載ス

元郵便物集配人及電信驅使ニ關スル從前ノ達ハ爾後ノ達ニ依テ改正又ハ消滅ニ屬スルモノ、外集配人ニ適用スル儀ト心得ヘシ

遞信省公達 第九十六號 遞信管理局郵便電信局郵便局電信局

明治十九年十一月 第九十六號公達郵便集配人取締役規則ハ電信局ニモ亦適用ス

郵便集配人取締役規則ヲ電信局ニ適用ス

郵便集配人取締役規則第一條ニ但書ヲ追加ス

遞信省公達 第九十七號 遞信管理局郵便電信局郵便局電信局

明治十九年十一月 第九十七號公達郵便集配人取締役規則第一條ニ左ノ但書ヲ追加ス

第一條 云云

但集配人ノ總員四人以下ノ局ハ取締役ヲ置カス

郵便集配人取締役規則第三條第二項ヲ削除ス

遞信省公達 第九十九號 遞信管理局郵便電信局郵便局電信局

但明治十九年公達第九十六號郵便集配人取締役規則第三條第二項ハ之ヲ削除ス

郵便受取所取扱人採用規則第十二條ヲ改正ス

遞信省公達 第一百零九號 遞信管理局

明治十九年十一月 公達第一百零八號郵便受取所取扱人採用規則第十二條左ノ通改正ス

第十二條 新ニ郵便受取所ヲ設置スルトキハ内信局長ヨリ所轄遞信管理局長ニ通牒スヘキニ付管理局長其通牒ヲ受タルトキハ取扱人ヲ選定シ其旨内信局長ニ通報スヘシ

電信取扱所ノ所員設置方

遞信省公達 第一百零九號 遞信管理局郵便電信局電信局

電信取扱所ノ所員ハ其地方ノ郵便電信局又ハ電信局ノ局員ヲ以テ之ニ充ツ其所員中一名ヲ主務トス但主務ノ命令ハ遞信管理局長ノ認可ヲ受クヘシ

遞信技手ニシテ他ノ事務兼勤ノ者ニ給與スル手當額

遞信省公達 第一百零七號 遞信管理局郵便電信局電信局

通信技手ニシテ他ノ事務兼勤ヲ命シタル者ニ給與スル手當金ハ本年五月三十日限り廢止ス

(參照)

工部省同 十四年八月四日

各地電信分局詰通信技手ノ外更ニ會計事務ノ者夫々在勤爲致候處爾來通信技手ノ内ニテ事馴レ候者モ有之ニ付兼勤爲致候得者往々該事務專任ノ者モ相省ケ營業上便益モ不少候處前陳本務外ノ事務爲取扱候上ハ其勤勞モ又之レニ倍シ候儀ニ付右等ノ者ハ特ニ進級セシムヘキ哉ト存シ候得共之レヲ熟考スルニ一旦兼勤候者ニテモ或ル場合ニ於テハ他局ヘ轉勤更ニ技術ノミ事務申付候義モ有之且技手等級ハ技術ノ優劣ニ因リ一般其差等ヲ定ムル者ニ付特ニ兼務ノ故ヲ以テ進級セシム候テハ他日通常ノ技手ニ復シタル時他ノ技手ニ對シ自ラ不權衡ヲ生シ候儀ニ付進級ハ到底難相行因テ右兼務中ニ限リ一箇月金

二回ヨリ不少七回ヨリ不多金額ヲ目的トシ事務ノ繁閑等ヲ酌量シ其月十五日前後ノ區分ヲ以テ適宜手
當金給與致度此段相伺候也
指令十四年九月十六日
伺之趣聞届候事

郵便局長電信局長職務
章程第三條但書中削除

遞信省公達 第二十年五月十九日
本年四月公達第七十七號郵便局長電信局長處務章程第三條但書中多端ナラサルノ下(三等)ノ二字ヲ削除
ス

精選郵便電信局在勤ノ
技師取扱方

東京遞信管理局ヨリ遞信省へ稟申二十年五月二十七日
當管理區内横濱郵便電信局ニ今般技師ヲ被置候ニ就テハ該技師ノ勤務ハ一般通信技師同様相心得可然
哉果シテ右ノ通ナレハ技師科長ヲ命スルモ苦カラス儀ニ候哉又局長事故アルトキハ該技師ヲ局長
ノ代理セシムルモ差支無之儀トハ存候へ共他ニ明文無之ニ付爲念相伺候條至急何分ノ御指揮相成度依
テ稟申ス

遞信省指令 二十年六月四日

書面局長代理ハ稟申ノ通

但勤務ノ儀ハ本年第二百七十六號達ノ通心得ヘシ

在朝鮮國支局在勤員
月手當給與規則

遞信省達 第二十年五月二十八日
在朝鮮國支局在勤員月手當給與規則左ノ通相定メ來六月一日ヨリ施行ス

但從前支給セシ朝鮮國在勤電信局員月手當ハ本月三十一日限り廢止ス

在朝鮮國支局在勤員月手當給與規則

第一 在勤ヲ命シタル者ハ任地著翌日ヨリ歸朝又ハ任地替ノ爲メ出發前日迄左ノ手當金ヲ給ス但昇
等降等(發令ノ翌日)等ノ月ハ其月ノ日割ヲ以テ支給ス

等	給	月	手	當
判任 一等ヨリ 四等マデ	十五圓			
同 十五ヨリ 十等マデ	十圓			
備 七圓				
工夫 五圓				

- 第二 在勤中死亡ノ者ハ其月分ノ全額ヲ支給ス
- 第三 在勤地ニ於テ採用シタル備及工夫へハ支給セス
- 第四 歸省其他私事旅行中ハ給與セス
- 第五 他方へ出張シ旅費及日當ヲ給スル間ハ支給セス

○釜山仁川元山各郵便局へ但書ヲ除キ同文ヲ以テ達アリ

遞信省公達 第二十年六月十三日
郵便電信局電信局長以下電信通信技師定員左表ノ通り相定メ來七月一日ヨリ施行ス

但郵便電信局長及定員十名以上アル電信局長(支局長共)ハ本表中之ヲ除ク

郵便電信局電信局技師定員表

局名	局名	局名	局名	局名	局名	局名	局名	局名	局名
東京 支局	東京 支局	東京 支局	東京 支局	東京 支局	東京 支局	東京 支局	東京 支局	東京 支局	東京 支局
支局	支局	支局	支局	支局	支局	支局	支局	支局	支局
支局	支局	支局	支局	支局	支局	支局	支局	支局	支局
支局	支局	支局	支局	支局	支局	支局	支局	支局	支局
支局	支局	支局	支局	支局	支局	支局	支局	支局	支局
支局	支局	支局	支局	支局	支局	支局	支局	支局	支局
支局	支局	支局	支局	支局	支局	支局	支局	支局	支局
支局	支局	支局	支局	支局	支局	支局	支局	支局	支局
支局	支局	支局	支局	支局	支局	支局	支局	支局	支局

岩	余	室	室	浦	帆	大	訓	厚	濱	名	桑	四	津	豐	岡	一	半
内	市	蘭	小	川	泉	津	路	岸	中	古	名	日	橋	崎	宮	田	田
西	松	山	島	岐	關	大	岡	廣	取	尾	玉	赤	長	取	佐	福	
尾	阪	田	羽	島	村	垣	山	島	所	道	島	關	崎	所	賀	岡	
山	大	萩	岩	三	小	大	中	柄	伊	柳	三	唐	嚴	松	鳥	濱	
口	分	米	國	厩	倉	橋	津	崎	里	米	川	池	津	原	江	取	
境	子	熊	宮	鹿	延	肥	代	八	八	八	九	龜	島	知	高	今	
撫	八	宇	金	島	福	敦	伏	高	小	武	阪	大	小	七	東	魚	
養	濱	和	澤	井	井	賀	木	岡	濱	生	港	聖	寺	尾	瀬	津	
長	上	小	松	稻	松	上	伊	飯	福	福	白	若	須	郡	三	二	
野	田	諸	代	山	荷	諏	那	田	島	島	河	松	川	山	春	本	
仙	石	野	盛	一	花	釜	宮	白	山	酒	秋	米	小	新	鶴	能	
登	卷	岡	野	之	卷	石	古	石	形	田	田	澤	出	庄	岡	代	

遞信省公達 第二十年七月二十六日 官制 遞信省 遞信省公達 第二十年七月二十六日 官制 遞信省 遞信省公達 第二十年七月二十六日 官制 遞信省

本年公達第百五十號 遞信省公達 第二十年七月二十六日 官制 遞信省 遞信省公達 第二十年七月二十六日 官制 遞信省

本年公達第百五十號 遞信省公達 第二十年七月二十六日 官制 遞信省 遞信省公達 第二十年七月二十六日 官制 遞信省

本年公達第百五十號 遞信省公達 第二十年七月二十六日 官制 遞信省 遞信省公達 第二十年七月二十六日 官制 遞信省

本年公達第百五十號 遞信省公達 第二十年七月二十六日 官制 遞信省 遞信省公達 第二十年七月二十六日 官制 遞信省

本年公達第百五十號 遞信省公達 第二十年七月二十六日 官制 遞信省 遞信省公達 第二十年七月二十六日 官制 遞信省

本年公達第百五十號 遞信省公達 第二十年七月二十六日 官制 遞信省 遞信省公達 第二十年七月二十六日 官制 遞信省

本年公達第百五十號 遞信省公達 第二十年七月二十六日 官制 遞信省 遞信省公達 第二十年七月二十六日 官制 遞信省

本年公達第百五十號 遞信省公達 第二十年七月二十六日 官制 遞信省 遞信省公達 第二十年七月二十六日 官制 遞信省

本年公達第百五十號 遞信省公達 第二十年七月二十六日 官制 遞信省

遞信省公達 第二十年六月十三日 官制 遞信省 遞信省公達 第二十年六月十三日 官制 遞信省 遞信省公達 第二十年六月十三日 官制 遞信省

第三條 地方豫備員ハ遞信管理局長豫メ其區內在勤ノ通信技手中ニ就テ直ニ之ヲ命シ中央豫備員ハ本大臣每管理區內在勤技手及電信學校卒業無任所技手中ニ就キ直ニ之ヲ命シ又各其駐在局ヲ指定スルモノトス

第四條 技手定員中病氣其他事故ニ依リ服務スルコト能ハス定員ニ其缺ヲ生シタルトキ又ハ事務ノ繁劇ニ依リ臨時増員ヲ要スルトキニ於テハ遞信管理局長其區豫備員中ヨリ之ヲ補充スヘシ其豫備員ニ不足アリテ其管理區内ノ技手ヲ彼此流用スルモ猶不足アルトキハ其事由ヲ具シ技手ノ派遣ヲ本省ニ稟申シ詮議裁定ノ上之ヲ派遣スルモノトス

但定員中轉任退官若クハ死亡等ニ依リ補缺ノ爲メ其局員ヲ要スルモノハ一般ノ例規ニ從ヒ遞信管理局長ノ具狀ニ依リ更ニ其局員タルコトヲ命スルモノトス

第五條 遞信管理局長前條補缺ノ場合ニ當リ臨時至急ヲ要スルカ若クハ適任ノ豫備員ナキトキハ先ツ其近傍局員中ヨリ之ヲ補充シ豫備員ヲ以テ順次其缺ヲ充タズヲ得

中央豫備員派遣ノ場合ニ於テ前項ニ同シキ事實アルトキハ其例ニ依ル

第六條 豫備員ハ平時各其指令ヲ受ケタル駐在局ニ在勤シ其他局ニ缺員又ハ増員等アリテ補充ノ爲メ臨時在勤ノ命ヲ受ケタルトキハ其局ニ出仕シ當該局員ト同一ニ服務スルハ勿論其責任義務總テ當該局員ニ同シキモノトス

第七條 豫備員ノ俸給其他經費ハ其駐在局ノ定額ヨリ支出スルモノトス

地方豫備員

名	職	區	駐在局		名	職	區	駐在局	
			員	備				員	備
東	大	東	一〇	日本橋	二	橫	濱	二	靜
大	阪	大	三	高麗橋	一	川	口	一	神
新	潟	新	一	直江津	一	札	幌	一	根
函	館	函	二	青森	一	四	日市	一	室
古	屋	古	一	桑名	一	四	日市	一	根
山	形	山	一	盛岡	一				

岡	山	岡	山	一					
赤	間	赤	間	二	長	崎	二	福	岡
松	江	松	江	一					
熊	本	熊	本	一					
丸	龜	丸	龜	一	松	山	一		
金	澤	金	澤	一	富	山	一	敦	賀
長	野	長	野	一					
福	島	福	島	一					
仙	臺	仙	臺	一					
山	形	山	形	一	盛	岡	一		

遞信省公達 第九十九號 遞信管理局

本年六月公達第百五十一號通信技手定員豫備規則第四條ノ場合ニ於テ豫備員ヲ在勤セシメタルトキハ其都度届出ツヘシ

遞信省公達 第九十九號 遞信管理局

本年公達第百五十一號通信技手地方豫備員表中福島郵便電信局豫備員ヲ二名ト改ム

遞信省公達 第九十九號 遞信管理局

郵便電信局郵便電信局昇降時限ノ儀ハ事務ノ繁閑ニ依リ局長限リ便宜相定メ其時々所轄遞信管理局長へ届出ヘシ

但其時限ハ遞信管理局ノ昇降時限ヨリ短縮スルヲ得ス

遞信省公達 第九十九號 遞信管理局

海外へ派遣ノ電信建築
工夫ノ旅費ハ備員ニ準
限ハ該局長便宜之ヲ定

在朝鮮國郵便電信局等へ在勤又ハ同國へ出張セシムル電信建築工夫ノ旅費ハ支度料ヲ除クノ外總テ備員ニ準シ之ヲ支給ス

技手ニシテ郵便電信局
記ヲ載ル者事務取扱方

遞信省訓示 第二十四號 遞信管理局郵便電信局電信局
技手ニシテ郵便電信書記又ハ電信書記ヲ兼任スルモノト雖トモ平素必スシモ書記ノ事務ヲ取扱ハシムルニ及ハス須要ノ時ニ方リ便宜書記ノ事務ヲ取扱ハシムヘシ

郵便電信局長電信局長
技術執務規程及電機通
信技術官心得

遞信省公達 第二十四號 遞信管理局郵便電信局電信局
郵便電信局長電信局長技術執務規程及電機通信技術官心得別冊ノ通り相定ム

二十一年三月公達第三十
號ヲ以テ執務規程第八條
改正

郵便電信局長電信局長技術執務規程

第一條 郵便電信局長電信局長ハ技術ニ關スル諸般ノ事ヲ整理スル爲メニ本局并ニ各支局ニ技術主任ヲ置キ所管遞信管理局長へ届出ヘシ

第二條 技術主任ノ數ハ局務ノ繁閑ニ依リ一名若クハ二名トス尤人員少數ノ局ニ於テハ局長其責ニ任スヘシ

第三條 郵便電信局長電信局長ハ技術官心得ニ據リ技術主任ヲシテ一回線中呼答通信障礙及局内機械電池ノ事ニ付常ニ注意セシムヘシ

第四條 郵便電信局長電信局長ハ技術主任ヲシテ毎日機械擔任者線路試驗擔任者等ヲ指定シ各其擔任ヲ懈怠セサル様注意セシムヘシ

第五條 郵便電信局長電信局長ハ電信線路不通障礙及全通ノ節直チニ電信建築技術官ニ通知スヘシ若不在等ニテ直ニ通知シ能ハサルトキハ電信建築工夫へ出張ヲ命シ又ハ技術主任ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得尤取計濟ノ上建築技術官へ通知スヘシ

第六條 郵便電信局長電信局長ハ電信建築長ト協議ノ上電池掃除及ヒ改造等ニ電信建築工夫ヲ使役シ

又ハ技術主任ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

第七條 郵便電信局長電信局長ハ建築技術官巡回ノ節線路ノ模様及電氣機具ノ良否等ニ付承合詢議シ又ハ技術主任ヲシテ之ヲナサシムヘシ

第八條 郵便電信局長電信局長ハ技術主任ヲシテ左ニ掲クル電報及諸表ヲ調整セシメ左ノ各項ニ據リ夫々報告スヘシ

第一項 雷鳴及ヒ之ニ際シ器械取扱ノ大略

第二項 地電氣現象

以上ハ本省工務局へ電報

第三項 線路不通

第四項 線路全通

以上ハ本省工務局所管遞信管理局部内建築技術官各郵便電信局電信局へ電報

第五項 線路不通障礙原因調(番式第一號)

以上ハ原因地所轄建築技術官連署ノ上所管遞信管理局へ即報

第六項 据付器械ノ増減破損及交換

第七項 毎朝線路試驗ノ成績

第八項 電池試驗表(番式第二號)

第九項 機械修繕

以上ハ所管遞信管理局へ旬報

第十項 機械室模様替

第十一項 現用機械并ニ電池數調(番式第三號)

第十二項 回線通信數區別(番式第四號)

第十三項 通信技術官事務分擔調(番式第五號)
第十四項 通信技術官伎倆ノ概況(番式第六號)
以上所管遞信管理局へ月報
(番式及ヒ電機通信技術官心得略ス)

遞信省公達 第二十年十月二十六日
郵便局長電信局長委任條件第一條第二項ノ次へ一項ヲ追加ス
三 局員ノ除服出仕ヲ命スル事

遞信省公達 第二十年十月二十六日
集配人宿直人員ハ遞信管理局局長之ヲ定ムヘシ
但遞信管理局長其人員ヲ定メ又ハ變更シタルトキハ其都度内信局ニ報告スヘシ

遞信省公達 第三十年十一月十七日
明治十八年七月元驛遞局達甲第六十四號及同第六十五號郵便局雇員採用規則同服務規則ハ郵便電信局及電信局雇員ニモ適用ス

遞信省公達 第三十年十一月二十八日
左表ノ通電信回線及電報中繼局ヲ改正シ來ル十二月一日ヨリ施行ス

郵便局長電信局長委任條件第一條第二項ノ次へ一項ヲ追加ス

集配人宿直人員ハ遞信管理局局長之ヲ定ム

元驛遞局制定ニ依ル郵便局雇員採用規則及服務規則ハ郵便電信局及電信局雇員ニ適用ス
甲第六十四號第六十五號ハ遞信省ノ部ニ載ス

電信回線及電報中繼局ヲ改正ス

二十一年五月遞信省公達第六百四十一號ヲ以テ改正ス

電 報 通 路	現在中繼局	改正中繼局	摘 要
兵庫東川崎ト東京間	大阪	神戸	
大阪以東萩濱田間	赤間	松江	
出石生野姫路以東間	姫路	豊岡	
姫路小濱間	姫路	津	
名古屋日本橋間	東京	東京	東京局ノ中繼ヲ廢シ直通トス
上田大阪以西間	直江津	名古屋	
八王子上諏訪間ト大阪以西間	名古屋	東京	神戸ノ中繼ヲ廢シ直通トス
京都御影間	神戸	大阪	大阪ノ中繼ヲ廢シ直通トス
神戸洲本間	大 阪	東京	東京ノ中繼ヲ廢シ直通トス
四谷櫻木横濱間	東 京	同	
本郷横濱間	東 京	同	
深川兩國横濱間	東 京	同	
淺草日本橋品川間	東 京	同	
大阪本支局 <small>川口ヲ除ク</small> 堺和歌山間	大 阪	川口ヲ除キ大阪府各局ト堺和歌山間ヲ直通トス	
大阪伏見奈良間	大 阪	京都ノ中繼ヲ廢シ直通トス	
唐津伊萬里柄崎間	京 都	唐津線ノ柄崎器械ヲ若津線ニ移ス	
長崎久留米間ト柳川八代間	長 崎	長崎ト熊本鹿兒島間ハ從前ノ通り	

逓信省公達 第三百八號 逓信省公達 第三百八號 逓信省公達 第三百八號 逓信省公達 第三百八號

勅令 第六十六號 逓信省公達 第三百八號 逓信省公達 第三百八號 逓信省公達 第三百八號

三等郵便局長任用方 二十一年四月逓信省令第一號 逓信省公達 第三百八號

逓信省令 第十九號 逓信省令 第十九號 逓信省令 第十九號

逓信省令 第十九號 逓信省令 第十九號

第一條 電機ノ施設及修築ノ工事ヲ修理スル爲メ逓信管理區ヲ若干部ニ分チ電信局長ノ管理ニ屬セシム

第二條 各逓信管理區及ヒ其各部ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

- 建築主事 一人 技術官
建築手 若干人 技術官
建築主計 一人 屬

但便宜之ヲ置カサルコトアルヘシ

第三條 主事ハ事ヲ電信局長ニ承ケ其區内ノ建築事務ヲ掌理ス

第四條 主事ハ其區内ヲ巡視シ線路機械及電池ノ良否ヲ検査スヘシ

第五條 主事及建築手ハ斷線其他非常急務ノ場合ニ於テハ同ヲ經ス直ニ其區及部内ニ出張スルコトヲ得

- 第六條 主事事故アルトキハ其區内高級ノ建築手ヲシテ代理セシムヘシ
第七條 主事ハ其區内ノ事務ヲ電信局長ニ報告スルモノトス
第八條 建築手ハ事ヲ主事ニ承ケ各一部内ノ建築事務ニ從事ス
第九條 主計ハ主事ノ命ヲ承ケ區内ノ會計事務ニ從事ス
第十條 主事ハ其區内ノ會計事務ヲ會計局長ニ報告スルモノトス

逓信省公達 第九十九號 逓信省公達 第九十九號

逓信省公達 第九十九號 逓信省公達 第九十九號

逓信管理區ヲ部分シ電信建築區域ヲ定メ建築主事及建築手ヲ配置ス主事ハ第一部ニ在テ全區ヲ總轄シテ時ニ第一区内ノ工事ヲ負擔シ建築手ハ各部ニ在テ其工業ニ從事ス建築主計ハ當分東京及大阪管理區ノミ之ヲ置ク但東京大阪兩區ノ主事ハ區内事務多端ノ時ハ同本居ノ建築手ヲシテ第一部ノ工事ヲ助務セシムヘシ

東京逓信管理區

- 第一部 (東京市街) 建築主事本居 東京
第二部 (新橋方面) 建築手本居 東京
第三部 (兩國方面) 同 東京
第四部 (千住方面) 同 東京
第五部 (上野方面) 同 東京
第六部 (新宿方面) 同 東京
第七部 同 小田原

第八部	同	靜岡
第九部	同	千葉
第十部	同	宇都宮
第十一部	同	高崎
第十二部	同	甲府
大阪逓信管理區		
第一部 (大阪市街)	建築主事本居	大阪
第二部 (京都方面)	建築主事本居	大阪
第三部 (和歌山方面)	建築主事本居	大阪
第四部 (神戸方面)	同	大阪
第五部	同	大津
第六部	同	官津
第七部	同	豐岡
新潟逓信管理區		
第一部	建築主事本居	新潟
第二部	建築主事本居	長岡
第三部	同	直江津
函館逓信管理區		
第一部 (青森方面)	建築主事本居	函館
第二部 (八戸方面)	建築主事本居	青森
第三部	同	青森
第四部	同	青森

第五部	同	札幌
第六部	同	幌泉
第七部	同	根室
名古屋逓信管理區		
第一部	建築主事本居	名古屋
第二部	建築主事本居	津
第三部	同	岐阜
岡山逓信管理區		
第一部	建築主事本居	岡山
第二部	建築主事本居	廣島
赤間關逓信管理區		
第一部	建築主事本居	赤間關
第二部	建築主事本居	三田尻
第三部	同	福岡
第四部	同	長崎
第五部	同	大分
松江逓信管理區		
第一部	建築主事本居	松江
第二部	建築主事本居	鳥取
第三部	同	濱田
熊本逓信管理區		
第一部	建築主事本居	熊本

第二部	建築手本居	鹿兒島
第三部	同	官崎
丸龜逓信管理區		
第一部	建築主事本居	丸龜
第二部	建築手本居	今治
第三部	同	松山
第四部	同	高知
金澤逓信管理區		
第一部	建築主事本居	金澤
第二部	建築手本居	富山
第三部	同	敦賀
長野逓信管理區		
第一部	建築主事本居	長野
第二部	建築手本居	松本
第三部	同	上諏訪
福島逓信管理區		
第一部	建築主事本居	福島
第二部	建築手本居	白河
仙臺逓信管理區		
第一部	建築主事本居	仙臺
第二部	建築手本居	一ノ關
第三部	同	盛岡

山形逓信管理區		
第四部	同	釜石
第一部	建築主事本居	山形
第二部	建築手本居	酒田
第三部	同	横手
第四部	同	秋田

逓信省官制規程
二十年三月逓信省令第一
號ニ依リ制定

逓信省公達 第十九年十二月六日
逓信省官制規程左ノ通り之ヲ定ム

逓信省官制規程

第一條 建築主事ハ區内電線ノ施設保守及電氣機具ニ關スル工事ヲ處理シテ通信ノ用ヲ完全ナラシムルコトヲ掌ル

第二條 建築主事ハ主管ノ事務ヲ整理シ部下職員ノ勤惰ヲ監視スヘシ

第三條 建築主事ハ左ニ掲クル條件ハ之ヲ專行スルコトヲ得ト雖モ其他ハ電信局長ノ指揮ヲ請フヘシ

但第一第二第五項ノ件ハ實施ノ後電信局長ニ届出ヘシ

一線路非常ノ災害ニ罹リタルトキ之ヲ修理スル事

二電信分局非常ノ災害ニ罹リ局務ヲ扱ヒ難キトキハ分局長ト協議シテ假局ヲ設ケ通信機械ヲ移ス事

三柱杆腕木笠木等ノ不時毀損ヲ生シテ修築ノ期ヲ待チ得ヘカラサルモノヲ修理スル事

四工業從事ノ人夫ヲ賃借シ及消耗品ヲ購買スル事

五區内看守人ヲ適宜ニ配置交換スル事

六工夫ノ父母病氣看護ノ爲メ歸省及自己病氣ノ際轉地療養ノ願ヲ許否スル事

七前各項ノ外成規命令アル事件ヲ執行スル事

二十年一月逓信省公達第一
五號ヲ以テ第三條第八項
追加

- 第四條 建築官官制第四條ニ掲グル主事ノ巡視ハ一箇年三回トス
- 第五條 建築主事ハ電信局長ノ認可ヲ得テ主計ヲ區内ニ派出セシムルコトヲ得
- 第六條 建築主事ハ區内電信分局機械室電池室ノ模様替及所屬建物ノ改築ニハ必ス之ニ干與スヘシ
- 第七條 建築主事ハ第三條ノ第一第二第三第四項ノ件ヲ建築主事ニ委任スルコトヲ得
- 第八條 建築主事ハ電信局長ノ認可ヲ得テ工夫及工夫兼看守人ノ雇免昇等降級及給料ノ増減ヲ執行スルコトヲ得但一時モ猶豫シ難キ事故ニ依リ放免スヘキモノアリテ認可ヲ請フ暇ナキ場合ハ臨機處分シテ後届出ルコトヲ得
- 第九條 建築主事建築主事ハ主計ノ在ル區内ト雖トモ其一部ノ會計ヲ擔任スルコトアルヘシ
- 第十條 建築主事建築主事ハ新線架設等ニ從事スルトキハ日々ノ工程及事務ノ大要ヲ摘載シテ每一旬電信局長ニ報告スヘシ
- 第十一條 建築主事建築主事ハ毎月一回其受持部内ヲ巡視シ線路及通信機械電池ノ良否ヲ取査整理スヘシ
- 第十二條 建築主事建築主事ハ工業ニ從事セサルトキハ本居ノ電信分局ニ出勤シテ擔任ノ事務ヲ整理スヘシ但東京大阪兩區ノ如キハ時々各電信分局ヲモ巡視スヘシ
- 第十三條 建築主事ハ區内ノ工程及事務ノ大要ヲ摘載シテ毎半年電信局長ニ報告スヘシ
- 第十四條 建築主事ハ電信線路障害ノ竹木伐採ニ係ルコトヲ逓信管理局長ニ稟申シテ處分スヘシ
- 第十五條 建築主事建築主事ハ電信犯罪ニシテ證據埋滅ノ恐レアル場合ニ於テハ直ニ告訴告發ヲナシ及其事件ニ付損害ノ賠償ヲ要スルモノハ同時ニ附帶ノ私訴ヲナスコトヲ得
- 第十六條 建築主事建築主事ハ電線ノ新架修築トモ尋常ニ異ナル工業ヲ要スルトキハ都テ電信局長ノ指揮ヲ受ケ施行スヘシ

逓信省公達 二十年一月二十五日 第五號 逓信管理局郵便電信局電信建築官
 電信建築官處務規程第三條中左ノ一項ヲ追加ス

電信建築官處務規程中
 改正
 二十年三月逓信省令第一號ニ依リ消滅

八 主管ノ事務ニ付各所ヘ照會往復スル事

逓信省令 二十年三月二十六日 第一號 逓信管理局電信局
 明治十九年八本省令第二十號電信建築官官制明治二十年三月三十一日限廢止ス

逓信省公達 二十年三月二十六日 第五十八號 逓信管理局郵便電信局電信局
 電信建築技術官章程左ノ通相定來四月一日ヨリ施行ス

- 第一條 電信建築ノ工事ヲ掌理スル爲メ各逓信管理局ニ電信建築長一人電信建築主手若干員ヲ置ク
- 第二條 電信建築長電信建築主手ハ技術官ヲ以テ之ニ充ツ
- 第三條 電信建築長ハ逓信管理局長ノ命令監督ヲ承ケ電信建築ノ工事ヲ掌理ス
- 第四條 電信建築主手ハ逓信管理局長ノ命令監督ヲ承ケ電信建築長ノ指揮ニ依リ電信建築ノ工事ニ從フ若シ建築長ナキトキ又ハ建築長事故アルトキハ逓信管理局長ノ命ニ依リ建築長ノ事務ヲ掌理ス

逓信省公達 二十年三月二十六日 第五十九號 逓信管理局郵便電信局電信局
 電信建築技術官執務規程左ノ通相定來四月一日ヨリ施行ス

- 第一條 電信建築長ハ一箇年二回其區内ヲ巡回シ電信線路ノ良否ヲ検査スヘシ
- 第二條 電信建築長建築主手ハ毎月一回其受持部内ヲ巡視シ線路ノ良否ヲ検査シ諸般ノ事務ヲ整理スヘシ
- 第三條 電信建築長建築主手ハ第一第二條ノ場合ヲ除クノ外ハ都テ管理局長ノ認可ヲ得ルニ非レハ其部内ニ出張巡回スルヲ得ス但非常急務ノ場合ニ於テハ此限ニアラス

逓信建築技術官執務規程
 二十年十二月逓信省公達
 第三百三十四號ヲ以テ改
 正

電信建築技術官章程
 定ム
 二十年十二月逓信省公達
 第三百三十三號ヲ以テ改
 正

電信建築官官制ヲ廢ス

逓信省達 第二十四號 逓信管理局長
電信建築工事ノ區畫ヲ
設ケ建築長建築手ヲ配
置ス

第四條 電信建築長工事ニ從事セサルトキハ逓信管理局ニ出頭シ建築手工業ニ從事セサル時ハ本居ノ郵便電信局又ハ電信局ニ出頭シテ擔任ノ事務ヲ整理スヘシ

第五條 電信建築長建築手ハ左ノ條項ニ關シ至急ヲ要スル場合ニ於テハ直ニ大臣ヘ稟申スルヲ得

一 線路不通ノ事

二 線路非常損害ノ事

第六條 電信建築長及建築手執務ノ細則并報告ノ手續ハ逓信管理局長ノ定ムル所ニ依ルヘシ

逓信省達 第二十四號 逓信管理局長

電信建築工事整理ノ爲メ來ル四月一日ヨリ其區ヲ左ノ通り 部ニ分割シ電信建築長又ハ電信建築手ヲ配置スヘシ

但建築各部ノ變更ヲ要スルトキハ事由ヲ具シ其都度伺出ヘシ

東京逓信管理區

第一部	東京府下市街	轉本居 本居	東京
第二部	東京府下新橋間 神奈川縣下浦賀間 小田原間	轉本居 本居	東京
第三部	東京府下兩國間 千葉縣下千葉間	轉本居 本居	東京
第四部	東京府下千住間 栃木縣下宇都宮間 日光間 東京府下上野間 群馬縣下時町間	轉本居 本居	東京
第五部	東京府下新宿間 神奈川縣下八王子間 靜岡縣下沼津間 神奈川縣下小田原間 箱根間 靜岡縣下大場村間	轉本居 本居	東京
第六部	靜岡縣下沼津間 靜岡縣下江尻間 清水間 靜岡縣下袋井間 森町間	轉本居 本居	東京
第七部	靜岡縣下沼津間 靜岡縣下江尻間 清水間 靜岡縣下袋井間 森町間	轉本居 本居	東京
第八部	靜岡縣下沼津間 靜岡縣下江尻間 清水間 靜岡縣下袋井間 森町間	轉本居 本居	東京
第九部	靜岡縣下沼津間 靜岡縣下江尻間 清水間 靜岡縣下袋井間 森町間	轉本居 本居	東京

第十部	栃木縣下宇都宮間 栃木縣下高崎間 群馬縣下小山間	轉本居 本居	宇都宮
第十一部	神奈川縣下八王子間 山梨縣下風來村間	轉本居 本居	宇都宮
第十二部	山梨縣下風來村間	轉本居 本居	宇都宮

大阪逓信管理區

第一部	大阪府下市街	轉本居 本居	大阪
第二部	大阪府下馬場及七條間 京都府下西川町間 和歌山縣下和歌山間	轉本居 本居	大阪
第三部	兵庫縣下梨ヶ原間 兵庫縣下西垂水間 本間	轉本居 本居	大阪
第四部	滋賀縣下大津間 滋賀縣下草津村間 滋賀縣下長濱間 柳ヶ瀬間	轉本居 本居	大阪
第五部	京都府下京間 京都府下出石間 兵庫縣下出石間 兵庫縣下八鹿村間	轉本居 本居	大阪
第六部	兵庫縣下出石間 兵庫縣下八鹿村間	轉本居 本居	大阪
新瀉逓信管理區	新潟縣下新潟間 新潟縣下出雲崎間 新潟縣下長岡間	轉本居 本居	新瀉
第一部	新潟縣下新潟間	轉本居 本居	新瀉
第二部	新潟縣下柏崎間 新潟縣下三條間 新潟縣下小千谷間	轉本居 本居	新瀉
第三部	新潟縣下柏崎間 新潟縣下直江津間	轉本居 本居	新瀉
函館逓信管理區	北海道下函館間 青森縣下一本木村間 青森縣下一本木村間	轉本居 本居	函館
第一部	北海道下函館間	轉本居 本居	函館
第二部	青森縣下一本木村間 青森縣下一本木村間	轉本居 本居	函館
第三部	青森縣下一本木村間 青森縣下一本木村間	轉本居 本居	函館
第四部	青森縣下一本木村間 青森縣下一本木村間	轉本居 本居	函館
第五部	青森縣下一本木村間 青森縣下一本木村間	轉本居 本居	函館
北海道	北海道下室蘭間 北海道下室蘭間	轉本居 本居	札幌
第一部	北海道下室蘭間	轉本居 本居	札幌
第二部	北海道下室蘭間	轉本居 本居	札幌
第三部	北海道下室蘭間	轉本居 本居	札幌
第四部	北海道下室蘭間	轉本居 本居	札幌
第五部	北海道下室蘭間	轉本居 本居	札幌

第六部	北海道小牧間	同	北海道大津間	同	根室間	同	根室
第七部	名古屋遞信管理區	同	愛知縣下名古屋間	同	三重縣下坂下間	同	津
第一節	愛知縣下名古屋間	同	愛知縣下鳴海間	同	三重縣下名古屋間	同	名古屋
第二節	三重縣下坂下間	同	三重縣下名古屋間	同	岐阜縣下岐阜間	同	岐阜
第三節	岐阜縣下岐阜間	同	岐阜縣下岐阜間	同	岐阜縣下岐阜間	同	岐阜
岡山遞信管理區	岡山縣下三石村間	同	岡山縣下真金間	同	岡山縣下子位莊村間	同	岡山
第一節	岡山縣下三石村間	同	岡山縣下真金間	同	岡山縣下子位莊村間	同	岡山
第二節	岡山縣下高屋村間	同	岡山縣下高屋村間	同	岡山縣下高屋村間	同	岡山
赤間關遞信管理區	山口縣下和木村間	同	山口縣下山口間	同	山口縣下山口間	同	赤間關
第一節	山口縣下和木村間	同	山口縣下山口間	同	山口縣下山口間	同	赤間關
第二節	山口縣下和木村間	同	山口縣下山口間	同	山口縣下山口間	同	赤間關
第三節	山口縣下和木村間	同	山口縣下山口間	同	山口縣下山口間	同	赤間關
第四節	山口縣下和木村間	同	山口縣下山口間	同	山口縣下山口間	同	赤間關
松江遞信管理區	鳥取縣下米子間	同	鳥取縣下米子間	同	鳥取縣下米子間	同	松江
第一節	鳥取縣下米子間	同	鳥取縣下米子間	同	鳥取縣下米子間	同	松江
第二節	鳥取縣下米子間	同	鳥取縣下米子間	同	鳥取縣下米子間	同	松江
熊本遞信管理區	熊本縣下井出村間	同	熊本縣下井出村間	同	熊本縣下井出村間	同	熊本
第一節	熊本縣下井出村間	同	熊本縣下井出村間	同	熊本縣下井出村間	同	熊本
第二節	熊本縣下井出村間	同	熊本縣下井出村間	同	熊本縣下井出村間	同	熊本
第三節	熊本縣下井出村間	同	熊本縣下井出村間	同	熊本縣下井出村間	同	熊本
鹿兒島遞信管理區	鹿兒島縣下大口村間	同	鹿兒島縣下大口村間	同	鹿兒島縣下大口村間	同	鹿兒島
第一節	鹿兒島縣下大口村間	同	鹿兒島縣下大口村間	同	鹿兒島縣下大口村間	同	鹿兒島
第二節	鹿兒島縣下大口村間	同	鹿兒島縣下大口村間	同	鹿兒島縣下大口村間	同	鹿兒島
第三節	鹿兒島縣下大口村間	同	鹿兒島縣下大口村間	同	鹿兒島縣下大口村間	同	鹿兒島

丸龜遞信管理區	愛媛縣下今治間	同	愛媛縣下今治間	同	愛媛縣下今治間	同	丸龜
第一節	愛媛縣下今治間	同	愛媛縣下今治間	同	愛媛縣下今治間	同	丸龜
第二節	愛媛縣下今治間	同	愛媛縣下今治間	同	愛媛縣下今治間	同	丸龜
第三節	愛媛縣下今治間	同	愛媛縣下今治間	同	愛媛縣下今治間	同	丸龜
金澤遞信管理區	石川縣下七尾間	同	石川縣下七尾間	同	石川縣下七尾間	同	金澤
第一節	石川縣下七尾間	同	石川縣下七尾間	同	石川縣下七尾間	同	金澤
第二節	石川縣下七尾間	同	石川縣下七尾間	同	石川縣下七尾間	同	金澤
第三節	石川縣下七尾間	同	石川縣下七尾間	同	石川縣下七尾間	同	金澤
長野遞信管理區	長野縣下野尻村間	同	長野縣下野尻村間	同	長野縣下野尻村間	同	長野
第一節	長野縣下野尻村間	同	長野縣下野尻村間	同	長野縣下野尻村間	同	長野
第二節	長野縣下野尻村間	同	長野縣下野尻村間	同	長野縣下野尻村間	同	長野
第三節	長野縣下野尻村間	同	長野縣下野尻村間	同	長野縣下野尻村間	同	長野
福島遞信管理區	福島縣下郡山間	同	福島縣下郡山間	同	福島縣下郡山間	同	福島
第一節	福島縣下郡山間	同	福島縣下郡山間	同	福島縣下郡山間	同	福島
第二節	福島縣下郡山間	同	福島縣下郡山間	同	福島縣下郡山間	同	福島
第三節	福島縣下郡山間	同	福島縣下郡山間	同	福島縣下郡山間	同	福島
仙臺遞信管理區	宮城縣下越前村間	同	宮城縣下越前村間	同	宮城縣下越前村間	同	仙臺
第一節	宮城縣下越前村間	同	宮城縣下越前村間	同	宮城縣下越前村間	同	仙臺
第二節	宮城縣下越前村間	同	宮城縣下越前村間	同	宮城縣下越前村間	同	仙臺
第三節	宮城縣下越前村間	同	宮城縣下越前村間	同	宮城縣下越前村間	同	仙臺
山形遞信管理區	岩手縣下郡山間	同	岩手縣下郡山間	同	岩手縣下郡山間	同	盛岡
第一節	岩手縣下郡山間	同	岩手縣下郡山間	同	岩手縣下郡山間	同	盛岡
第二節	岩手縣下郡山間	同	岩手縣下郡山間	同	岩手縣下郡山間	同	盛岡
第三節	岩手縣下郡山間	同	岩手縣下郡山間	同	岩手縣下郡山間	同	盛岡

- 第一部 福島縣下茂庭村間 山形縣下赤湯間
- 第二部 山形縣下舟形村間 同 小出間
- 第三部 同 山形縣下舟形村間 山形縣下舟形村間
- 同 秋田縣下横手間 秋田縣下横手間
- 同 長走村間

- 建築長直 山形
- 建築本居 酒田
- 建築手 同
- 同 秋田

工夫及工夫兼看守人ハ自今電信建築工夫ト改稱ス

電信建築工夫等級給料規則

遞信省公達 第二十八年七月十一日 遞信省管理局

電信建築工夫等級給料規則左ノ通相定メ十一月一日ヨリ施行ス

但工夫等級及給與規則ハ十月三十一日限り廢止ス

電信建築工夫等級給料規則

第一條 電信建築工夫ノ等級ヲ分チテ五等トシ賃金ヲ本居就業出張就業本居歸著休業日當ノ四種トス其區別左ノ如シ

等級	區別	本居就業賃	出張就業賃	本居歸著就業賃	休業日當
一	等工夫	金四十七錢マテ	金六十五錢ヨリ	金五十二錢五錢マテ	金二十五錢
二	等工夫	金四十五錢マテ	金六十五錢ヨリ	金四十七錢五錢マテ	金二十五錢
三	等工夫	金三十五錢マテ	金六十五錢ヨリ	金四十二錢五錢マテ	金二十五錢
四	等工夫	金二十五錢マテ	金六十錢ヨリ	金三十七錢五錢マテ	金二十五錢
五	等工夫	金十八錢マテ	金五十三錢マテ	金三十錢五錢マテ	金二十五錢

第二條 初メテ採用スル電信建築工夫ノ給料ハ五等工夫給料額ノ範圍内ニ於テ電信建築長之ヲ定メ遞信管理局長ノ認可ヲ承クヘシ

第三條 本居就業賃ハ本居若クハ本居ヘ日歸ノ地ニテ就業スルトキ又出張就業賃ハ一泊以上出張就業スルトキ之ヲ給シ出張先ヨリ本居ヘ歸著ノ日ハ本居歸著就業賃ヲ支給ス

第四條 出張就業賃ハ本居就業賃ニ金二十五錢ヲ加ヘ本居歸著就業賃ハ本居就業賃ニ金十二錢五錢ヲ加ヘ之ヲ支給ス

第五條 本居出張ヲ問ハス夜間就業十二時ヲ過クレハ更ニ其本居賃金ノ一日分ヲ増給ス

第六條 就業中病氣又ハ不得止事故ニヨリ休業ヲ許シタルトキ其賃金ハ午前ニ在テハ本居賃金ノ半額午後ニ在テハ其全額ヲ支給ス

第七條 出張就業賃金ノ割増ハ減給スルノ限ニアラス

第八條 臨時區外出張ヲ命シ旅行スルトキハ其日數ニ應シ本居就業賃ニ定則ノ旅費ヲ併給ス

第九條 但區内ニ在テハ第十條ノ場合及ヒ壹岐對馬往復ノ外旅費ハ給セス

第十條 職務ノ爲メ負傷シ休業治療スルモノハ其時々詮議ノ上其給料ハ本居出張トモ各其就業賃ヲ支給スルコトアルヘシ

第十一條 出張先ニ於テ疾病ニ罹ル者治療三十日以内ハ休業日當トシテ金二十五錢ヲ支給ス

第十二條 前條三十日ヲ經過スルモ尙平癒セサルカ若クハ三十日以内ト雖モ急速平癒ノ見込ナキモノハ定則ノ旅費ヲ給シ本居ニ送還スルコトアルヘシ其病危篤ニシテ送還スルコト能ハサルモノハ更ニ十五日ヲ限リ加療スルヲ許シ休業日當ヲ支給ス

但右十五日ヲ過キ尙其地ニ留リ加療又ハ其本居ニ歸ランコトヲ請フモノハ之ヲ許ス此場合ニ於テハ旅費日當ハ共ニ給セス

第十三條 服務心得第十七條ニ據リ休息スルトキハ其給料ハ本居出張トモ各其就業賃ヲ支給ス

第十四條 電信建築工夫ハ左ニ記載スル年限ヲ超ユルノ後ニアラサレハ昇等又ハ増給スルコトヲ得ス

二十一年五月遞信省公達 第九十四號ヲ以テ第七條但書ヲ改正ス

等級	昇級年限	昇級年限	昇級年限	昇級年限	昇級年限
一等	一年	二年	三年	四年	五年
二等	一年半	二年	二年半	三年	三年半
三等	二年	二年半	三年	三年半	四年
四等	二年半	三年	三年半	四年	四年半
五等	三年	三年半	四年	四年半	五年

第十三條 最高ノ賃金ヲ受クル電信建築工夫ニシテ平素ノ勤向拔群ナルモノハ第一條ノ區別ニ拘ハラズ漸次本居賃金六十錢マテヲ限り増給スルコトヲ得

第十四條 増給及減給ハ其申渡ノ翌日ヨリ之ヲ支給ス

第十五條 電信建築工夫ニシテ止ヲ得サル事故ノ爲メ辭職セシモノヲ再ヒ採用スルトキハ曩ニ業務勉勵ノ者ニ限り前等給料以下ヲ以テ適宜之ヲ定ムルモノトス

第十六條 非常ノ節拔群ノ勞働ヲナシタルトキ若クハ建築工事中特ニ勉勵シタル者ハ二圓以内ノ手當金ヲ支給ス

但本條後段ノ事由ニヨリ支給スルモノハ一工事中一回ヲ超ユヘカラス

第十七條 勤續滿十年以上ノ者免備若クハ病死ノトキハ其年數ニ應シ一時限り左ノ金額ヲ支給ス其不正當ノ所爲ニヨリ免備シタル者ハ之ヲ支給セス

十年以上未滿	二十五年以上未滿	二十年以上以上
金十圓以内	金二十圓以内	金三十圓以内

第十八條 職務ノ爲メ死亡又ハ負傷シタルトキ(前條ノ金額ヲ給シタルトキトモ)ハ官役人夫死傷手當規則ニ照シ相當ノ金額ヲ支給ス

電信建築工夫採用規則
ヲ定ム

逓信省公達 第二十年十月十四日
逓信省管理局

電信建築工夫採用規則左ノ通相定ム

電信建築工夫採用規則

第一條 電信建築工夫ハ電信建築長此ノ規則ニ依リ逓信管理局長ノ認可ヲ受ケ之ヲ採用スルモノトス

第二條 電信建築工夫ニ採用スヘキモノハ左ノ各項ニ合格ノモノニ限ルヘシ

第一項 年齡滿十八歲以上四十歲以下ノ者ニシテ身體強壯不品行ノ所爲コレナキモノ

第二項 一箇年以上電信建築ニ從事シ略ホ建柱架線其他ノ工事ニ慣熟セルモノ

第三項 平易ノ文字ヲ讀ミ且ツ書キ得ルモノ

第四項 第六條ニ該當スル身元引受人アルモノ

第三條 左ノ各項ニ觸ル、モノハ電信建築工夫トナスコトヲ得ス

第一項 重罪及盜罪贓罪詐欺取財ノ罪ニ付刑ニ處セラレタルモノ

第二項 重禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ輕禁錮一箇年以上ノ刑ニ處セラレ刑期ノ終リシ日ヨリ五箇年ヲ經過セサルモノ

第三項 身代限ノ處分ヲ受ケ未タ負債ノ辨償ヲ終ヘサルモノ

第四條 電信建築工夫ハ成ルヘク所轄逓信管理區内又ハ其近傍住居ノ者ヲ採用スヘシ

第五條 電信建築工夫ヲ採用スルトキハ後ニ掲クル書式ニ據リ身元引受人ノ證書ヲ徴スヘシ

第六條 電信建築工夫ノ身元引受人ハ其採用地ニ居住シ丁年以上ニシテ一家ヲ保ツモノニ限ルヘシ

第七條 電信建築工夫ノ身元引受人左ノ各項ニ觸ル、コトアルトキハ之ヲ更定セシムヘシ

第一項 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

第二項 身代限ノ處分ヲ受ケタルトキ

第三項 失踪又ハ死去シタルトキ

第八條 初メテ採用スル電信建築工夫ノ等級ハ五等トス

第九條 電信建築工夫命免ノ辭令書ハ逓信管理局名ヲ以テ之ヲ付與シ請書ヲ徴收スヘシ

(電信建築工夫身元引受證書式)

身元引受證

何府縣何國何郡區町村番地又ハ何番地何某方(同居)戶主
又ハ戶主長次男等
族籍

氏 名 年 齡

證券印紙

右之者電信建築工夫ニ御採用被成下候ニ付テハ私儀身元引人ニ相立本人ヲシテ御規則堅ク相守リ
誠實ニ勤務爲致且ツ本人ニ關スル一切ノ事件ハ自今私ニ於テ引受可申候也

何府縣何國何郡區町村番地住
族籍

身元引人

氏 名印

何地遞信管理區
電信建管長氏名殿

年月日

電信建築工夫服務心得
ヲ定ム

遞信省公達 二十年十月十四日
第二百五十九號 遞信管理局

電信建築工夫服務心得左ノ通相定ム

電信建築工夫服務心得

第一條 電信建築工夫ハ電信建築技術官ノ命ヲ受ケ電線建築ノ工事及線路ノ看守ニ從事スルモノトス
第二條 電信建築工夫ハ常ニ行狀ヲ正シクシ所屬官吏ニ對シ敬恭ヲ加フヘキハ勿論何人ニ對シテモ粗

暴又ハ威權箇間敷行爲ヲナスヘカラス

第三條 電信建築工夫ノ服務年限ハ十八歳ヨリ五十歳迄トス但身體強健ニシテ建築工事ニ耐ルモノハ
尙勤續セシムルコトアルヘシ

第四條 電信建築工夫ニシテ自身病氣又ハ親族病氣看護ノ爲メ一旦免職ヲ請フタル者ノ外本人ノ都合
ニ依リ辭職シタルモノハ滿一年以上ヲ經ルニアラサレハ再勤スルヲ得ス

第五條 電信建築工夫ニシテ重罪ヲ犯シタル者ハ勿論違警罪ト雖モ其所犯ノ種類ニ依リ職務ヲ差免
シタル者ハ再勤ヲ許サス

第六條 電信建築工夫ニシテ線路ノ看守ヲ命セラレタルトキハ其本居ノ住所番地等速ニ建築技術官ヘ
届出ヘシ

第七條 電信建築工夫ハ就業中必ス制服ヲ著スヘシ
但外ニアリテ就業スルトキハ制笠ヲ用ヒ且ツ靴或ハ草鞋ヲ穿ツヘシ

第八條 通常就業時間ハ午前六時ヨリ午後六時迄トス尤工事ノ都合ニ依リ建築技術官ニ於テ之ヲ伸縮
スルコトアルヘシ

第九條 病氣其他不得止事故アリテ就業スルコト能ハサルトキハ其旨速ニ建築技術官ヘ届出ヘシ

第十條 電信建築工夫ノ線路看守持場割ハ線路ノ多少及道路ノ難易ニ依リ五里以外十里以内トシ本居
ノ地ヨリ東西隔日ニ巡回スルモノトス

第十一條 電信建築工夫ヘハ左記ノ器械物品ヲ渡シ置ク故ニ修繕等ニ必要ナルモノハ巡回ノ節必ス携
帶スヘシ

但線路ノ狀況ニ依リ之ヲ増減スルコトアルヘシ

器械

一 道具箱 一 筒 一 鐵槌 一 挺

一 張線器 二 挺 一 鶴嘴 一 挺

但線路ノ狀況ニ依リ之ヲ増減スルコトアルヘシ

器械

一 道具箱

一 張線器

一 筒

二 挺

一 鐵槌

一 挺

官職門

官制

遞信省

- 一 八吋剪線鉸 一挺
- 一 燒鍍 一挺
- 一 火壺 一箇
- 一 地堅メ 一箇
- 一 圓頭錘 一挺
- 一 兩頭螺旋回 一挺
- 一 竹梯子 一脚

物品

- 一 八番鐵線 十貫目
- 一 通常碍子 二十箇
- 一 大腕木 十本
- 一 八吋腕木真棒 五本
- 一 十二吋支柱真棒 五本
- 一 錫鐵 百二十目
- 一 鹽化暗尼亞 十匁
- 一 十六番鐵線 百目
- 一 茶壺碍子 五箇
- 一 小腕木 十本
- 一 九吋腕木真棒 五本
- 一 稀鹽酸 一磅
- 一 護謨線 二十碼

第十二條 電信建築工夫線路巡回ノ節ハ腕木碍子并線條ノ繼目等ニ注意シ若シ損所アル時ハ之ヲ修理シ且ツ紙窩樹枝蛛網其他雜物ノ線條或ハ碍子ニ纏繞スルヲ發見セハ直ニ之ヲ除去シ又電柱ノ腐朽其他ノ爲メニ危險ノ恐レアルモノヲ見當リタルトキハ速ニ建築技術官ヘ届出ヘシ

第十三條 電信建築工夫ハ線路ノ損所ヲ修繕セシトキハ其模様及時刻ヲ記載シ速ニ建築技術官ヘ届出ヘシ

第十四條 電信建築工夫ハ線路非常ノ損害ニ罹リタルトキハ直ニ之レカ假修繕ニ著手シ同時ニ其旨ヲ建築技術官ニ届出ヘシ

但此場合ニ於テハ一時人夫ヲ備役スルコトヲ得

第十五條 電信建築工夫ハ線路巡回并建築ニ從事シタル事柄ヲ一句毎ニ就業屆書ニ記載シ建築技術官ヘ差出スヘシ

第十六條 電信建築用器械物品ハ總テ大切ニ之ヲ取扱ヒ且ツ尋常保守用トシテ預リ置キタルモノハ本居ノ地ニ於テ濕氣ナキ場所ヲ選ビ之ヲ貯藏スヘシ

第十七條 電信建築工夫ハ看守中大祭日并日曜日ニ當リ天氣平穩且線路ニ異狀ナキトキハ建築技術官ノ許可ヲ得テ休息スルコトヲ得

第十八條 前條件外ノ事ハ其時々建築技術官ノ指揮ヲ受クルモノトス

第十九條 電信建築工夫ハ左ニ記載シタル所爲アリト認ムルトキハ其職務ヲ免ス

一 輕罪以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二 服務心得ニ背キ建築技術官ノ命ニ從ハサルトキ

第二十條 電信建築工夫ハ左ニ記載スル所爲アリト認ムルトキハ其情狀ノ輕重ニ據リ降等又ハ減給ヲ命ス

一 線路不通原因ヲ見落シタルトキ

二 服務心得ニ違背スト雖モ前條第二項ニ比シ輕キモノ

三 品行正シカラサルモノ

第二十一條 電信建築工夫前條ニ記載スル所爲アリト雖モ其情狀ノ最モ輕キモノハ本居就業賃二分ノ一ヲ減シ之ヲ罰使ス

第二十二條 不注意ノ爲メ建築器械物品ヲ破損シ又ハ遺失シタルモノハ其價格ヲ辨償セシム

明治 年 區	間線就業屆書	等工夫
月 旬 部		
備	此屆書ニハ毎日巡回又ハ建築ニ從事シタル時刻ト其持場線路總體ノ模様及碍子腕木笠木等ノ毀損シタルモノヲ取替ヘタル員數并ニ其電柱ノ番號地名等ヲ明ニ記載スヘシ又時ニ依リ線路ノ爲メ便利ト認ムルコト	

考	アラハ其見込ヲ書載スヘシ	日	晴	雨	始業時刻	終業時刻	施業地名	記	事
事	記	(此ニハ右記事欄内ノ事柄ニシテ建築ニ係ルモノハ無漏之ヲ合載スヘシ)							
此届書ハ一句毎ニ其持場建築官ヘ宛テ差出スヘシ									

電信建築技術官章程ヲ改ム

遞信省公達 第三十三號 遞信管理局郵便電信局電信局
電信建築技術官章程左ノ通改正ス

電信建築技術官章程

- 第一條 電信建築ノ工事ヲ掌理スル爲メ各遞信管理局ニ電信建築長一人電信建築手若干員ヲ置ク
- 第二條 電信建築長電信建築手ハ技術官ヲ以テ之ニ充ツ
- 第三條 電信建築長ハ遞信管理局長ノ命令監督ヲ承ケ電信建築ノ工事ヲ掌理ス
- 第四條 電信建築手ハ電信建築長ノ指揮ニ依リ其遞信管理區内一部ノ電信建築工事ニ從ヒ兼テ其部内郵便電信局電信局電機裝置ノ事ヲ視察シ又ハ時宜ニ依リ同局長ト協議ノ上之ヲ掌理ス

遞信省公達 第三十三號 遞信管理局郵便電信局電信局
電信建築技術官章程ヲ改ム

遞信省公達 第三十三號 遞信管理局郵便電信局電信局
電信建築技術官執務規程左ノ通改正ス

電信建築技術官執務規程

- 第一條 電信建築長ハ一箇年二回其遞信管理區内ヲ巡回シ電信線路及郵便電信局電信局電機裝置ノ良否ヲ検査スヘシ
- 第二條 電信建築手ハ毎月一回其部内ヲ巡視シ電信線路及郵便電信局電信局電機裝置ノ良否ヲ検査スヘシ
- 第三條 電信建築長建築手ハ第一條第二條ニ定ムルモノ、外ハ都テ管理局長ノ認可ヲ得ルニ非レハ出張巡回スルヲ得ス但非常急務ノ場合ニ於テハ此限ニアラス
- 第四條 電信建築手ノ從事セサル時ハ本居ノ遞信管理局郵便電信局又ハ電信局ニ出勤シテ擔任ノ事務ヲ整理スヘシ
- 第五條 電信建築長建築手ハ左ノ條項ニシテ至急ヲ要スルモノハ電報ヲ以テ直ニ本省工務局ニ報告スヘシ
- 一 線路不通ニ關スル事
- 二 線路非常損害ニ關スル事
- 第六條 電信建築長及建築手執務ノ細則ハ遞信管理局長ノ定ムル所ニ依ルヘシ

貯金取扱人ヲ貯金主務ト稱ス

驛遞局達 甲十九年三月二十二日 貯金預所
貯金取扱人名稱ノ儀ハ自今貯金主務ト相稱スヘシ

大阪赤間關ニ驛遞局貯金課出張所ヲ置ク

二十年三月勅令第四號ヲ以テ遞信省官制改正ニ依リ消滅ス同月遞信省告示第三十七號ヲ以テ大阪及赤間關ニ爲替貯金局出張所ヲ設ク

遞信省令 第十九年 四月二十六日

大阪赤間關ニ驛遞局第四部貯金課出張所ヲ置キ貯金出納及計算ノ事務ヲ分掌セシム
但各出張所受持區域ハ左ノ通

- 大阪貯金課出張所受持區域
- 大阪遞信管理區
- 岡山遞信管理區
- 松江遞信管理區
- 丸龜遞信管理區
- 金澤遞信管理區
- 赤間關貯金課出張所受持區域
- 赤間關遞信管理區
- 熊本遞信管理區

遞信省公達 第十九年 四月二十六日 郵便局驛遞貯金預所

驛遞局第四部貯金課出張所事務規程左ノ通之ヲ定ム

驛遞局第四部貯金課出張所事務規程

- 第一條 出張所ハ其受持區域内ニ係ル貯金出納及計算ノ事務ヲ掌理ス
- 第二條 出張所ニ所長一人所員若干ヲ置ク

貯金課出張所事務規程ヲ定ム

二十年三月勅令第四號並價目官制ニ依リ消滅ス

第三條 出張所長ハ主管事務ノ整理所員ノ勤惰監視上渾テ其責ニ任ス
第四條 出張所長ハ左ノ條件ハ之ヲ專行シ其他ハ第四部長ヲ經テ驛遞局長ニ具申シ指揮ヲ請フヘシ

- 第一 所員ノ進退ヲ具狀シ月給十圓日給四十錢以下ノ傭員ヲ進退スル事
- 第二 所員ノ事務分掌ヲ指定スル事
- 第三 所員ノ歸省願ヲ許否シ及除服出仕ヲ命スル事
- 第四 主管ノ事務ニ付各所ニ照會往復スル事
- 第五 貯金ヲ原簿ニ登記スル事
- 第六 貯金利子ヲ付スル事
- 第七 貯金通帳ニ利子ヲ記入スル事
- 第八 貯金領收通知書ヲ發スル事
- 第九 管理局其他ト貯金ヲ受授スル事
- 第十 貯金拂戻證書ヲ發スル事
- 第十一 貯金再度通帳ヲ交付スル事
- 第十二 貯金申告書ヲ調査シ再度通知書ヲ發スル事
- 第五條 第四條第一項末節及第三項ハ施行ノ後第四部長ヲ經テ驛遞局長ニ具申スヘシ
- 第六條 貯金課出張所ニ左ノ四掛ヲ置ク
庶務掛 記簿掛 預所掛 照査掛
- 第七條 庶務掛ハ貯金收支所費支辨文書物品受授其他各掛ニ屬セサル事務ヲ掌理ス
- 第八條 記簿掛ハ貯金原簿登記貯金領收通知書貯金拂戻證書發行貯金利子計算及貯金通帳ニ關スル事務ヲ掌理ス
- 第九條 預所掛ハ貯金預所ノ貯金計算ニ關スル事務ヲ掌理ス

第十條 照査掛ハ貯金收支及計算檢査ノ事ヲ掌理ス

逓信省公達 第十九號 逓信省管理局郵便局驛遞貯金預所

驛遞貯金預所規程左ノ通之ヲ定ム

驛遞貯金預所規程

第一條 驛遞貯金預所ニ取扱人ヲ置ク

第二條 驛遞貯金預所取扱人ハ成規ニ從ヒ左ノ事務ヲ取扱フヘシ

一 貯金ヲ預ル事

二 貯金ヲ拂渡ス事

郵便局長職務規程制定
ニ付貯金事務取扱方

逓信省公達 第十九號 逓信省管理局郵便局(貯金ヲ取扱ハサ)
公達第二號ヲ以テ郵便局長職務規程相定メ候ニ付テハ自今貯金ニ關スル事務ハ其郵便局各又ハ郵便局
長名ヲ以テ取扱フヘシ

特ニ指定スル一等二等
郵便局長ニ爲替事務ヲ
取扱セシム

逓信省公達 第十九號 逓信省管理局郵便局
特ニ指定スル一等二等郵便局長ヲシテ左ノ事務ヲ取扱ハシム

一 爲替過超金ヲ領收シ驛遞局ヘ廻納スル事

一 爲替資金ヲ郵便局ニ廻付スル事

爲替事務ヲ取扱ハシム
ル郵便局及區域ヲ定ム

逓信省公達 第十九號 逓信省管理局郵便局
爲替過超金領收及資金廻付等ノ事務ヲ取扱ハシムル郵便局及其取扱區域左ノ通之ヲ定ム

二等郵便局	取扱區域	一等郵便局	取扱區域
長野野	長野縣下	高知	高知縣下
高崎	群馬縣下	廣島	廣島縣下
和歌山	和歌山縣下	秋田	秋田縣下
津	三重縣下	青森	青森縣下
長崎	長崎佐賀兩縣下	札幌	北海道本廳管下
大分	大分縣下	根室	北海道根室支廳管下
鹿児島	鹿児島宮崎兩縣下	福井	福井縣下
松山	愛媛縣下ノ内伊豫國	富山	富山縣下

逓信管理局爲替事務取
扱規定ヲ定ム

逓信省公達 第十九號 逓信省管理局
逓信管理局爲替事務取扱規定左ノ通之ヲ定ム

但本達ニ抵觸スル驛遞局從前ノ達及指令ハ廢止ス

第一條 爲替計算ノ査閱及爲替資金ノ運轉ハ此規程ニ依リ處理スヘシ

第二條 管理局ニハ左ノ帳簿及計表ヲ備フルモノトス但帳簿計表ノ式ハ驛遞局ノ定ムル所ニ依ルヘシ

一 爲替原簿(號)

一 現金受拂簿(號)

一 爲替資金受拂日報(號)

一 爲替資金受拂月報(號)

一 郵便局爲替金受拂計表(第二)

一 爲替金結算報告表(第三)

第三條 郵便局爲替金ノ出納ハ諸受入及諸拂出金届書(ハ號及)其他之ニ付帶スル左ノ證據書ニ照シ其當否ヲ查閱スヘシ但證據書ニ不完全ノモノアルトキハ速ニ之ヲ匡正セシメ又届書ニ誤謬アルトキハ各證據書ニ因リ更訂シテ其由ヲ郵便局ニ通知スヘシ

一 爲替願書(イ號甲)

一 小爲替元符(部甲)

一 振替爲替依頼書(號)

一 各爲替拂濟證書(號甲乙丙)

一 振替爲替拂濟證書(號)

一 爲替資金出納證明書(號)

一 端金拂渡届書(號)

第四條 爲替原簿ハ諸受拂金届書ニ據リ每局各別ニ其受拂金(若レ證據書匡正セシムル場合ニ於テ)式ノ如ク記載スヘシ但原簿月日ノ欄ハ諸受拂金届書ノ月日ヲ記入スヘシ

第五條 郵便局爲替金受拂計表ハ爲替原簿ニ據リ式ノ如ク調製シ諸證據書ヲ添へ驛遞局ニ移送スヘシ但證據書匡正等ノ爲メ添付シ能ハサルモノアルトキハ其事由書ヲ付スヘシ

第六條 受拂計表ハ郵便局現出納ノ月ニ區別シ各別ニ製表スヘシ

第七條 郵便局爲替金ノ出納ヲ查閱シ爲替金受拂計表ヲ調製發送スルノ期限ハ三日以内トス

第八條 爲替原簿ハ郵便局現出納ノ月ニ區別リ結算シ式ノ如ク爲替金結算報告表ヲ調製スヘシ

第九條 郵便局爲替金精算表及立替金日計表ハ爲替原簿ニ照シ其當否ヲ查閱シ結算報告表ト共ニ驛遞局ヘ移送スヘシ

十九年十月遞信省公達第
八十三號ヲ以テ第八條第
九條ヲ改メ第九條ノ次ニ
一條ヲ加ヘ第十條トス以
下之ニ準シ改ム

第十條 爲替資金ノ出納ハ現金受拂簿ニ式ノ如ク登記シ即日爲替資金受拂日報ヲ以テ驛遞局ニ其出納ヲ報告スヘシ

第十一條 爲替資金出納ハ毎月之ヲ精算シ爲替資金受拂月報ヲ製シ翌月三日限驛遞局ヘ差出スヘシ

第十二條 公達第十九號ヲ以テ指定シタル一等二等郵便局爲替資金ノ出納ハ爲替資金受拂日報及資金請求書過超金納付證ニ照ラシ其當否ヲ查閱スヘシ但資金請求若クハ過超金納付額ノ當否ハ爲替原簿ニ據リ照查スヘシ

第十三條 前條ノ一等二等郵便局爲替資金ノ出納ハ郵便局爲替金受拂計表中資金受拂ノ欄ニ記入スヘシ但一等二等郵便局ヨリ差出シタル爲替資金受拂日報ヲ添付スヘシ

第十四條 郵便局爲替資金ノ過超ハ毎月十五日及月末日ヲ區別リ廻納セシメ又便宜其上納額ヲ定メテ臨時ニ廻納ヲ命スヘシ

第十五條 郵便局爲替資金ノ缺乏ハ補充金請求ニ應シ又ハ爲替原簿差引現在高額ト需用ノ實況ヲ量定シ便宜之ヲ補充スヘシ

第十六條 爲替資金ハ郵便局資金補充ニ須要ノ額ヲ除キ過剩ハ驛遞局長ノ指定スル金額ニ充ツルヲ定度トシ同局ニ之ヲ廻納シ又缺乏ノトキハ驛遞局ヘ廻金ヲ請求スヘシ但資金ノ缺乏ハ其緩急ニ隨ヒ電報ヲ以テ請求スルヲ得

第十七條 驛遞局ヘ廻納金ハ國庫金取扱所ニ交付シ該金ニ對スル納付證ヲ受ケ直ニ其金額ヲ同局及大藏省出納局ヘ電報シ納付證ハ即日驛遞局ヘ送致スヘシ但電報ノ書式ハ驛遞局長ノ通知スル所ニ依ル

第十八條 管理局及郵便局ノ間ニ爲替資金ヲ受授スル手續ハ明治十七年六月驛遞局已第十七號達及十八

年九月甲第二百十四號達爲替資金及過超金廻送順序ニ依ルヘシ

第十九條 公達第十九號ヲ以テ定メタル區内郵便局ノ過超金ヲ臨時廻納セシメ又ハ補充金ヲ臨時廻付セ

ントストキハ其區域ニ從ヒ一等又ハ二等郵便局ニ通牒シテ之ヲ執行スヘシ

ハシ

ハシ

ハシ

ハシ

ハシ

ハシ

ハシ

ハシ

ハシ

一等二等郵便局長ニ於テ處理スル爲替事務取扱規定ヲ定ム

逓信省公達 第十九年六月二十一日 公達第十八號及第十九號ニ據リ一等二等郵便局長ニ於テ處理スル爲替過超金領收及資金廻付等ノ事務取扱規定左ノ通之ヲ定ム

第一條 郵便局ニハ特ニ左ノ帳簿及計表ヲ設ケ爲替金出納帳(ア)及爲替資金出納證明書(イ)ニ換供スルモノトス

一 現金受拂簿(ウ)

一 爲替資金受拂日報(エ)

第二條 爲替資金ノ出納ハ現金受拂簿ニ式ノ如ク記載シ即日爲替資金受拂日報ヲ以テ所轄逓信管理局ヲ經由驛遞局ヘ之ヲ報告スヘシ但資金出納ハ爲替金精算表(オ)中資金受拂ノ欄ニ記入スルモノトス

第三條 區内郵便局過超金領收ニ係ルモノハ納金書又資金廻付ニ係ルモノハ補充金請求書ヲ爲替資金受拂日報ニ添付スヘシ但第六條ノ場合ハ此限ニアラス

第四條 公達第二十八號逓信管理局爲替事務取扱規定第十四條乃至第十八條ノ條規ハ此規定ニモ亦之ヲ適用ス但資金缺乏ノ場合ニ於テハ所轄逓信管理局ニ補充金ヲ請求スルモノトス

第五條 郵便局過超金ノ臨時廻納若クハ補充金ノ臨時廻付ハ所轄逓信管理局ノ通牒ニ依リ執行スヘシ

逓信省公達 第十九年三月十二日 公達第二十八號爲替事務取扱規定第八條及第九條ヲ左ノ通改定シ第九條ノ次ハ一條ヲ加ヘ第十條トス以下之ニ準シ改ム

第八條 爲替原簿ハ郵便局現出納ノ月ニ區切り結算シ式ノ如ク爲替金結算報告表ヲ調製翌月十日限驛遞局ヘ差出スヘシ

第九條 郵便局爲替金精算表及立替金日計表ハ爲替原簿ニ照シ三日以内ニ其當否ヲ査閲シ驛遞局ニ之

逓信管理局爲替事務取扱規定中改正

大阪及赤間關ニ爲替貯金局出張所ヲ設ク

逓信省告示 第三十七號 來四月一日ヨリ大阪及赤間關ニ爲替貯金局出張所ヲ置キ貯金出納及計算ノ事務ヲ分掌セシム

逓信省告示 第三十八號 爲替貯金局出張所受持區域左ノ通之ヲ定ム

- 大阪爲替貯金局出張所受持區域
- 大阪逓信管理區
- 丸龜逓信管理區
- 赤間關爲替貯金局出張所受持區域
- 赤間關逓信管理區
- 岡山逓信管理區
- 金澤逓信管理區
- 熊本逓信管理區
- 松江逓信管理區

逓信省告示 第六十二號 驛遞貯金預所ノ名稱ハ郵便貯金預所ト改ム

逓信省公達 第六十三號 爲替貯金局出張所處務章程左ノ通之ヲ定ム

爲替貯金局出張所處務章程

第一條 出張所ニ所長一人所員若干員ヲ置ク

爲替貯金局出張所處務章程

驛遞貯金預所ノ郵便貯金預所ト改稱ス

大阪及赤間關爲替貯金局出張所受持區域ヲ定ム

ヲ移送スヘシ

第十條 郵便局爲替金精算表ハ毎月十日及二十五日ヲ限リ特ニ其前半期ニ係ル精算表ノ調査濟否ヲ審查シ同日迄ニ驛遞局ニ移送シ能ハサルモノアルトキハ即日其局名及事由ヲ同局長ニ報告スヘシ

- 第二條 出張所長ハ主管事務ノ整理所員ノ勤惰監視上渾テ其責ニ任ス
- 第三條 出張所長ハ左ノ條件ハ之ヲ專行シ其他ハ爲替貯金局長ニ具申スヘシ
 - 一 月給十圓日給四十錢以下ノ備員ヲ進退スル事
 - 二 係長ノ外所員ノ事務分掌ヲ指定スル事
 - 三 所員ノ歸省願ヲ許否シ及除服出仕ヲ命スル事
 - 四 貯金ヲ帳簿ニ登記スル事
 - 五 貯金ニ利子ヲ付スル事
 - 六 貯金領收通知書ヲ發スル事
 - 七 貯金拂戻證書ヲ發スル事
 - 八 振替爲替證書ヲ發スル事
 - 九 管理局其他ト貯金ヲ受投スル事
 - 十 爲替差繼金ヲ決算スル事
 - 十一 貯金通帳ヲ檢査シ利子ヲ記入スル事
 - 十二 再度通帳ヲ下付スル事
 - 十三 申告書ニ關スル取調ノ事
 - 十四 爲替證書用紙及貯金通帳ヲ支給スル事
 - 十五 右ノ外成規命令アル事件ヲ執行スル事
- 第四條 第三條第一項及第三項ハ施行ノ後直ニ爲替貯金局長ニ具申スヘシ
- 第五條 第三條第一項及第三項ノ外專行事務及其他重要ノ件ハ毎月爲替貯金局長ニ報告スヘシ

遞信省公達 第七十二年四月十六日 遞信省管理局郵便電信局郵便局爲替ヲ取扱ハサル局ヲ除ク
 來ル五月一日ヨリ大阪及赤間關爲替貯金局兩出張所ニ於テモ爲替貯金ニ係ル振替爲替受拂事務ヲ取扱

大阪及赤間關爲替貯金局出張所ニ爲替貯金ニ係ル振替爲替受拂事務ヲ取扱ハシム

ハシム
 遞信省公達 第七十二年四月十六日 遞信省管理局郵便電信局郵便局爲替ヲ取扱ハサル局ヲ除ク
 爲替貯金局及其出張所ニ於テ振替爲替受拂事務取扱フニ付テハ貯金納付ニ係ル振替爲替證書拂渡局ハ爲替貯金局又ハ其出張所ニ宛ツヘシ

郵便局	郵便電信局	取扱區域	郵便電信局	取扱區域
長野縣	野長縣	下	山愛媛縣	下ノ内伊豫國
高野縣	野長縣	下	山德島縣	下
和歌山縣	和歌山縣	下	岡岩手縣	下
津重縣	三重縣	下	知手縣	下
長崎縣	長崎縣	下	廣高縣	下
大分縣	大分縣	下	島知縣	下
鹿兒島縣	鹿兒島縣	下	田島縣	下
根室	幌石	根室、釧路	森田縣	下
	幌石、後志、膽振、日高		青森縣	下
			井山縣	下
			富山縣	下

遞信省公達 第七十二年五月十六日 遞信省管理局郵便電信局郵便局爲替貯金預所
 貯金納付金并ニ拂戻資金廻送等ノ事務ヲ取扱ハシムル郵便電信局郵便局及其取扱區域左ノ通之ヲ定ム
 東京遞信管理區內群馬縣下郵便局貯金納付金并拂戻資金廻送ノ事務ハ來ル十一月十六日ヨリ前橋郵便電信局ニ於テ取扱ハシメ同日ヨリ高崎郵便局ノ該事務取扱ヲ廢止ス

在滿洲朝鮮國郵便電信局等ノ貯金事務處理方

遞信省公達 第七十二年五月十六日 遞信省管理局郵便電信局郵便局爲替貯金預所貯金ヲ取扱ハサル局

左記郵便電信局郵便局ニ屬スル貯金事務ハ明治二十一年一月以後赤間關爲替貯金局出張所ニ於テ受持
區内同様之ヲ掌理ス

清國上海 朝鮮國元山津 朝鮮國釜山 朝鮮國仁川

司檢官職制

二十年三月勅令第四號ヲ以テ遞信省官制ヲ改メ司檢官職制ハ此ニ據スル所ト同シ

勅令節錄 第十九年二月二十六日(全文ハ官等職制ニ據ス)
第九條 遞信省ニ司檢官十人及司檢官補若干員ヲ置ク

司檢官ハ奏任トス管船局ニ屬シテ海員及水先人ノ試験審問船船檢査測量及新造工事ノ監督ヲ掌ル
司檢官補ハ判任トス司檢官ノ事務ヲ佐ク

遞信省告示 第十九年三月十三日

東京大阪函館神戸船船檢査所及大阪海員試驗所ヲ司檢所ト改稱ス
前記司檢所ニ於テ取扱フ所ノ事務ハ左ノ如シ

東京司檢所ニ於テハ

一 海員技術試驗

一 船船檢査

一 水先人試驗

大阪及函館司檢所ニ於テハ

一 海員技術試驗

一 船船檢査

一 水先人試驗

神戸司檢所ニ於テハ

一 船船檢査

一 水先人試驗

右告示ス

管船局所管司檢所事務章程

遞信省達 第十九年四月二十日

其局所管司檢所事務章程別紙ノ通之ヲ定ム

但東京司檢所ニ限リ章程第六條第八號ハ本省各局分掌事務節目ニ依ル
遞信省達 第十九年四月二十日

管船局所管司檢所事務章程別紙ノ通相定候條此旨相心得ヘシ

司檢所事務章程

第一條 司檢所ハ海員、水先人ノ試験及ヒ審問、船船及船用器具檢査、船船積量測定、新造船工事監督ヲ掌ル所トス但大阪及函館司檢所ハ水先人試験神戸司檢所ハ海員技術試験ヲ掌理セサルモノトス

第二條 所長ハ前條ニ掲クル事務其他臨時管船局長ノ命スル事務ノ整理及所員ノ勤惰監視上都テ其責ニ任ス

第三條 所長ハ所員ノ職務ヲ指定シ其進退ヲ管船局長ニ具狀スルコトヲ得

第四條 審問、檢査、測定ニ關シ所員互ニ意見ヲ異ニスルトキハ所長之ヲ決定スルコトヲ得
但事重大ニ涉ルモノハ管船局長ノ指揮ヲ得テ後之ヲ決定スヘシ

第五條 所長ハ其主管ノ事務下調ニ關シ各所ニ照會往復スルコトヲ得但事重要ニ涉ルモノハ管船局長ノ指揮ヲ得テ後執行スヘシ

第六條 所長ハ其所經費ノ豫算額ニ超過セサル様注意スヘシ

第七條 所長ハ其所物品保管ノ責ニ任ス

第八條 所長ハ其所經費定額内ニ於テ月額五圓ヲ限リ小使二名以下給仕一名及日給二十五錢以下ノ臨時雇員ヲ十日間以内命免スルコトヲ得其雇員ノ命免ハ翌月一日ヲ期シ管船局長ニ報告スヘシ

第九條 所長事故アルトキハ次席ノ者其事務ヲ代理スルコトヲ得

遞信省告示 第十九年四月二十二日

函館司檢所ニ於テ來ル五月以後毎月第一水曜日ヲ以海員(内國人ニ限リ)技術試験執行ス志願ノ者ハ明治十四年十二月第一號布達西洋形船船長運轉手機關手試験規程ニ依リ同所へ出願スヘシ
右告示ス

函館司檢所ニ於テ毎月内國人海員試験ヲ執行ス

長崎司檢所ヲ閉ク

遞信省告示 第二十一年四月二十二日

肥前國長崎へ司檢所ヲ設置シ左ノ事務ヲ取扱ハシム但開廳ノ日限ハ追テ告示ス

一海員技術試驗

神戸司檢所ヲ閉ク

遞信省告示 第二十一年八月十二日

神戸司檢所本月三十日限り閉止シ同所事務ハ大阪司檢所ニ於テ取扱ハシム

函館司檢所移轉

遞信省告示 第二十一年八月二十二日

函館司檢所本日函館區船見町四十九番地へ移轉ス

長崎司檢所開廳

遞信省告示 第二十一年十月四日

長崎司檢所本月十五日ヨリ開廳ス

長崎司檢所ニ於テ毎月
内國人海員試驗ヲ執行
ス

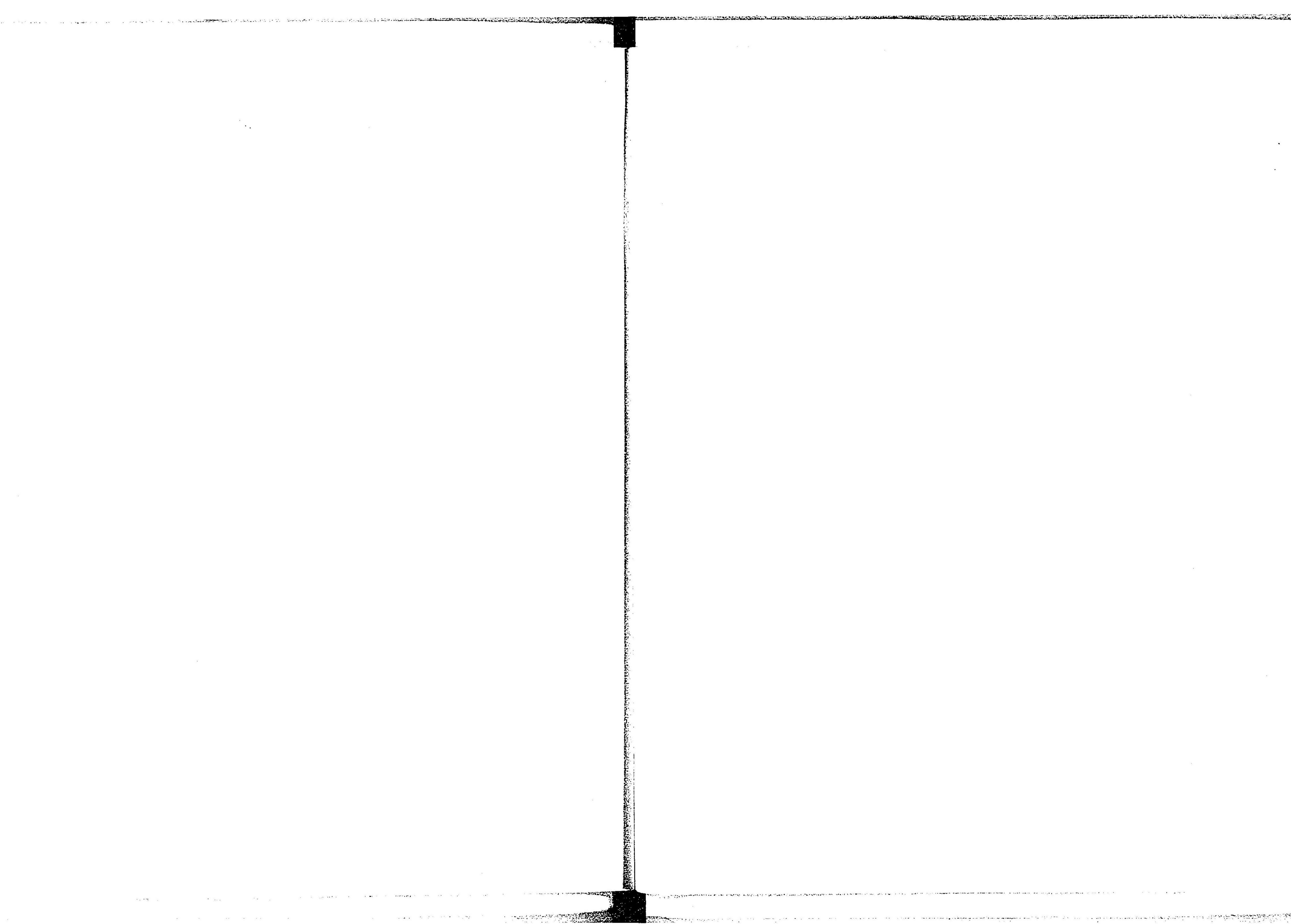
遞信省告示 第二十一年十月十八日

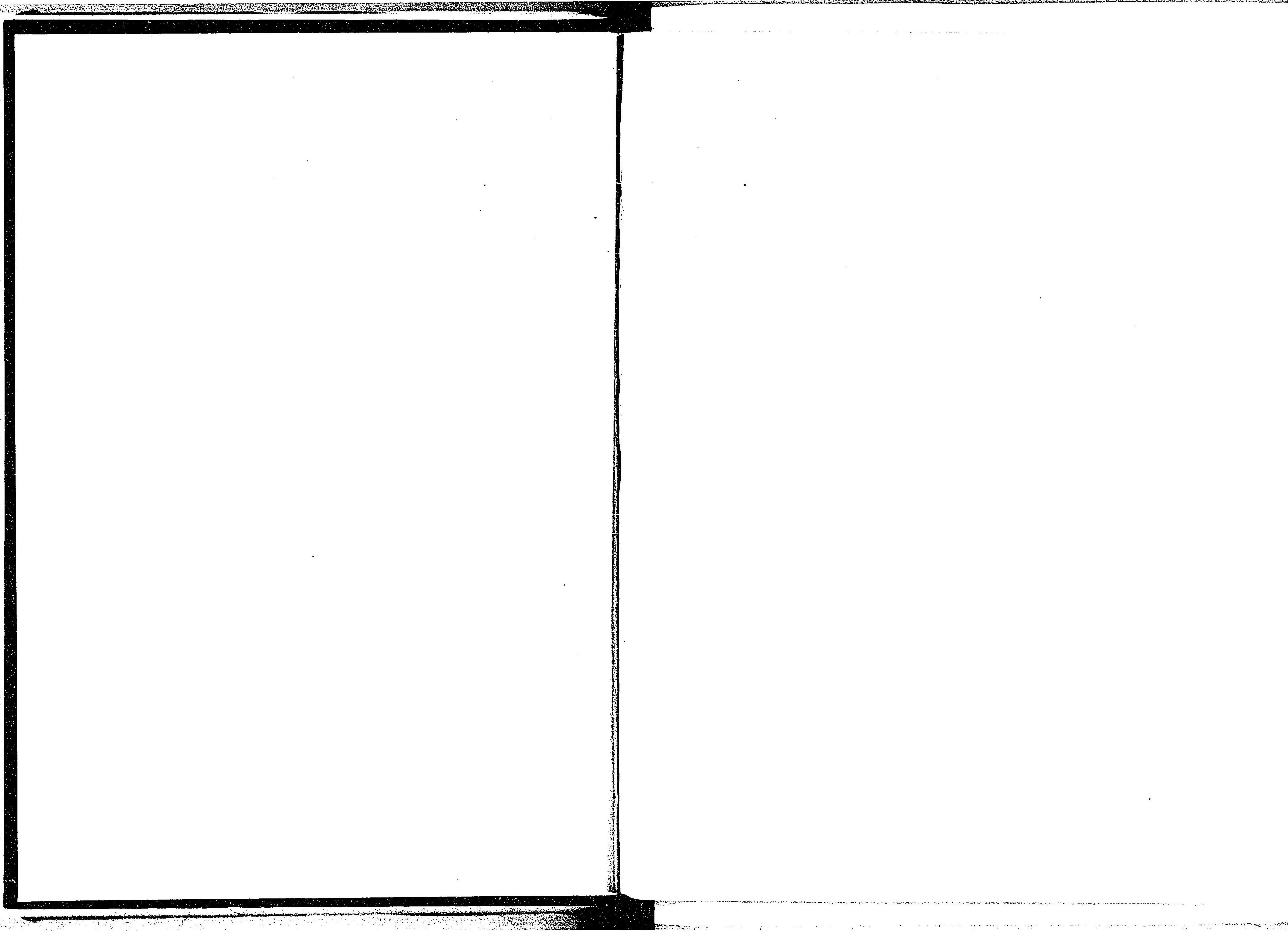
長崎司檢所ニ於テ來ル十一月以後毎月第一水曜日ヲ以テ海員(内國人ニ限ル)技術試驗執行ス志願ノ者ハ明治十四年十二月第一號布達西洋形船船長運轉手機關手試驗規程ニ依リ同所ニ出願スヘシ

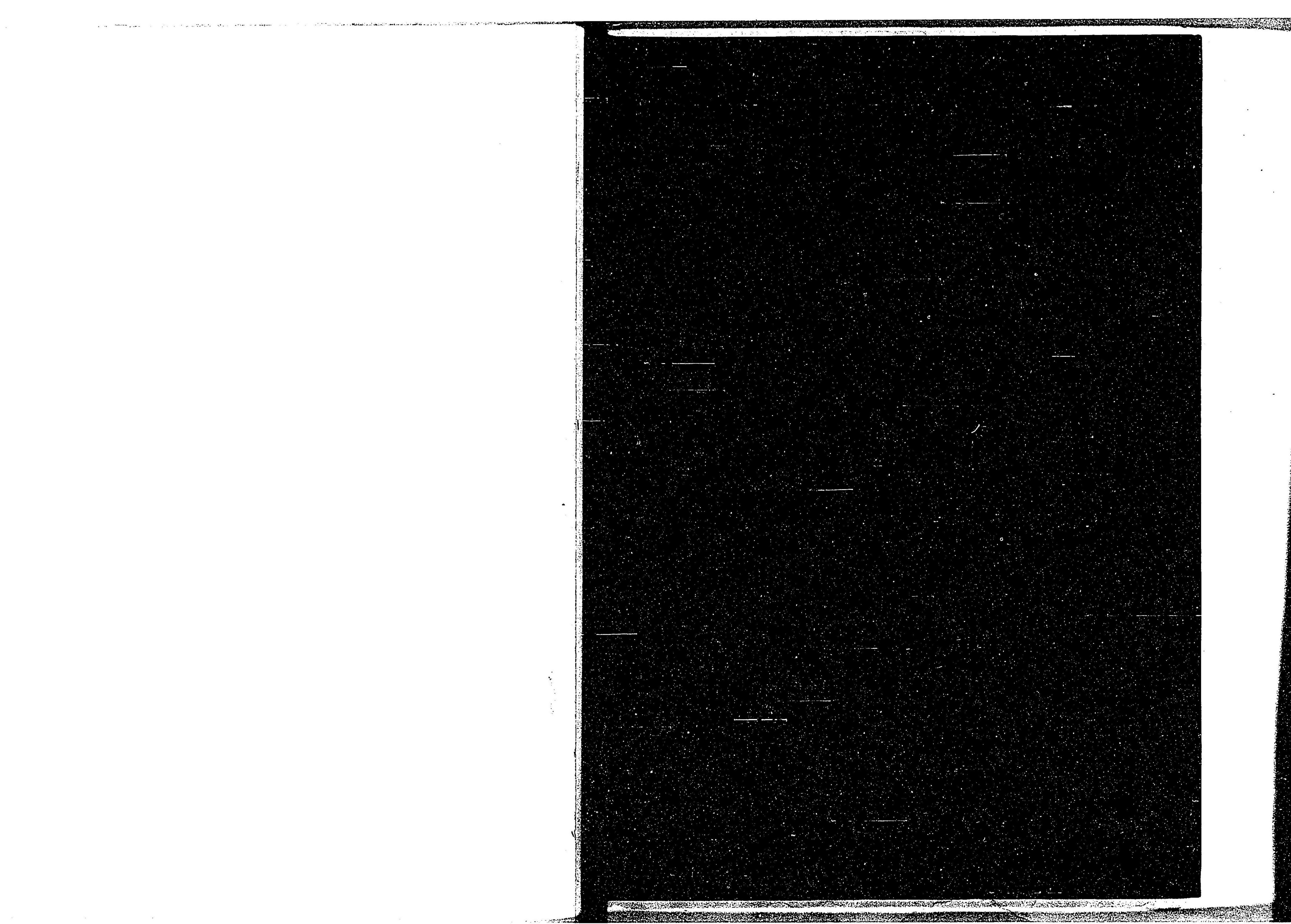
明治二十四年四月二十八日印刷

内閣記録局編輯

27-2







031114-018-0

CZ-3-12

法規分類大全

内閣記録局

M22-24

BBC-0858



